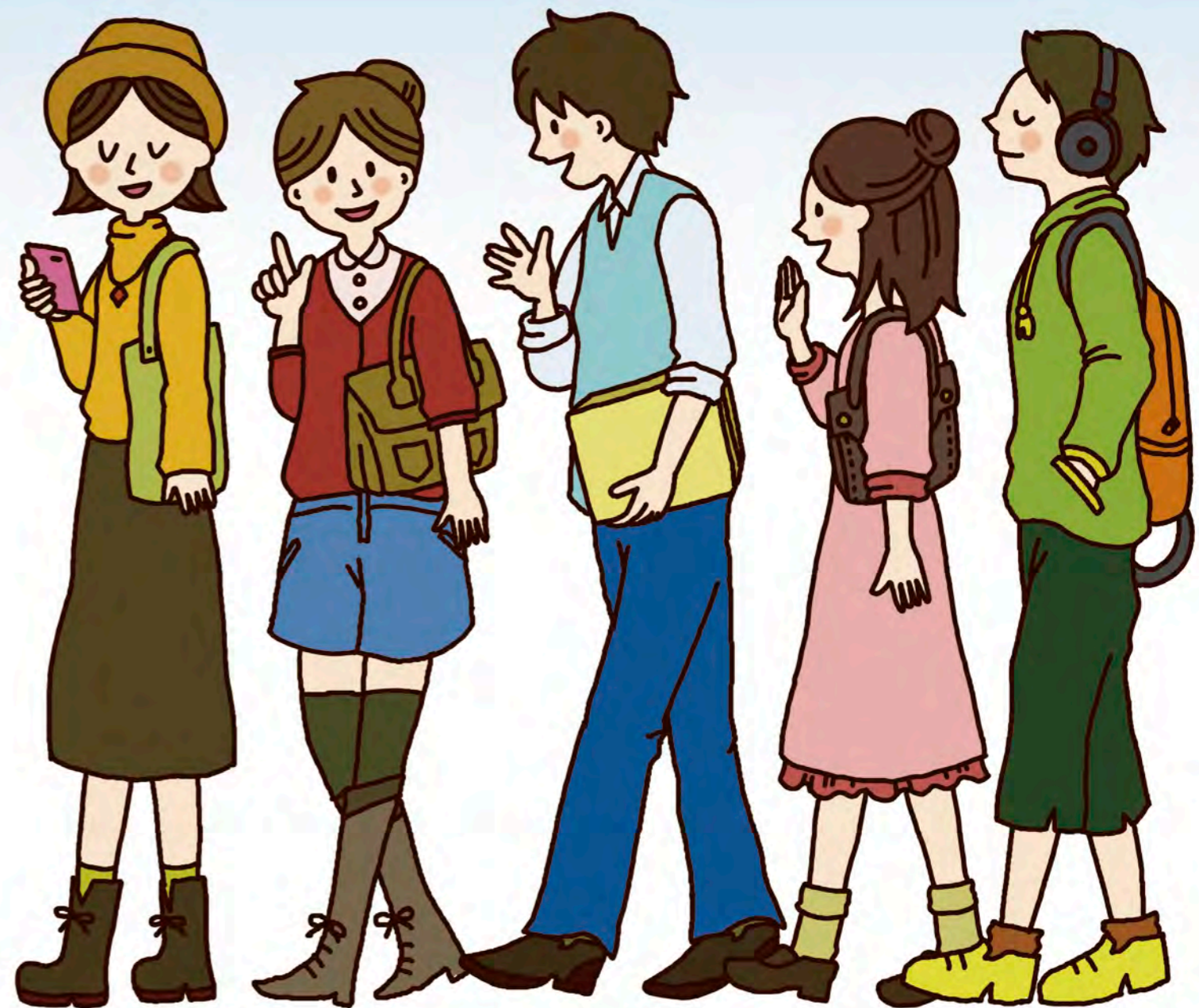


とっとり 2012 キャンパスライフ

平成24年度学生生活実態調査報告書



とっとりキャンパスライフ2012 -平成24年度学生生活実態調査報告書-

2013年3月発行

※本報告書利用上の注意

本報告書に掲載されている本学独自の調査データを、引用・転載・コピーして二次利用されることは自由ですが、利用された場合は下記編集委員会（事務担当は発行者欄に記載）宛に利用内容をご報告願います。

発行 鳥取大学学生部生活支援課
〒680-8550
鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地

電話 0857-31-5057

編集 鳥取大学学生生活支援委員会
学生生活実態調査専門委員会

はじめに Introduction

前回の調査から2年が経ち、その間には未曾有の東日本大震災が起きましたが、未だに罹災された地域では復興への道程はまだまだ遠く、国を挙げての支援も充分とは言えません。本学では罹災された学生のためにお見舞い金、入学料免除、授業料免除など出来る限りの支援を続けている状況にあります。

政治の世界では、自民党から民主党への政権交代の後、またまた自民党が与党となりましたが、出来るだけ早く震災に遭われた地域の復興と日本経済再生を強く願い、景気のいい世の中をと期待されています。

さて、平成24年度の学生生活実態調査の報告書を作成するため、平成23年4月に着任以来早めに準備を進める予定でしたが、前回作成の際に十二分な検討を行い、従来のを大幅に変更したため、その路線を引き継ぐことでまだまだ大丈夫と高を括っていたら、あっという間に作成ギリギリになりました。

調査項目・方法については、学生生活実態調査委員会で検討した結果、前回のものをできるだけ踏襲することになりましたが、調査項目を少し変更しました。また、回答については、前回調査で調査項目と回答用紙が別になっており、回答しにくいとの意見があったため、調査項目と回答を同じページとし、番号を○で囲むように変更しました。

削除した主な項目は次のとおりですが、その理由として、学寮が改修されたため調査項目自体がすでに不要、すでに独自の調査を行う、あるいは回答が偏りやすいなど委員会で不要と判断したため、このたびの調査項目から外しました。

【削除した項目】

- 給付型奨学金制度の必要性
- 入学志望動機
- 保健管理センターの利用
- 学寮関係

また、追加した主な項目は次のとおりですが、その理由として、授業以外の勉強時間だけでなく授業を含めての時間もカウンセリングの認知度も知りたいということになり、委員会の判断により調査項目を追加しました。

さらに、平均的な1か月の支出金額のうち合計を除いた項目については、回答選択肢に「5千円～1万円未満」を加えました。

【追加・変更した項目】

- 授業を含めた1日平均の勉強時間
- 保健管理センターでのカウンセリング認知度

本学の学生生活実態調査も、「基本編」の学生の経済状況、住居、通学、アルバイト、課外活動、ボランティア活動、人間関係、学生生活、そして「学生支援体制編」の経済支援体制、学習支援体制、学生相談、健康、学寮、就職支援体制、進学等の多岐にわたる調査結果により実態を把握し、各担当部署が学生支援や学習指導等の改善方法を検討する際の基礎資料となり、ぜひ多くの方にご一読いただき、今後の大学の施策や将来計画の判断にも利用できるように今後も努めます。

最後になりましたが、このアンケートのために長時間の回答を厭わず協力してくれた学部学生・大学院学生の皆様と、長期間に渡り編集作業等に尽力された学生生活実態調査専門委員会委員の皆様、さらには事務作業の全てを担当した学生支援係、時には陰から、時には最前線で支えていただいた本名教育担当理事をはじめとする協力いただいたすべての関係役教職員の皆様全員に深く感謝いたします。

平成25年3月

鳥取大学学生生活支援委員会

学生生活実態調査専門委員会委員長 宮田 育征

目次 Contents

はじめに	01
目次	02
調査・集計・編集の概要	03

1.基本編

1. 経済状況について	05
2. 住居・通学方法について	14
3. アルバイトについて	16
4. 自宅または下宿等での生活について	18
5. 課外活動について	21
6. 人間関係について	25
7. 学生生活について	29

2.学生支援体制編

1. 経済支援体制について	33
2. 学習支援体制について	35
3. 生活支援体制について	42
4. 就職支援体制について	49
5. 進学について	52
6. その他	55

3.参考資料

アンケート調査票	67
----------	----

学生生活実態調査専門委員会委員名簿

委員長 学生部生活支援課長 宮田育征 平成23.4.1～

地域学部准教授 — 仲野 誠 — 平成24.4.1～	大学教育支援機構(教育センター)准教授 — 武田元有 — 平成23.4.1～
医学部教授 — 景山誠二 — 平成24.4.1～	大学教育支援機構(入学センター)准教授 — 森川 修 — 平成23.4.1～
工学研究科教授 — 大観光徳 — 平成24.4.1～	大学教育支援機構(キャリアセンター)准教授 — 長尾博暢 — 平成23.4.1～
農学部教授 — 渡辺文雄 — 平成24.4.1～	保健管理センター保健師 — 浜本扇代 — 平成23.4.1～
	学生部生活支援課学生支援係長 — 山根 修 — 平成23.4.1～

委員会事務担当 学生部生活支援課学生支援係 前田 光

調査・集計・編集の概要

● 調査の目的

この調査は本学学生の生活実態を把握し、学生の教育及び福利厚生改善並びに充実のための基礎資料を得ることを目的とする。

● 調査の時期

平成24年7月2日(月)～7月27日(金)の間に行った。

● 調査の対象

平成24年7月1日現在に在籍する学部学生と大学院生を対象とした。
ただし、休学者、外国人留学生、連合獣医学研究科及び連合農学研究科他大学配置学生は除いた。

● 調査の方法

学生生活支援委員会学生生活実態調査専門委員会が、学部等の協力のもと調査票・回答表を配付し回収した。

● 集計の方法

学部別、研究科別、男女別、入学年度別に集計し、データを整理した。

● 編集の方法

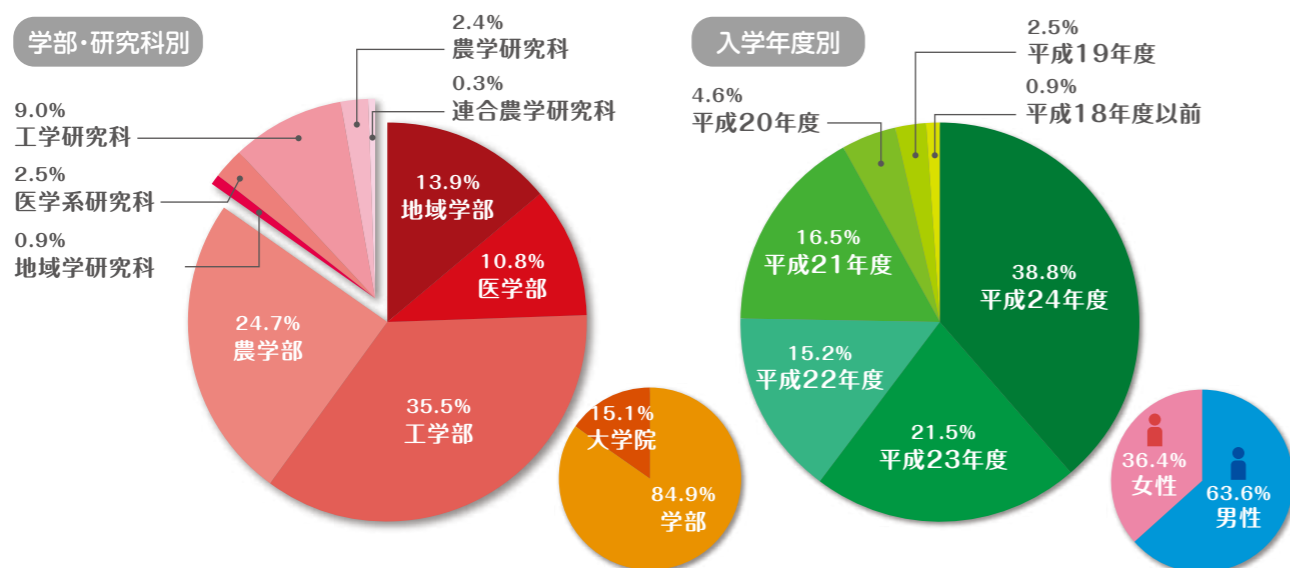
1. 調査データに基づき作成した帯グラフを基本に分析を行い、解説に必要な場合は新たに報告書等掲載用グラフを別途作成した。
2. 「入学年度別」データについては、解説の便宜上、「学年」の概念を用いて説明した。
3. 関係者の関心が特に高いと思われる調査事項は、「ダイジェスト版」として抜粋し、リーフレットサイズに要約編集した。
4. 報告書の内容はすべて大学のホームページにも掲載することとした。

● 調査回答の回収状況

学部・研究科	回収率(%)	対象者数(人)
地域学部	48.6	834
医学部	25.7	1,228
工学部	50.9	2,036
農学部	68.3	1,055
地域学研究科	47.3	55
医学系研究科	39.9	263
工学研究科	48.5	472
農学研究科	59.8	117
連合農学研究科	28.1	32
大学全体	47.9	6,092

*前回調査より10%以上の回収率アップ

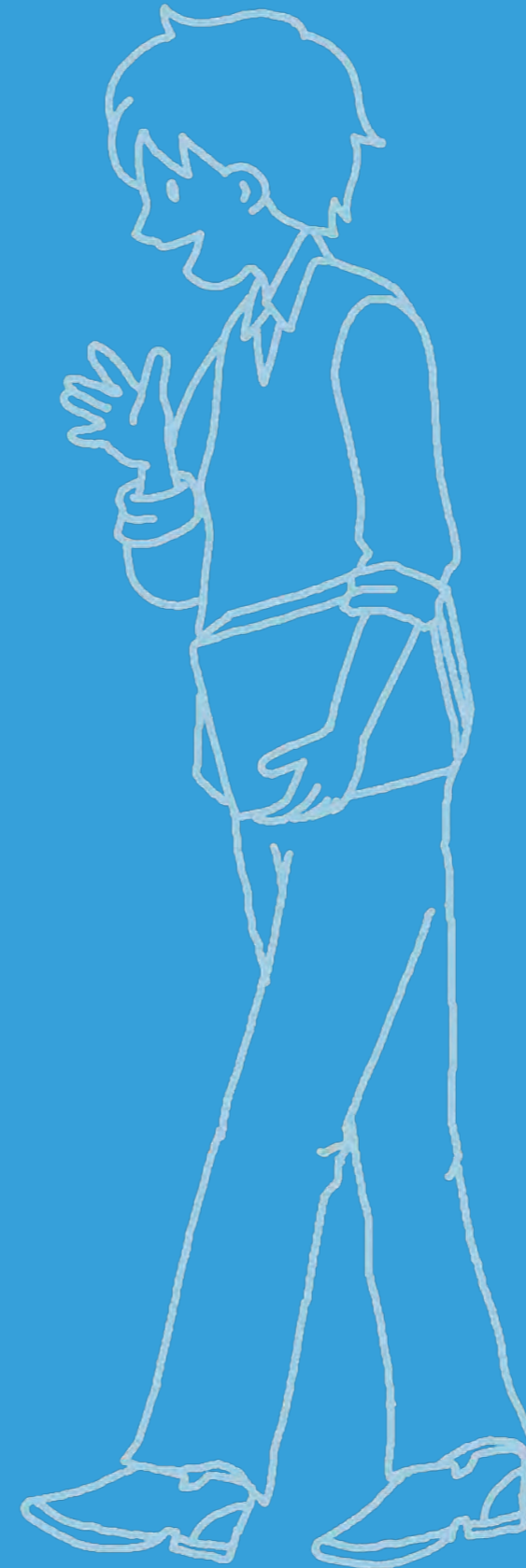
● 調査に協力してくれた学生



基本編

経済状況や住居、サークルなど、日常の学生生活について解答してもらいました。

1

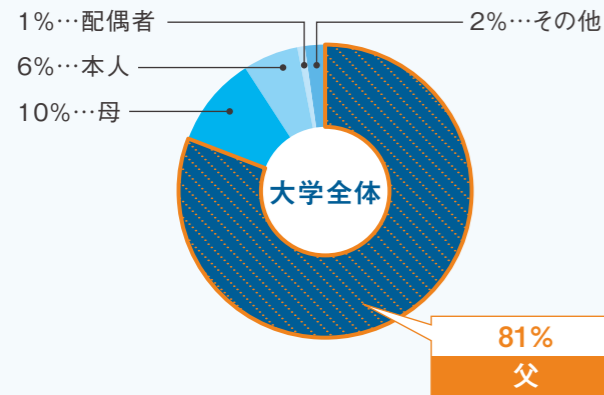


1. 経済状況

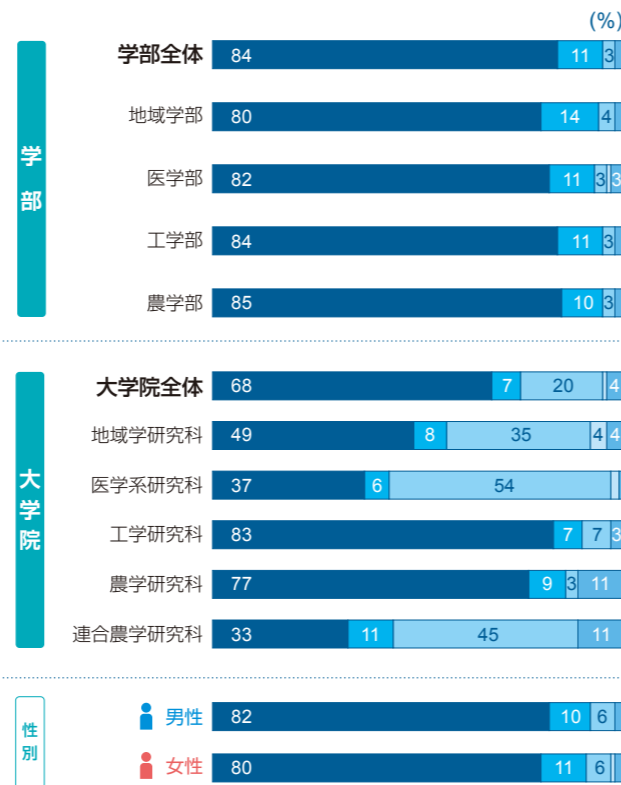
注) 問1～問5は基本的事項についての設問であり、3ページに「調査に協力してくれた学生」としてグラフを掲載しています。

6

あなたの生活や勉学の費用を主として負担している人(主たる家計支持者)は誰ですか

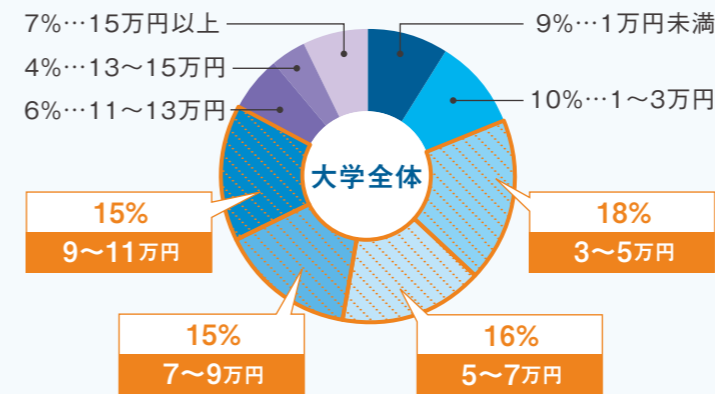


主な家計支持者は、学部学生の場合、父84%(前回83%)、母11%(前回と同じ)、本人3%(前回4%)で、大学院学生の場合は、父68%(前回と同じ)、母7%(前回9%)、本人20%(前回19%)とほとんど変化がありません。なお、その他が2%あり、そのうち奨学金が半分を占めて、以下両親、祖父母の順となっています。

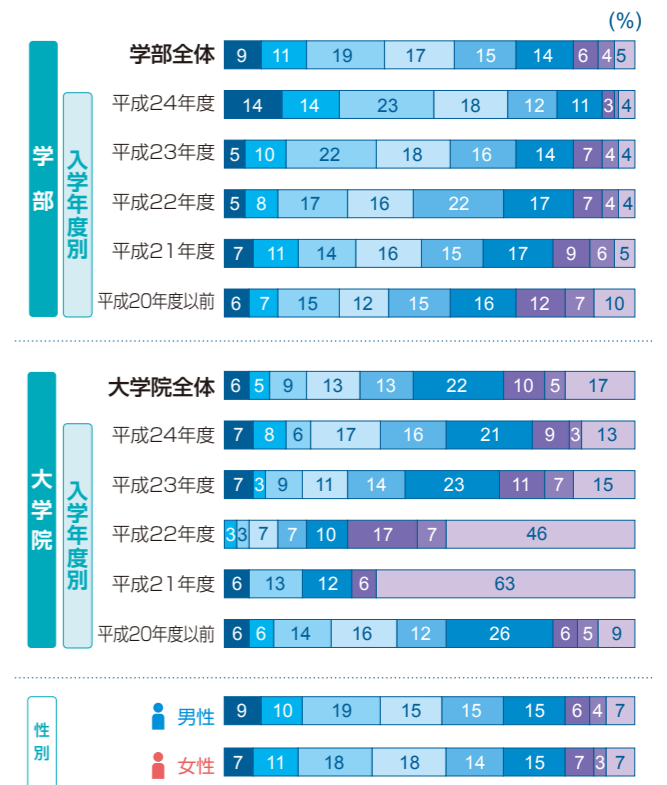


8

直近1年間における平均的な1ヶ月の収入はいくらですか

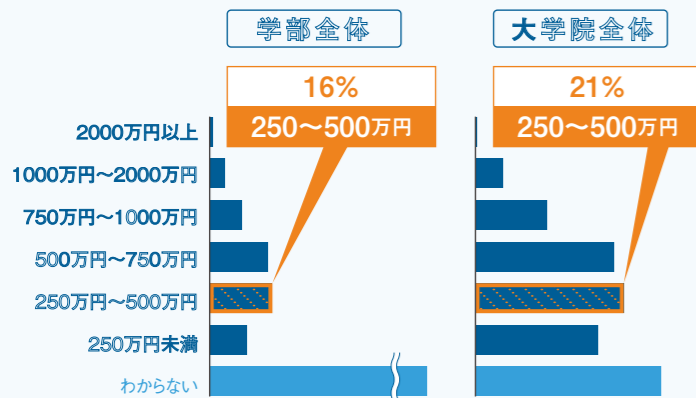


全体では、平均的な1か月の収入は、学部学生で「1万円未満」が9%、「1～3万円」が10%、「3～5万円」が18%とわずかながら増えています。しかし、「5～7万円」は昨年度と同じく16%であり、「7～9万円」15%(前回17%)、「9～11万円」15%(前回18%)、「11～13万円」6%(前回10%)、「13～15万円」4%(前回7%)、「15万円以上」7%(前回9%)と収入の高い割合は軒並みに減少しています。学部学生も大学院学生もその傾向は同じです。

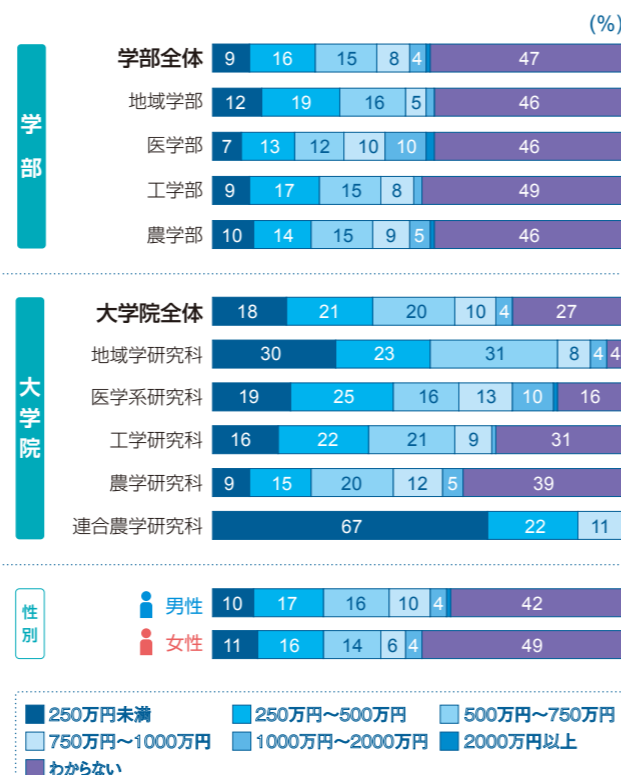


7

「問6」の家計支持者の年収はいくらですか

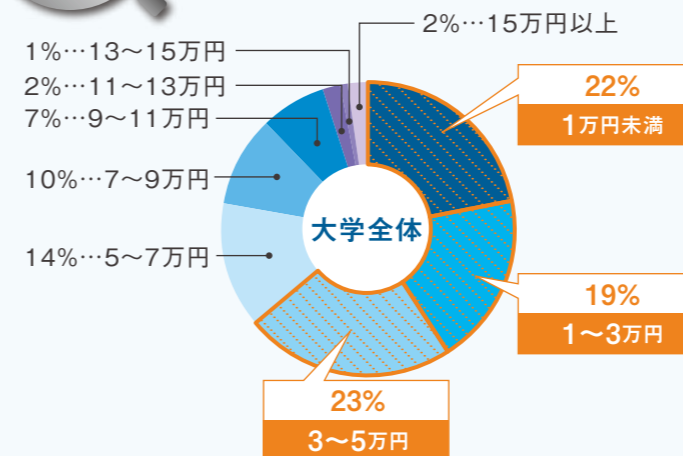


学部学生で250万円未満と答えたのは9%(前回12%)、250～500万円が16%(前回20%)、500～750万円が15%(前回16%)、750～1,000万円が8%(前回11%)、1,000万円以上が5%(前回4%)でした。大学院学生の場合は、250万円未満と答えたのは18%(前回19%)、250～500万円が21%(前回と同じ)、500～750万円が20%(前回19%)、750～1,000万円が10%(前回12%)、1,000万円以上が4%(前回と同じ)でした。前回調査と比較しても、学部学生、大学院学生とも250～500万円が最も高い割合となっています。なお、家計支持者の年収については、「わからない」と回答した学生が最も多く、次回は少し設問内容を変更する必要があります。

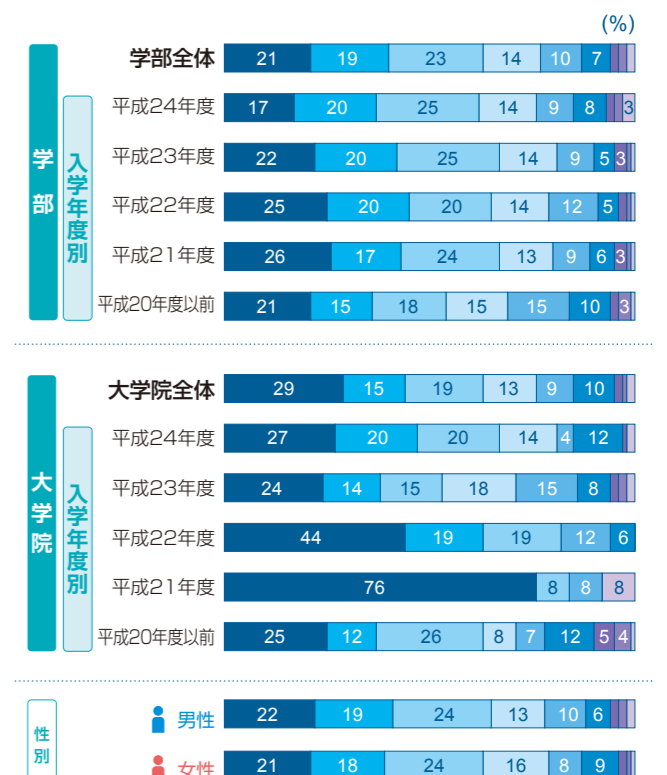


8-1

【収入内訳】 家族等からの仕送り

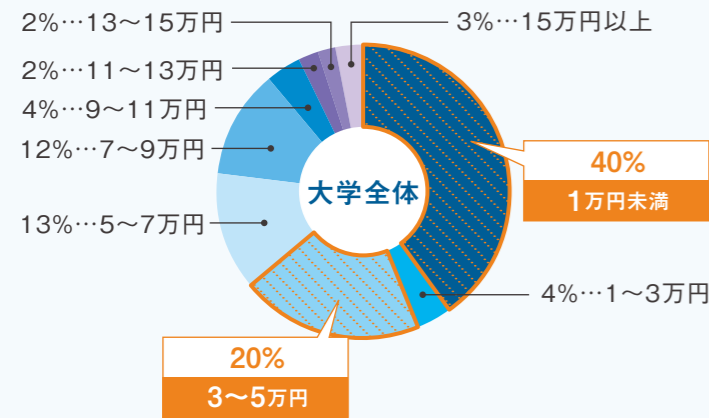


平均的な1か月の収入のうち、家族等からの仕送りについて、学部学生で「1万円未満」が21%(前回26%)、「1～3万円」が19%(前回17%)、「3～5万円」が23%(前回と同じ)と6割を超えています。大学院学生は、「1万円未満」が29%(前回30%)、「1～3万円」が15%(前回11%)、「3～5万円」が19%(前回17%)と同じように6割を超えています。前回調査と比較して学部学生で「7万円以上」の仕送りの割合が20%から23%に増えており、反対に大学院学生では、28%から24%に少なくなっています。



1. 経済状況

8-2 [収入内訳] 奨学金



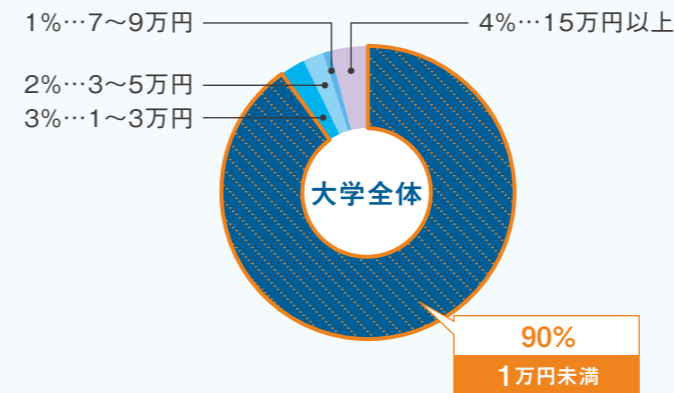
平均的な1か月の収入のうち、奨学金について、学部学生で「1万円未満」が42%(前回と同じ)、「1～3万円」が4%(前回5%)、「3～5万円」が20%(前回19%)、「5～7万円」が13%(前回18%)となっています。大学院学生は、「1万円未満」が32%(前回41%)、「1～3万円」が2%(前回と同じ)、「3～5万円」が17%(前回8%)、「5～7万円」が13%(前回15%)、「7～9万円」が25%(前回22%)となっています。前回調査と比較して学部学生で「7万円以上」の奨学金の割合が16%から21%に、大学院学生では、34%から36%に増えていきます。家族からの仕送りだけでは不十分と思われる、奨学金の額も増えていきます。

学部	入学年度別	収入範囲 (%)						
		1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上	
学部全体		42	4	20	13	10	4	3
平成24年度		50	4	18	12	7	3	3
平成23年度		32	6	25	14	11	4	3
平成22年度		37	4	22	17	13	3	
平成21年度		37	4	22	13	13	5	
平成20年度以前		49	3	11	9	11	8	3

大学院	入学年度別	収入範囲 (%)						
		1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上	
大学院全体		32	17	13	25	3	4	
平成24年度		31	3	21	15	19	3	4
平成23年度		26	15	13	32	3	6	
平成22年度		46	5	11	16	11	11	
平成21年度		89					11	
平成20年度以前		32	19	13	26	4	4	

性別	収入範囲 (%)						
	1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上	
男性	40	3	20	12	14	4	3
女性	40	5	20	15	10	3	3

8-4 [収入内訳] その他



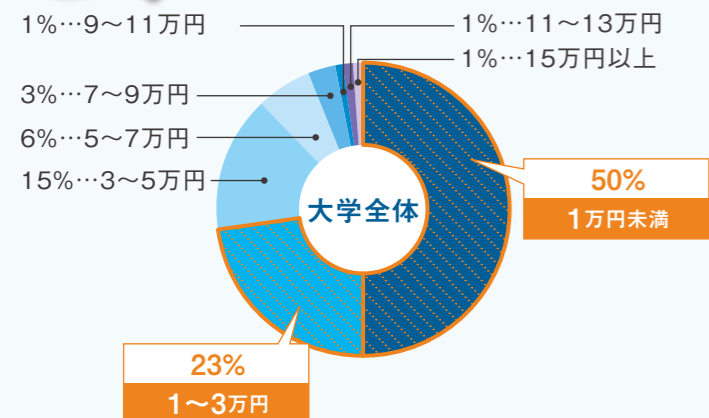
平均的な1か月の収入のうち、その他の収入について、前回調査では給与の項目を設けていましたが、このたびから給与を削除したため、社会人学生の回答がこちらの集計に加わりました。学部学生は前回調査とほとんど変わりません。大学院学生は、「1万円未満」が74%(前回95%)、「15万円以上」が19%(前回1%)でした。大学院学生のうち約5分の1の学生が給与を含めたその他の収入が15万円以上あることになります。

学部	入学年度別	収入範囲 (%)					
		1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上
学部全体		92	3				
平成24年度		95	3				
平成23年度		93	4				
平成22年度		93	3				
平成21年度		93	4				
平成20年度以前		90	4	3			

大学院	入学年度別	収入範囲 (%)					
		1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上
大学院全体		74	4	19			
平成24年度		81	4	13			
平成23年度		77	4	3	16		
平成22年度		33	7	60			
平成21年度		33	8	8	51		
平成20年度以前		77	5	5	11		

性別	収入範囲 (%)					
	1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上
男性	89	3	4			
女性	93	4	3			

8-3 [収入内訳] アルバイト収入



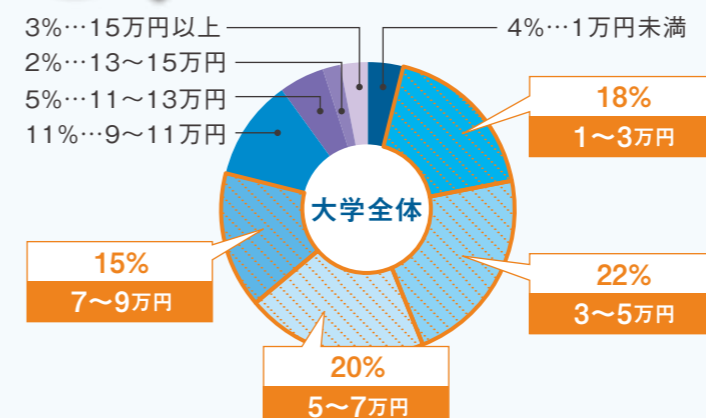
平均的な1か月の収入のうち、アルバイトの収入について、前回調査と同じ回答学生の3分の2がアルバイトで収入を得ており、重要な収入源となっています。学部学生で「1万円未満」が50%(前回49%)、「1～3万円」が22%(前回と同じ)、「3～5万円」が16%(前回17%)、「5～7万円」が6%(前回7%)となっています。大学院学生は、「1万円未満」が45%(前回53%)、「1～3万円」が27%(前回22%)、「3～5万円」が13%(前回12%)、「5～7万円」が6%(前回5%)となっています。全体では学部学生は前回調査とほとんど変化はありませんが、大学院学生はアルバイト収入の額が増えています。学部だけでみると、入学後3年まではアルバイトをしている学生は増加傾向にありますが、4年目は卒業、就職、進学などのため多忙となり、アルバイトの機会が減少しています。

学部	入学年度別	収入範囲 (%)					
		1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上
学部全体		50	22	16	6	3	
平成24年度		83	10	5			
平成23年度		39	26	22	7	3	
平成22年度		28	30	22	10	5	
平成21年度		41	25	21	8	3	
平成20年度以前		42	25	14	9	7	

大学院	入学年度別	収入範囲 (%)					
		1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上
大学院全体		45	27	13	6	4	
平成24年度		47	28	10	7	3	
平成23年度		49	26	15	4		
平成22年度		28	22	6	11	11	22
平成21年度		37	18	9	36		
平成20年度以前		45	32	14	6	3	

性別	収入範囲 (%)					
	1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上
男性	51	19	14	8	3	
女性	47	28	17	4		

9 直近1年間における平均的な1ヶ月の支出はいくらですか



前回と比較して、全体では、平均的な1か月の収入の高い割合は軒並みに減少しているため、支出額も学部学生、大学院学生ともに全体的に抑えられています。学部学生では、「5万円以内」が47%(前回33%)で最も差が大きく、「5～11万円」が45%(前回51%)、「11万円以上」が6%(前回17%)で、大学院学生は、「5万円以内」が20%(前回17%)で、「5～11万円」が57%(前回51%)、「11万円以上」が前回32%より9%低く、23%となっています。

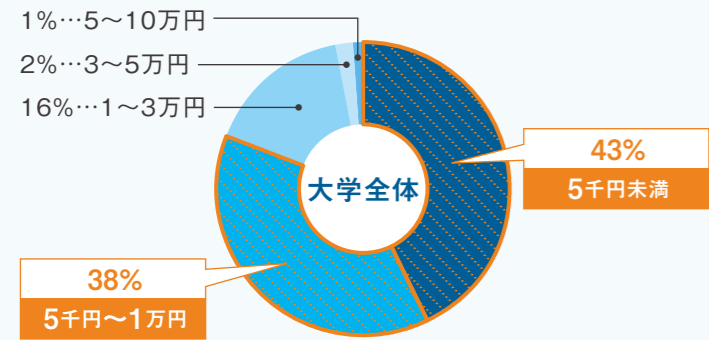
学部	入学年度別	支出範囲 (%)								
		1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上			
学部全体		4	20	23	20	15	10	4		
平成24年度		5	27	27	19	12	6			
平成23年度		4	21	23	21	16	10	3		
平成22年度		3	15	20	21	21	10	7		
平成21年度		3	12	20	22	17	14	6	3	
平成20年度以前		4	10	19	15	14	19	10	5	4

大学院	入学年度別	支出範囲 (%)							
		1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上		
大学院全体		6	13	18	17	22	9	3	11
平成24年度		8	10	18	16	26	9	4	7
平成23年度		5	13	16	23	18	10	3	11
平成22年度		11	11	18	14	11	7	28	
平成21年度		13	12	6	6	6	12	45	
平成20年度以前		8	17	24	14	23	5	8	

性別	支出範囲 (%)							
	1万円未満	1～3万円	3～5万円	5～7万円	7～9万円	10万円以上		
男性	3	17	22	20	16	11	5	4
女性	4	19	21	19	16	12	4	3

1. 経済状況

9-1 [支出内訳] 雑貨(衣料等)



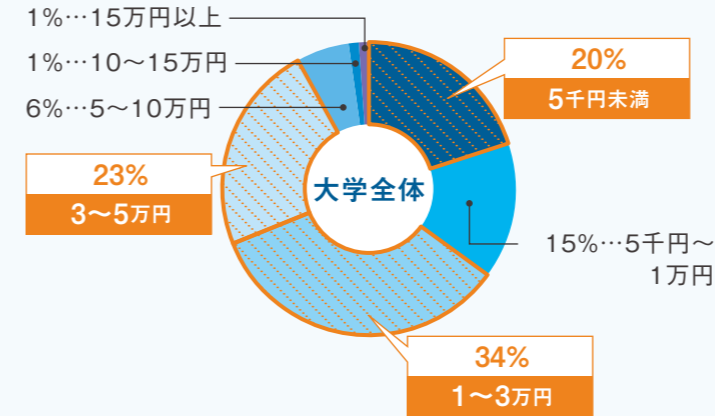
平均的な1か月の支出のうち、雑貨(衣料等)について、学部学生で「5千円未満」が42%、「5千～1万円」が39%(前回調査では「1万円未満」として、68%)、「1～3万円」が16%(前回25%)、「3～5万円」が2%(前回5%)となっています。大学院学生は、「5千円未満」が44%、「5千～1万円」が35%(前回調査では「1万円未満」として、67%)、「1～3万円」が14%(前回23%)、「3～5万円」が3%(前回7%)となっています。前回調査と比較して学部学生、大学院学生とも「1万円未満」の割合が10%以上増えています。

学部	入学年度別	割合 (%)			
		5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
学部全体		42	39	16	3
	平成24年度	39	39	18	3
	平成23年度	40	43	15	
	平成22年度	46	37	16	
	平成21年度	47	36	13	3
	平成20年度以前	49	39	8	3

大学院	入学年度別	割合 (%)			
		5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
大学院全体		44	35	14	3
	平成24年度	49	31	14	3
	平成23年度	46	36	13	
	平成22年度	35	38	19	4
	平成21年度	13	47	33	7
	平成20年度以前	42	38	12	4

性別	割合 (%)			
	5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
男性	47	36	14	
女性	36	41	19	3

9-3 [支出内訳] 住居費(家賃、光熱水料費含む)



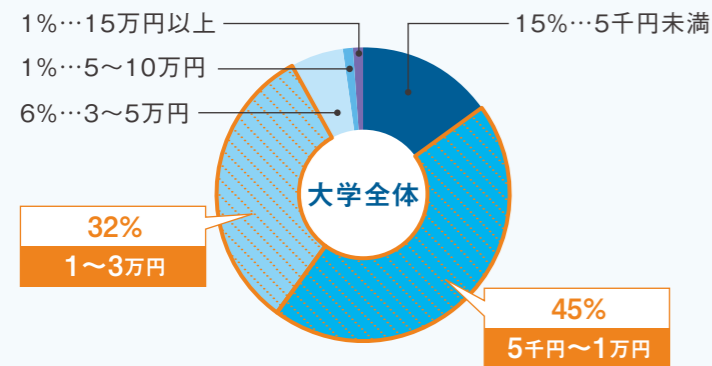
前回調査では、全体で「3万円～5万円」が38%でトップでしたが、今回は「1万円～3万円」が34%でトップでした。また、前回では住居費にかかる支出で「3万円まで」の割合は、45%でしたが、今回は69%となっています。不景気のため支出を3万円までに抑えています。なお、今回の調査で「5千円未満」を新たに設定した結果、5人に1人にあたる20%の学生が該当しています。この中には自宅学生も含まれていますが、もしかして住居費を親御さんが支払っていて、光熱水料のみを計上した学生があるかもしれません。

学部	入学年度別	割合 (%)				
		5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円	5万円以上
学部全体		22	15	33	22	6
	平成24年度	26	17	29	21	5
	平成23年度	19	15	39	21	6
	平成22年度	18	13	35	23	9
	平成21年度	20	12	36	23	7
	平成20年度以前	18	16	30	27	5

大学院	入学年度別	割合 (%)				
		5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円	5万円以上
大学院全体		13	14	35	27	9
	平成24年度	13	16	31	29	8
	平成23年度	14	14	30	32	8
	平成22年度	11	15	33	26	15
	平成21年度	12	19	19	6	38
	平成20年度以前	13	9	50	18	7

性別	割合 (%)				
	5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円	5万円以上
男性	20	17	34	21	6
女性	22	11	31	26	8

9-2 [支出内訳] 食費



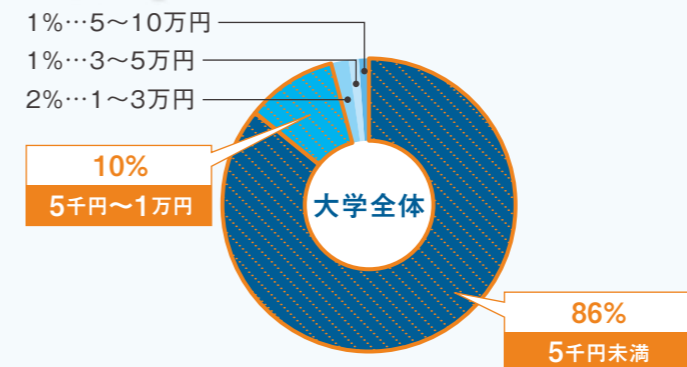
平均的な1か月の支出のうち、食費について、学部学生で「5千円未満」が16%、「5千～1万円」が48%(前回調査では「1万円未満」として、26%)、「1～3万円」が30%(前回56%)、「3～5万円」が5%(前回15%)となっています。大学院学生は、「5千円未満」が7%、「5千～1万円」が37%(前回調査では「1万円未満」として、14%)、「1～3万円」が42%(前回48%)、「3～5万円」が10%(前回29%)となっています。前回調査と比較して学部学生では、「1万円未満」の割合が約2.5倍に、大学院学生では約3倍になっており、食費を切り詰めていることがわかります。それでも、大学院学生は、「1～5万円」の割合が52%を占めており、学部学生より食費に多く支出しています。

学部	入学年度別	割合 (%)			
		5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
学部全体		16	48	30	5
	平成24年度	20	48	28	4
	平成23年度	17	51	28	4
	平成22年度	13	46	33	7
	平成21年度	13	46	33	6
	平成20年度以前	9	44	35	9

大学院	入学年度別	割合 (%)			
		5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
大学院全体		7	37	42	10
	平成24年度	8	42	41	6
	平成23年度	7	33	44	12
	平成22年度	10	35	36	11
	平成21年度	6	50	19	19
	平成20年度以前	6	44	38	9

性別	割合 (%)			
	5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
男性	13	45	33	7
女性	17	48	30	4

9-4 [支出内訳] 通学費(ガソリン代等を含む)



平均的な1か月の支出のうち、通学費(ガソリン代を含む)について、学部学生で「5千円未満」が90%、「5千～1万円」が8%(前回調査では「1万円未満」として、87%)、「1～3万円」が2%(前回10%)となっています。大学院学生は、「5千円未満」が73%、「5千～1万円」が21%(前回調査では「1万円未満」として、80%)、「1～3万円」が4%(前回15%)となっています。前回調査と比較して学部学生、大学院学生とも「1万円未満」の割合が約10%増えています。

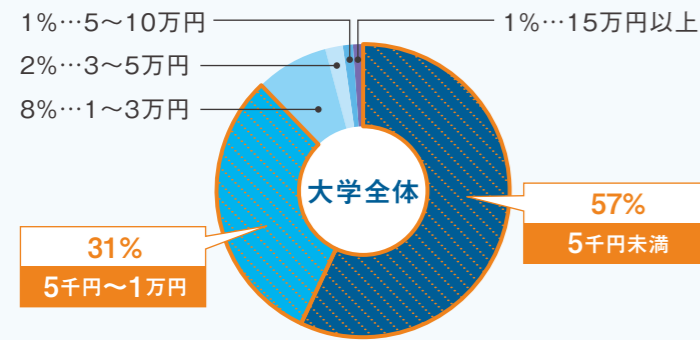
学部	入学年度別	割合 (%)			
		5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
学部全体		90	8		
	平成24年度	93	6		
	平成23年度	92	7		
	平成22年度	89	9		
	平成21年度	85	11		
	平成20年度以前	82	14	4	

大学院	入学年度別	割合 (%)			
		5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
大学院全体		73	21	4	
	平成24年度	78	17	3	
	平成23年度	76	18	3	
	平成22年度	53	39	4	4
	平成21年度	14	72	14	
	平成20年度以前	76	19	4	

性別	割合 (%)			
	5千円未満	5千円～1万円	1万円～3万円	3～5万円
男性	87	11		
女性	88	9		

1. 経済状況

9-5 [支出内訳] 修学費(教科書、参考書、公務員講座費等)



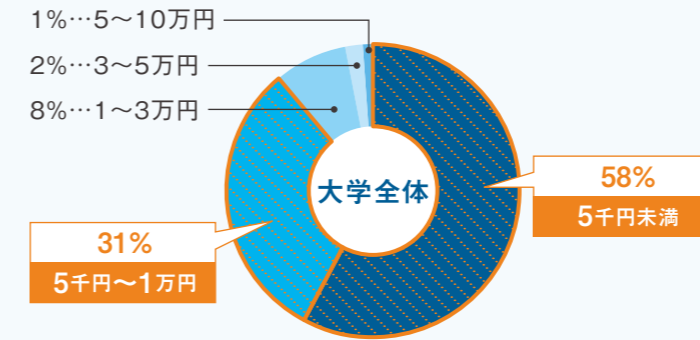
平均的な1か月の支出のうち、修学費(教科書、参考書、公務員講座費等)について、学部学生で「5千円未満」が56%、「5千~1万円」が32%(前回調査では「1万円未満」として、61%)、「1~3万円」が8%(前回29%)となっています。大学院学生は、「5千円未満」が58%、「5千~1万円」が30%(前回調査では「1万円未満」として、88%)、「1~3万円」が5%(前回20%)となっています。前回調査と比較して学部学生、大学院学生とも「1万円未満」の割合が20%以上増えています。

学部	入学年度別 (%)
学部全体	56 32 8
平成24年度	52 33 11
平成23年度	55 34 8
平成22年度	56 34 5
平成21年度	66 25 6
平成20年度以前	57 30 10

大学院	入学年度別 (%)
大学院全体	58 30 5 3
平成24年度	56 32 6 3
平成23年度	65 24 6
平成22年度	46 38 8 8
平成21年度	38 56 6
平成20年度以前	63 29 3 4

性別	男性 (%)	女性 (%)
学部	55 32 8	59 30 7
大学院	58 30 5 3	52 36 6 3

9-7 [支出内訳] 娯楽嗜好費(旅行を含む)



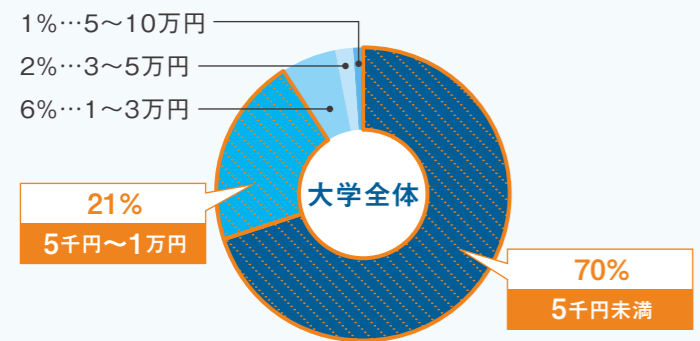
平均的な1か月の支出のうち、娯楽嗜好費(旅行を含む)について、学部学生で「5千円未満」が60%、「5千~1万円」が30%(前回調査では「1万円未満」として、70%)、「1~3万円」が8%(前回24%)となっています。大学院学生は、「5千円未満」が50%、「5千~1万円」が36%(前回調査では「1万円未満」として、63%)、「1~3万円」が9%(前回30%)となっています。前回調査と比較して学部学生、大学院学生とも「1万円未満」の割合が20%以上増えています。

学部	入学年度別 (%)
学部全体	60 30 8
平成24年度	68 24 6
平成23年度	58 32 9
平成22年度	54 34 9
平成21年度	54 33 10
平成20年度以前	47 36 13

大学院	入学年度別 (%)
大学院全体	50 36 9 3
平成24年度	49 36 11
平成23年度	53 36 6
平成22年度	52 30 9 9
平成21年度	37 38 19 6
平成20年度以前	52 38 7

性別	男性 (%)	女性 (%)
学部	58 31 9	59 30 7
大学院	50 36 9 3	49 36 11

9-6 [支出内訳] 課外活動費(サークル活動、ボランティア活動等)



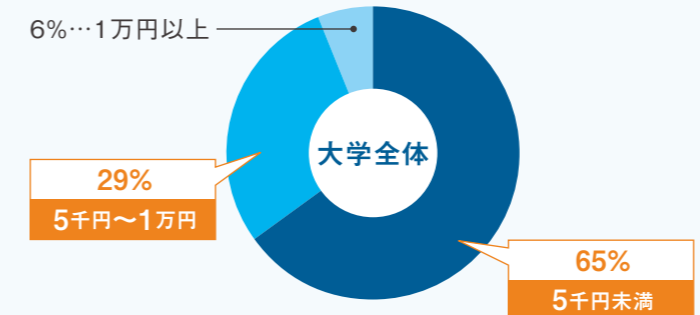
平均的な1か月の支出のうち、課外活動費(サークル活動費、ボランティア活動等)について、学部学生で「5千円未満」が68%、「5千~1万円」が23%(前回調査では「1万円未満」として、75%)、「1~3万円」が7%(前回20%)となっています。大学院学生は、「5千円未満」が86%、「5千~1万円」が10%(前回調査では「1万円未満」として、86%)、「1~3万円」が2%(前回11%)となっています。前回調査と比較して学部学生、大学院学生とも「1万円未満」の割合が10%以上増えています。

学部	入学年度別 (%)
学部全体	68 23 7
平成24年度	67 23 8
平成23年度	67 24 7
平成22年度	60 26 10
平成21年度	77 17 3
平成20年度以前	71 20 4 3

大学院	入学年度別 (%)
大学院全体	86 10
平成24年度	87 10
平成23年度	86 9
平成22年度	95 5
平成21年度	87 13
平成20年度以前	79 15 4

性別	男性 (%)	女性 (%)
学部	68 23 7	69 22 6
大学院	86 10	73 19 6

9-8 [支出内訳] 通信費(携帯電話、インターネット等)



平均的な1か月の支出のうち、通信費(携帯電話、インターネット等)について、学部学生で「5千円未満」が68%、「5千~1万円」が28%(前回調査では「1万円未満」として、82%)、「1~3万円」が4%(前回17%)となっています。大学院学生は、「5千円未満」が56%、「5千~1万円」が38%(前回調査では「1万円未満」として、79%)、「1~3万円」が6%(前回20%)となっています。前回調査と比較して学部学生、大学院学生とも「1万円未満」の割合が10%以上増えています。ただし、携帯電話各社の料金体系及びサービスが見直され、インターネットの利用形態も多様化しているため、通信費の支出額だけでは単純な比較では分析が難しくなっています。

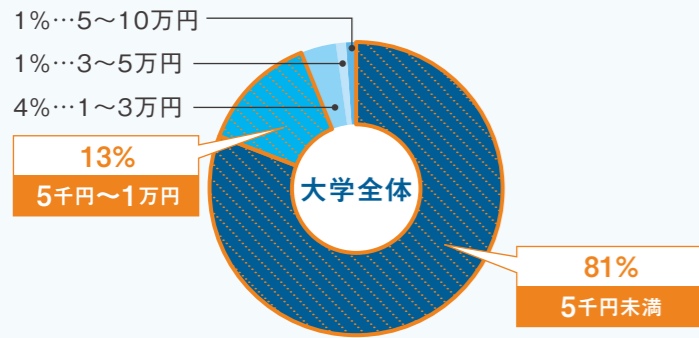
学部	入学年度別 (%)
学部全体	68 28 4
平成24年度	70 26 4
平成23年度	66 29 4
平成22年度	67 28 5
平成21年度	64 29 5
平成20年度以前	57 35 5

大学院	入学年度別 (%)
大学院全体	55 37 7
平成24年度	56 38 6
平成23年度	56 36 6
平成22年度	42 50 8
平成21年度	31 50 19
平成20年度以前	62 30 5

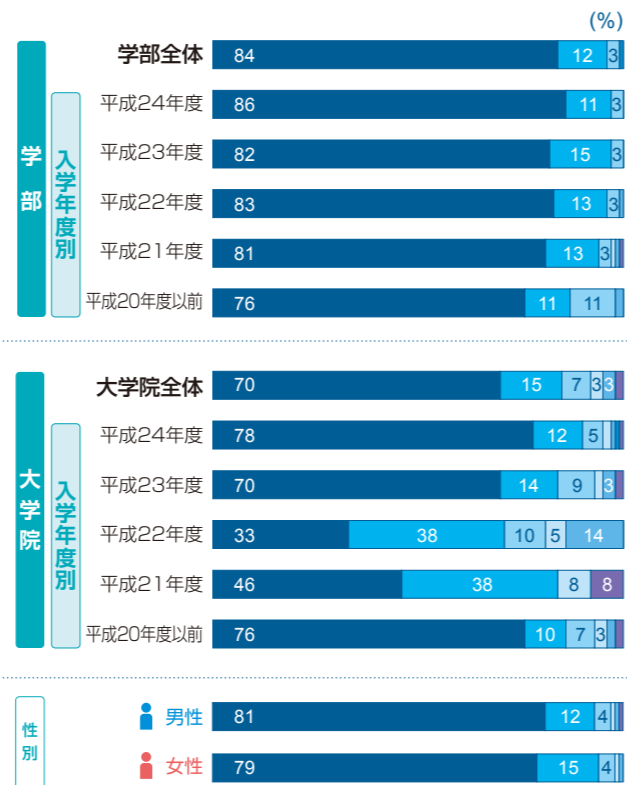
性別	男性 (%)	女性 (%)
学部	68 28 4	65 29 5
大学院	55 37 7	65 30 5

1. 経済状況

9-9 [支出内訳] その他

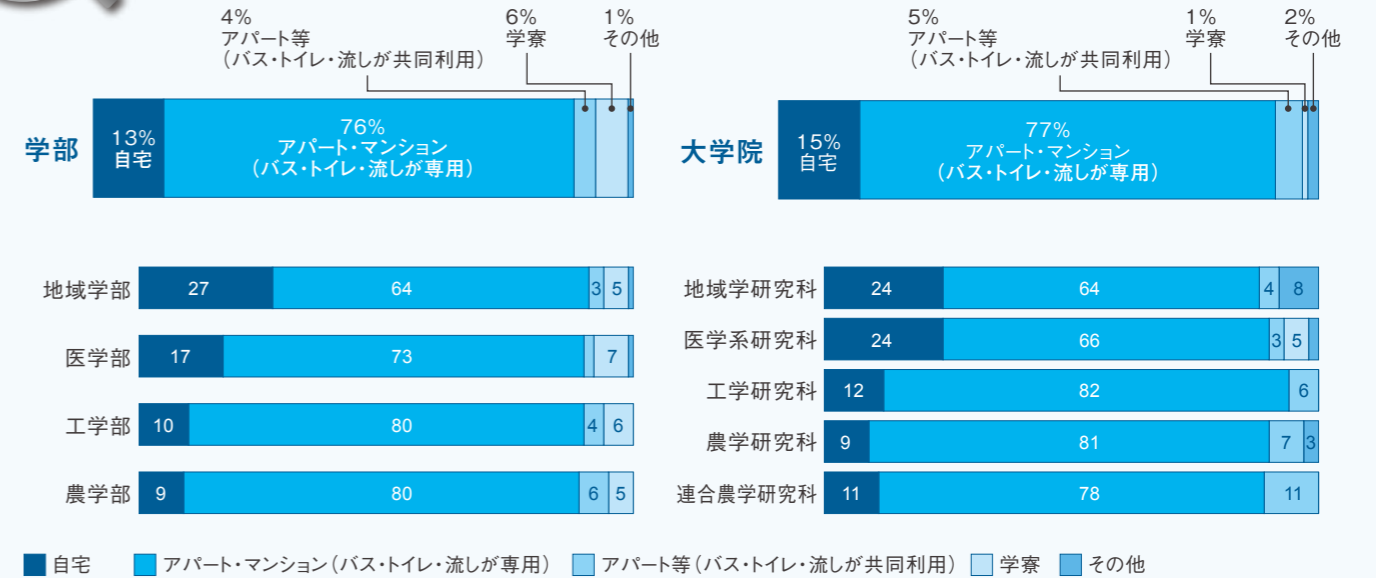


平均的な1か月の支出のうち、その他について、学部学生で「5千円未満」が84%、「5千～1万円」が12%(前回調査では「1万円未満」として、90%)、「1～3万円」が3%(前回5%)となっています。大学院学生は、「5千円未満」が70%、「5千～1万円」が15%(前回調査では「1万円未満」として、85%)、「1～3万円」が7%(前回と同じ)となっています。前回調査と比較して学部学生が「1万円未満」の割合が6%増えているのに対し、大学院学生は前回調査とほとんど変わっていません。



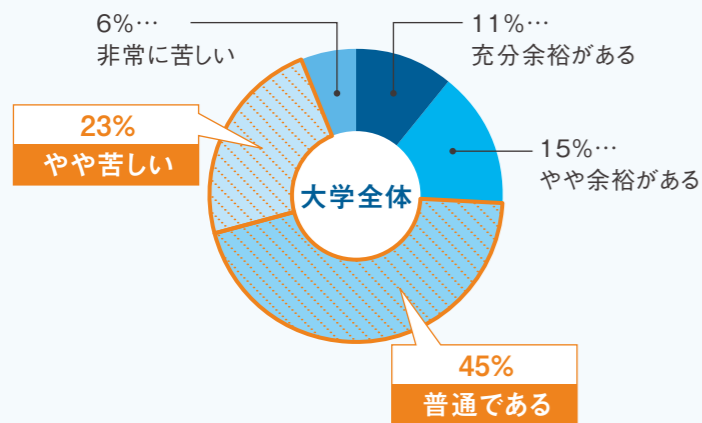
2. 住居・通学方法

11 あなたの住居の種別はどれですか

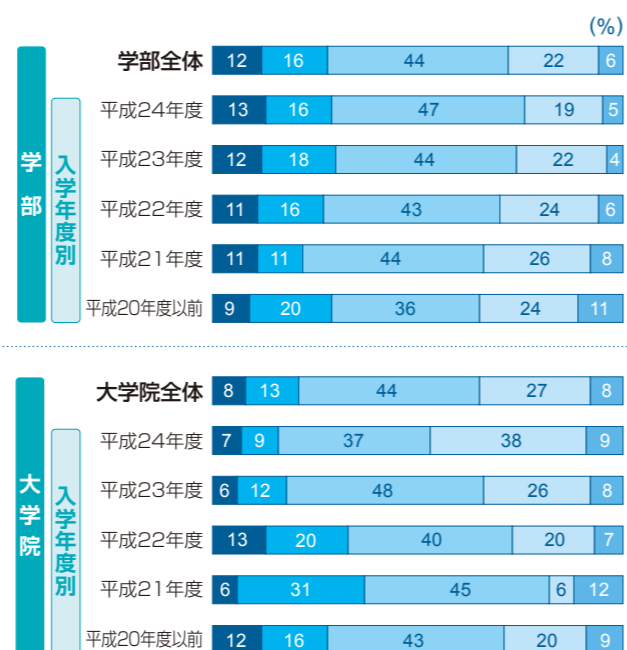


住居の種別としては、80%以上の学部学生、大学院学生が「アパート・マンション」等を利用しています。自宅については地域学部、地域学研究科、医学系研究科が20%程度ですが、それ以外の学部と研究科では、10%前後と少ない傾向が見られます。

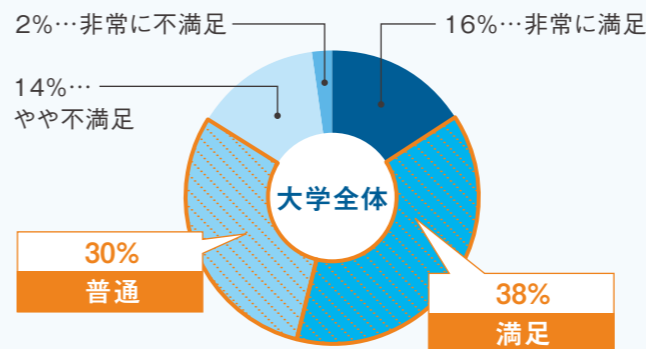
10 あなたは、現在の自分の経済状態をどのように感じていますか



現在の経済状況について、大学全体で「やや苦しい」または「非常に苦しい」と回答した学生は、合わせて29%(前回30%)と僅かながら少なくなっています。収入も増えていない上に、支出を抑えており、経済的に苦しいという学生が増えると思いましたが、結果は7割以上の学生が「普通である」(45%)、「やや余裕がある」(15%)、「充分余裕がある」(11%)のいずれかに該当しています。

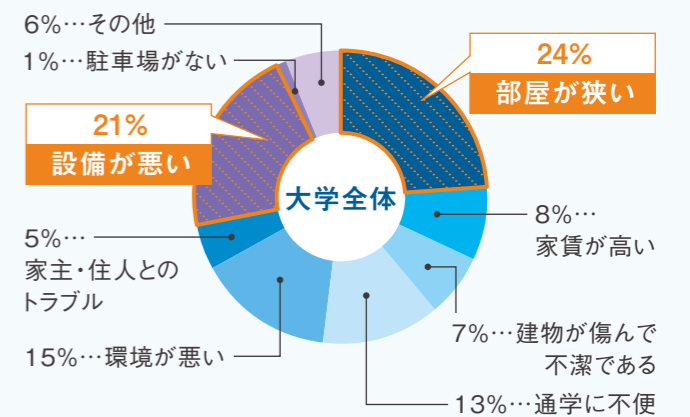


12 あなたは、現在の住居に満足していますか



現在の住居に満足しているかどうかについて、「非常に満足」、「満足」、「普通」を合わせると80%を超えており、ほとんどの学生が住居について不満を持っていません。

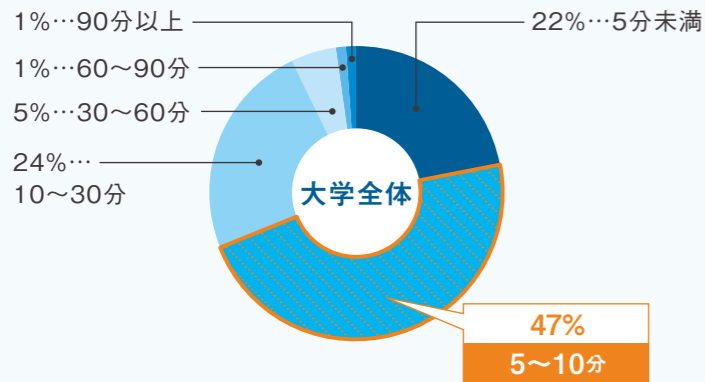
13 「やや不満足」「非常に不満足」その理由について (自宅通学者は回答不要)



現在の住居に「やや不満足」又は「非常に不満足」であると回答した学生の不満理由について、大学全体でみると「部屋が狭い」24%、「設備が悪い」21%、「環境が悪い」15%、「通学に不便」13%の順になっています。特定の理由に偏っていないようです。

2.住居・通学方法

14 あなたの通学時間(片道)はどのくらいですか



通学時間(片道)について、大学全体をみると90%以上の学部学生、大学院学生が30分未満となっています。問11とあわせて考えると、大学周辺にアパート・マンション等を借りて住んでいる学生が多いと見られます。

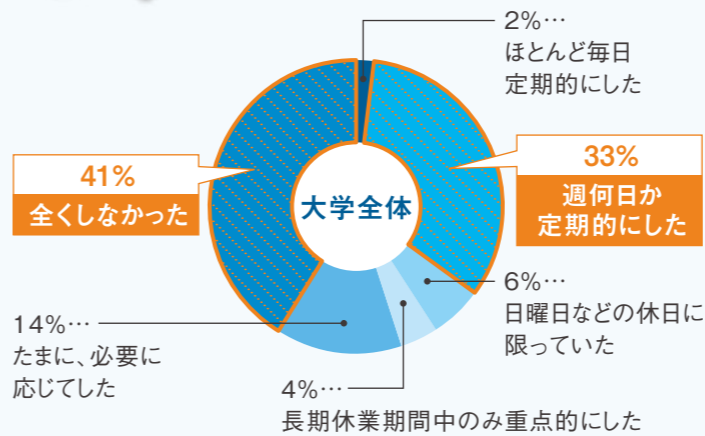
学部	23	48	22	5
学部全体	23	48	22	5
地域学部	15	41	30	10
医学部	20	46	28	4
工学部	27	50	18	4
農学部	23	51	22	3

大学院	18	44	31	5
大学院全体	18	44	31	5
地域学研究科	12	38	38	12
医学系研究科	11	35	45	4
工学研究科	23	46	26	5
農学研究科	19	51	20	6
連合農学研究科	33		67	

性別	26	48	21	4
男性	26	48	21	4
女性	17	47	28	5

3.アルバイト

16 あなたは、この1年間にどの程度アルバイトをしましたか



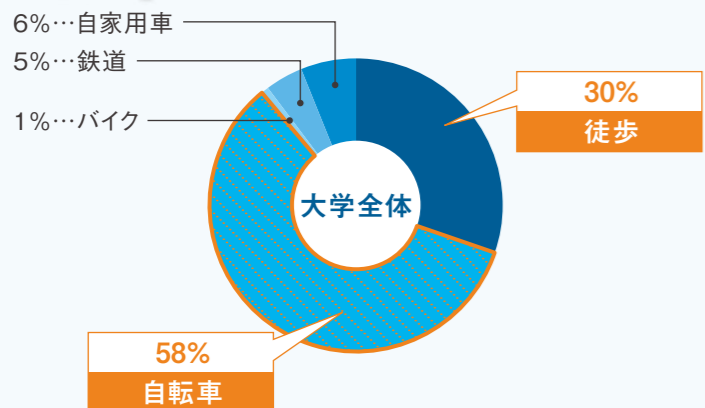
この1年間にどの程度アルバイトをしたかについて、大学全体では、「ほとんど毎日定期的にした」、「週何日か定期的にした」が併せて35%(前回と同じ)、約6割の学生がアルバイトをしています。しかし、「たまに、必要に応じてした」、「全くしなかった」を加えると5割を超えており、半数の学生はアルバイトを積極的には行っていません。

学部	33	5	4	13	43
学部全体	33	5	4	13	43
地域学部	36	6	3	13	40
医学部	28	7	11		50
工学部	30	4	6	10	48
農学部	40	6	4	17	32

大学院	32	10	22	33
大学院全体	32	10	22	33
地域学研究科	52	8	12	28
医学系研究科	37	5	16	41
工学研究科	29	11	25	31
農学研究科	31	14	24	29
連合農学研究科	22	34	11	33

性別	31	5	4	14	44
男性	31	5	4	14	44
女性	37	8	3	15	36

15 あなたの通学方法は何ですか



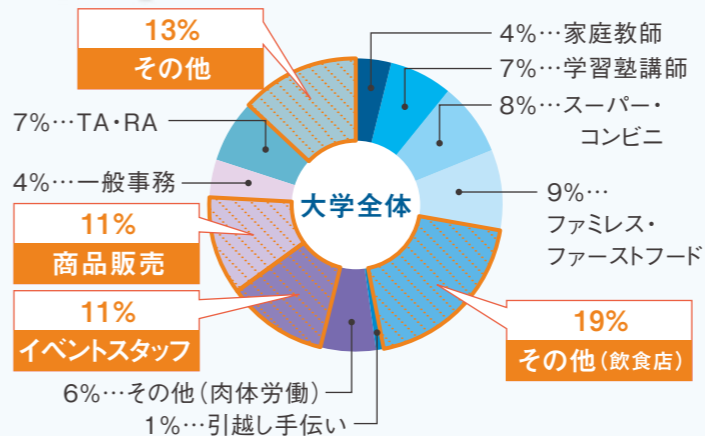
通学方法について、大学全体をみると87%以上の学生が「徒歩」又は「自転車」を利用しています。これも大学周辺に住んでいる学生が多いからだと思います。また、公共交通機関もほとんど利用されていないことが分かります。

学部	28	62	5	4
学部全体	28	62	5	4
地域学部	25	53	14	6
医学部	27	60	4	7
工学部	30	61	4	3
農学部	27	64		4

大学院	40	38	18
大学院全体	40	38	18
地域学研究科	34	35	31
医学系研究科	10	45	42
工学研究科	55	32	3
農学研究科	36	53	4
連合農学研究科	45	11	11

性別	29	60	3	6
男性	29	60	3	6
女性	30	56	7	6

17-1 「問16」の質問でアルバイトをしたと答えた人に尋ねます 主にどんなアルバイトをしましたか



主にどんなアルバイトをしたかについて、大学全体では「飲食店」が19%、「その他」が13%、「イベントスタッフ」と「商品販売」が11%で、特に職種による偏りはありません。また、大学院学生は、ティーチングアシスタントとその他の比率が高くなっています。

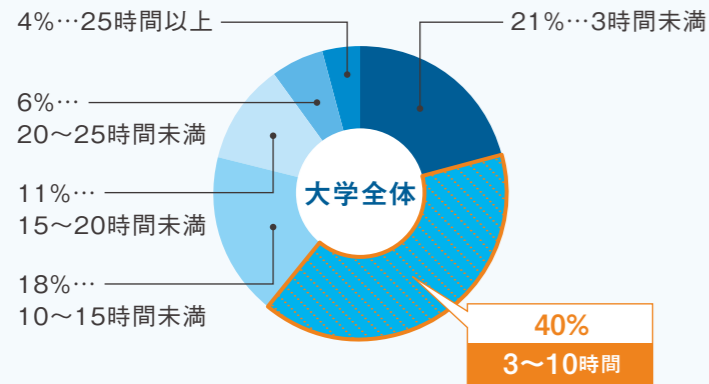
学部	5	7	8	9	22	6	12	12	5	12
学部全体	5	7	8	9	22	6	12	12	5	12
地域学部	4	9	7	8	21	3	12	11	7	16
医学部	12	13	5	10	24	12	7		14	
工学部	3	7	10	9	21	8	10	13	5	11
農学部	5	5	7	10	19	7	14	13	5	12

大学院	5	5	7	6	11	4	4	6	4	30	16
大学院全体	5	5	7	6	11	4	4	6	4	30	16
地域学研究科	11	14	4	7	14	4	4			28	14
医学系研究科	8	9	5	8	3	20				43	
工学研究科	3	8	7	9	7	5	9	4		36	8
農学研究科	4	4	7	7	17	3	6	6	3	30	13
連合農学研究科	11	22	11							45	11

性別	4	7	9	8	17	8	9	10	5	9	12
男性	4	7	9	8	17	8	9	10	5	9	12
女性	5	7	6	10	23	3	12	12	4	4	14

3.アルバイト

17-2 1週間平均何時間くらいアルバイトをしましたか



1週間平均何時間くらいアルバイトをしたかについて、大学全体では「3時間未満」が21%、「3~10時間未満」が40%と6割の学生が10時間未満となっています。また、25時間を超える学生も各入学年度別にいるようです。

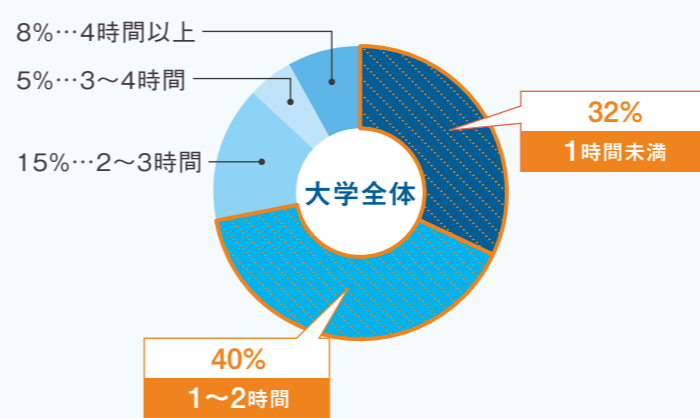
学部	学部全体 (%)				
	10時間未満	10~15時間未満	15~20時間未満	20~25時間未満	25時間以上
学部全体	19	40	19	12	6
地域学部	16	41	21	11	8
医学部	21	54	11	7	4
工学部	16	38	18	14	8
農学部	24	36	21	12	5

大学院	大学院全体 (%)				
	10時間未満	10~15時間未満	15~20時間未満	20~25時間未満	25時間以上
大学院全体	28	42	15	7	4
地域学研究科	11	50	22	11	6
医学系研究科	25	38	20	5	10
工学研究科	32	39	14	8	4
農学研究科	31	47	10	6	4
連合農学研究科	49	17	17	17	

性別	性別 (%)				
	10時間未満	10~15時間未満	15~20時間未満	20~25時間未満	25時間以上
男性	23	35	18	12	7
女性	18	46	19	11	4

4.自宅または下宿等での生活

18-1 あなたは授業以外で1日何時間程度勉強していますか



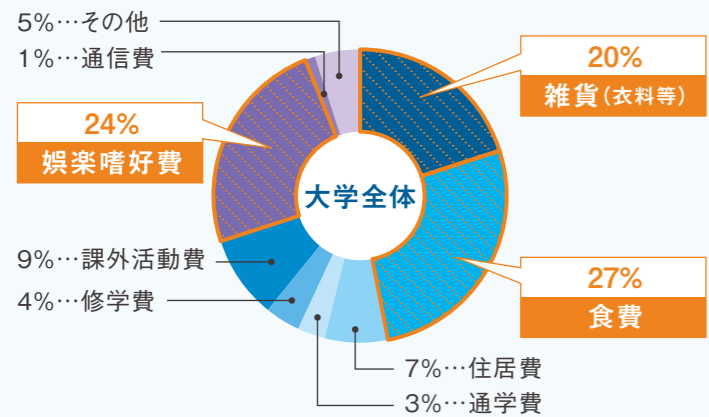
授業以外での勉強時間について、大学全体でみると「1時間未満」が32%、「1~2時間未満」が40%と7割を超える学生が2時間未満となっています。また、学部学生と大学院学生との比較では、大学院学生は「3時間以上」と答えた学生が33%と学部学生より勉強時間が多くなっている傾向となっています。男子学生と女子学生については、ほぼ同じ結果となっています。

学部	学部全体 (%)				
	1時間未満	1~2時間	2~3時間	3~4時間	4時間以上
学部全体	34	42	14	4	6
地域学部	40	37	14	3	6
医学部	38	44	11	4	3
工学部	31	44	16	3	6
農学部	32	44	14	5	5

大学院	大学院全体 (%)				
	1時間未満	1~2時間	2~3時間	3~4時間	4時間以上
大学院全体	20	27	20	10	23
地域学研究科	4	23	35	23	15
医学系研究科	22	25	17	9	27
工学研究科	23	27	18	10	22
農学研究科	12	31	24	9	24
連合農学研究科	22	22	34	22	

性別	性別 (%)				
	1時間未満	1~2時間	2~3時間	3~4時間	4時間以上
男性	32	38	16	5	9
女性	31	43	14	5	7

17-3 アルバイトの収入は何に使いましたか。または使う予定ですか



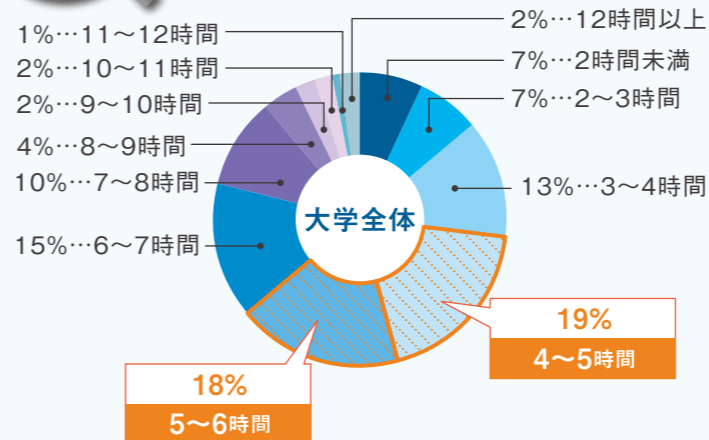
アルバイト収入の用途について、大学全体でみると「食費」が27%、「娯楽嗜好費(旅行を含む)」が24%、「雑貨(衣料等)」が20%で衣食住に係るものや自分の趣味・娯楽に使うことが多いようです。また、学部学生と大学院学生との比較では、大学院学生は「課外活動費」や「娯楽嗜好費」が少ない分、食費や住居費の比率が高いです。修学費については、各属性とも大きな差は見られません。

学部	学部全体 (%)					
	食費	娯楽嗜好費	雑貨(衣料等)	課外活動費	住居費	通信費
学部全体	22	26	5	3	10	25
地域学部	23	20	5	5	9	29
医学部	22	19	3	15	28	3
工学部	21	29	5	3	10	23
農学部	20	27	7	4	9	25

大学院	大学院全体 (%)					
	食費	娯楽嗜好費	雑貨(衣料等)	課外活動費	住居費	通信費
大学院全体	15	37	13	4	6	18
地域学研究科	7	33	7	13	13	17
医学系研究科	11	38	26	3	6	10
工学研究科	16	39	8	4	5	21
農学研究科	19	29	9	3	6	23
連合農学研究科	9	27	37	18	9	

性別	性別 (%)					
	食費	娯楽嗜好費	雑貨(衣料等)	課外活動費	住居費	通信費
男性	17	31	7	4	4	9
女性	24	23	6	3	10	24

18-2 授業を含めると、1日平均何時間くらい勉強していますか



授業を含めると、1日平均何時間勉強しているかについて、大学全体でみると「4~5時間」が19%、「5~6時間」が18%、「6~7時間」が15%、「3~4時間」が13%、「7~8時間」が10%で、7割以上の学生が1日3時間~8時間の勉強をしているようです。また、学部学生と大学院学生との比較では、8時間以上で学部学生9%、大学院学生21%とここでも大学院学生が多く勉強している結果が出ています。男子学生と女子学生については、ほぼ同じ結果となっています。

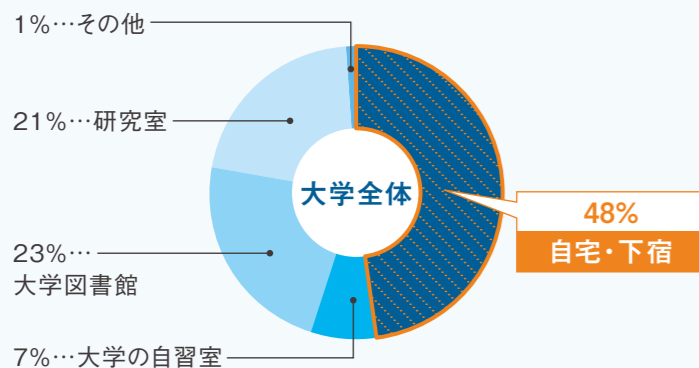
学部	学部全体 (%)					
	3時間未満	3~4時間	4~5時間	5~6時間	6~7時間	7時間以上
学部全体	6	6	12	21	20	16
地域学部	7	8	12	18	21	18
医学部	3	3	4	16	20	23
工学部	5	7	15	22	20	16
農学部	7	6	12	20	21	13

大学院	大学院全体 (%)					
	3時間未満	3~4時間	4~5時間	5~6時間	6~7時間	7時間以上
大学院全体	12	13	13	15	9	9
地域学研究科	4	12	15	19	19	15
医学系研究科	19	16	11	8	5	4
工学研究科	10	11	15	19	11	10
農学研究科	13	12	14	11	6	11
連合農学研究科	11	45	11	11	11	11

性別	性別 (%)					
	3時間未満	3~4時間	4~5時間	5~6時間	6~7時間	7時間以上
男性	7	8	14	20	18	14
女性	6	6	10	20	19	17

4. 自宅または下宿等での生活

19 授業以外で勉強する場所は、主にどこですか



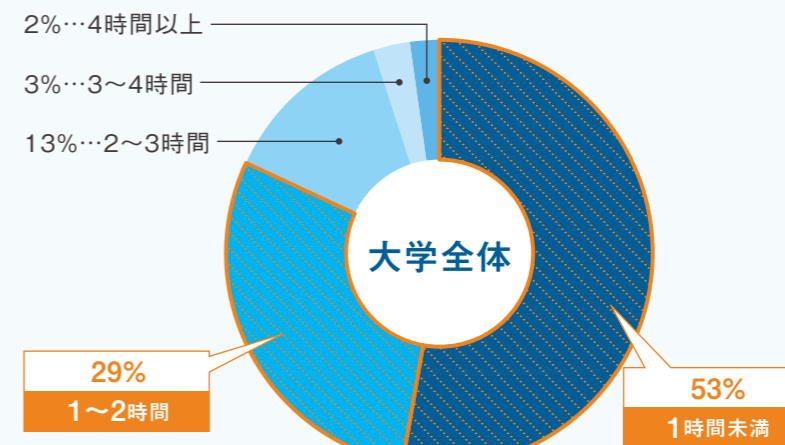
学部	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
学部全体	54	7	26	11	
地域学部	55	12	28	4	
医学部	61	11	24	3	
工学部	54	7	22	15	
農学部	48	4	32	15	

大学院	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
大学院全体	18	4	75		
地域学研究科	19	15	12	50	4
医学系研究科	30	4	57	9	
工学研究科	14	3	82		
農学研究科	15	3	82		
連合農学研究科	22	11	67		

性別	1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4時間以上
男性	48	6	20	24	
女性	48	8	27	15	

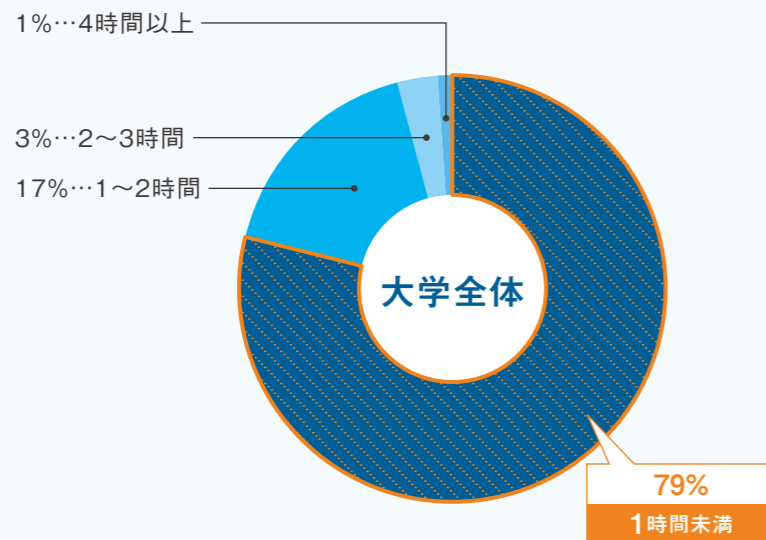
授業以外で勉強する場所は、主にどこかについて大学全体で見ると「自宅・下宿」が48%、「大学図書館」が23%、「研究室」が21%になっています。また、学部学生と大学院学生との比較では、学部学生は、「自宅・下宿」、「大学図書館」の比率が高く、大学院学生は「研究室」での勉強が多い結果となっています。

21 1日平均何時間くらいテレビを見ていますか



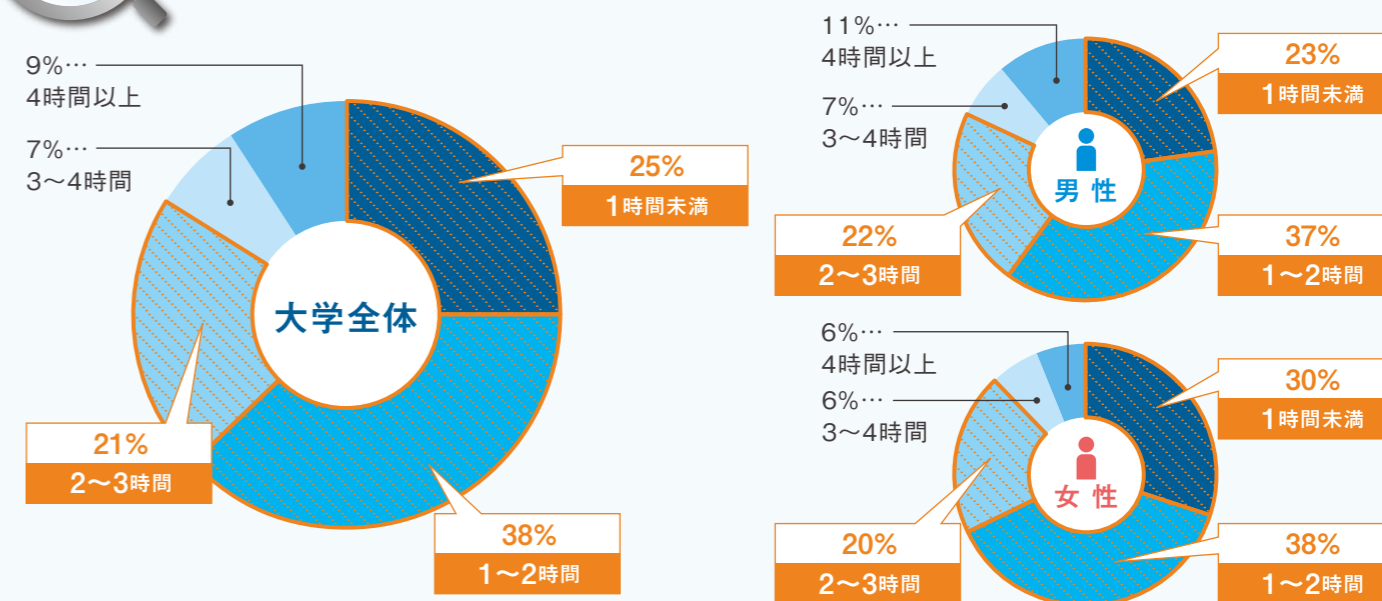
自宅又は下宿で1日平均何時間くらいテレビを見ていますかについて、「1時間未満」が53%、「1～2時間」が29%で8割を超える学生が2時間未満となっています。属性による比較については、学年別、学部、大学院別、男・女についてほとんど差は見られません。最近では、インターネットやSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)が普及しており、必ずしもテレビを見て過ごすだけのライフスタイルではないようです。

20 授業に関すること以外で、1日平均何時間くらい読書していますか



授業に関すること以外で1日平均何時間くらい読書しているかについて、大学全体で見ると「1時間未満」が79%と約8割の学生が読書をしていない傾向があるようです。最近では、インターネットやメールなどの利用が多いですが、読書の重要性についても理解してもらう必要があります。

22 1日平均何時間くらいインターネット、メールをしていますか

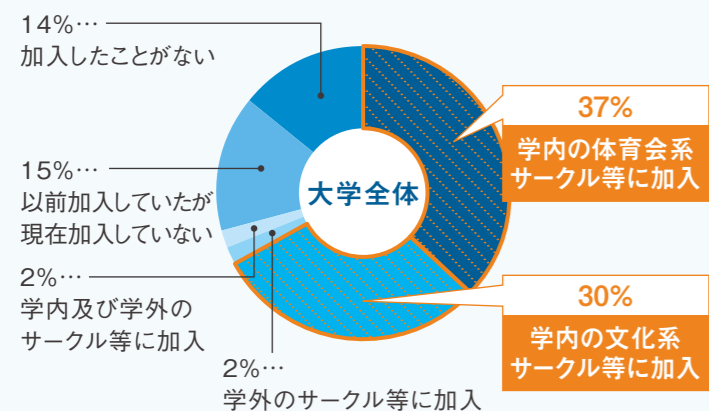


自宅又は下宿で1日平均何時間くらいインターネット、メールをしているかについて、大学全体では「1～2時間」が38%、「1時間未満」が25%、「2～3時間」が21%になっています。利用していない学生はほとんどなく、学生生活においては欠かすことができないものとなっています。また、女子学生よりは男子学生の方が利用が多い傾向となっています。

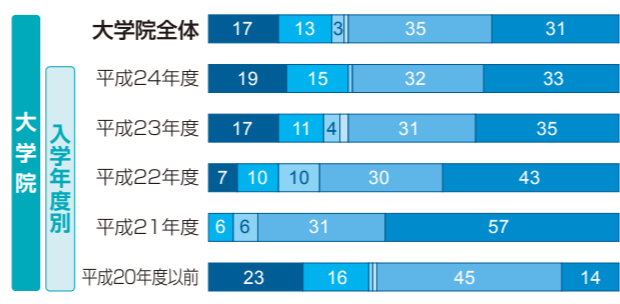
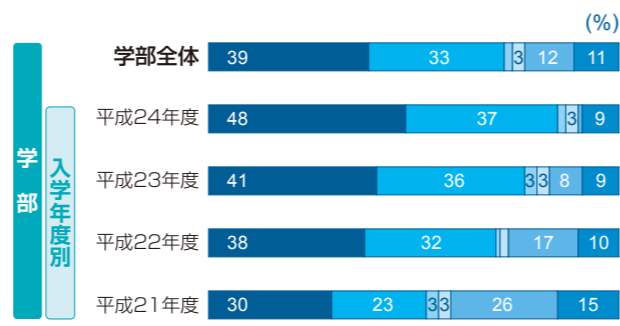
5. 課外活動

23

あなたは、平成24年7月1日現在、サークル等(同好会を含む)に入っていますか

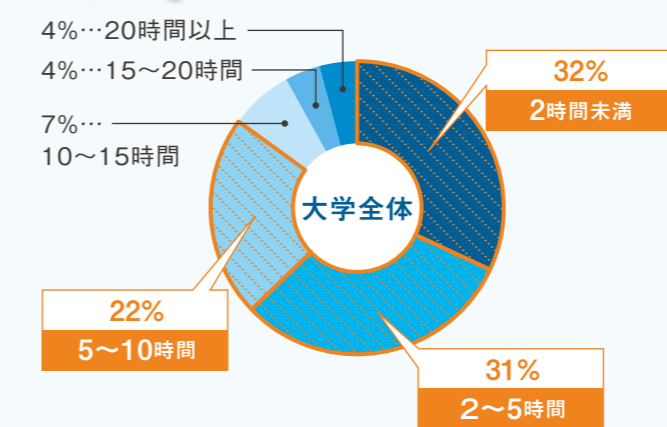


サークル等に入っているかについて、大学全体でみると「学内の体育系サークル等に参加」が37%、「学内の文化系サークル等に参加」が30%で6割を超える学生がサークルに参加しています。入学年度別にみると1年生の加入率は高いですが、高学年になるにつれて低くなる傾向となっており勉強時間や就職活動で時間的余裕がないと考えられます。



24-2

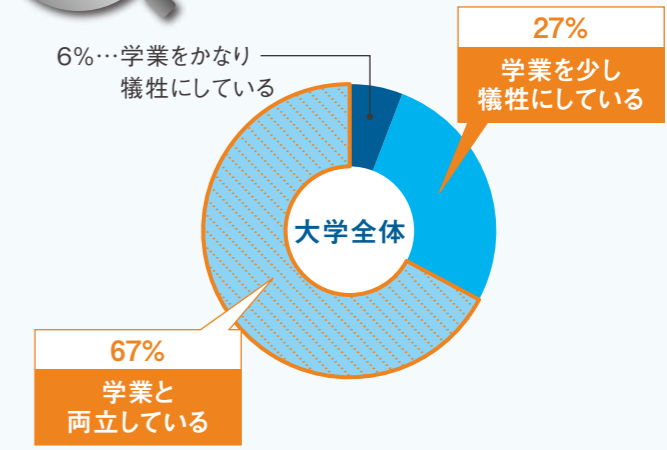
あなたは、サークル等で1週間平均何時間くらい活動していますか



サークル等で1週間に平均何時間活動しているかについて、大学全体でみると「2時間未満」が32%、「2~5時間」が31%で6割の学生が5時間未満となっています。学部学生と大学院学生との比較については、学部学生は「2~5時間」が多く、大学院学生は「2時間未満」が多くなっています。また、「20時間以上」活動している学生も4%います。

24-3

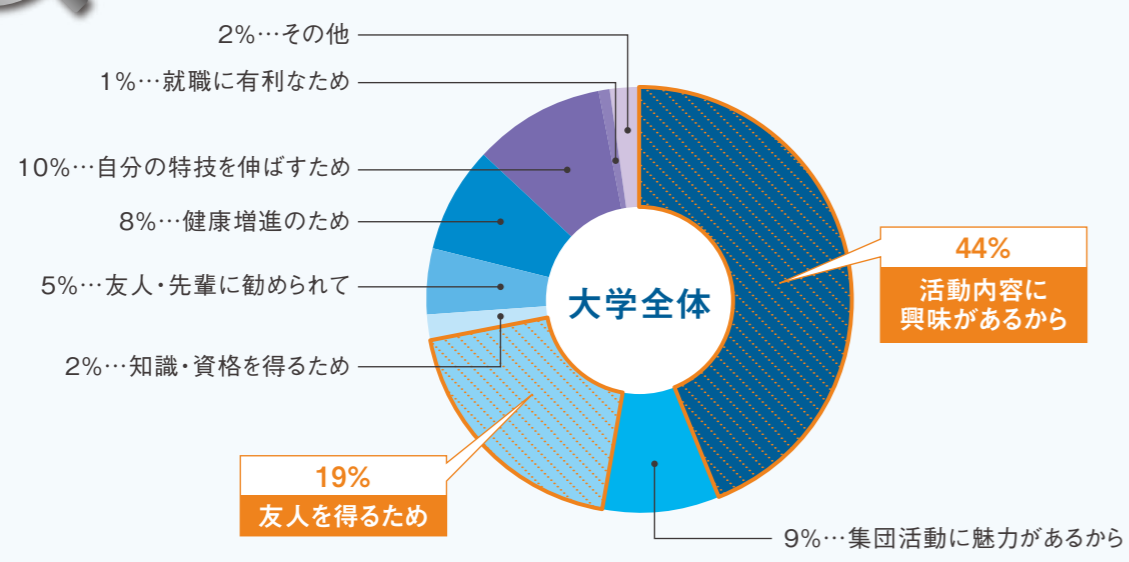
サークル活動と学業の関係はどうか



サークル活動と学業の関係について、大学全体では「学業と両立している」が67%で一番多いですが、学業をかなり犠牲にしている学生も6%います。学部学生と大学院学生との比較については、学部学生が66%、大学院学生が80%と大学院学生の方がうまく両立されているようです。

24-1

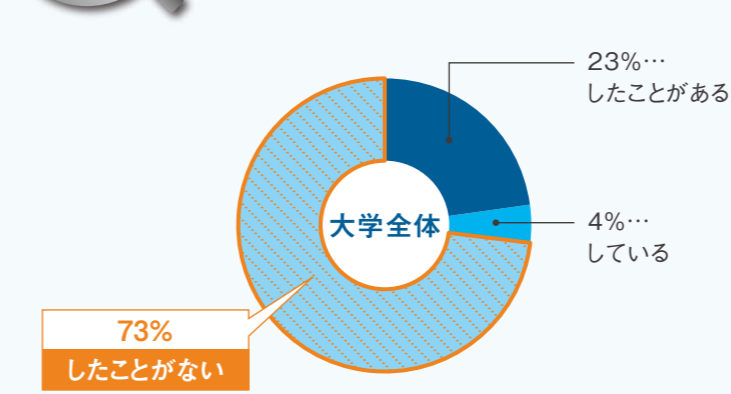
あなたがサークル等に入っている理由は何ですか (選択肢から2つまで選んで回答)



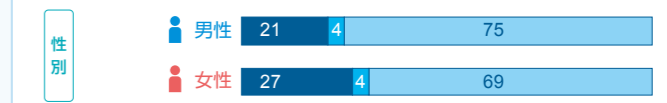
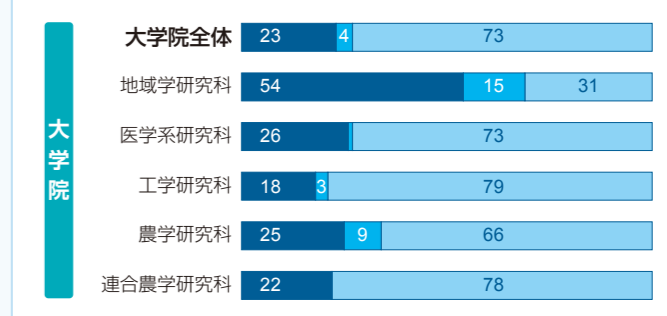
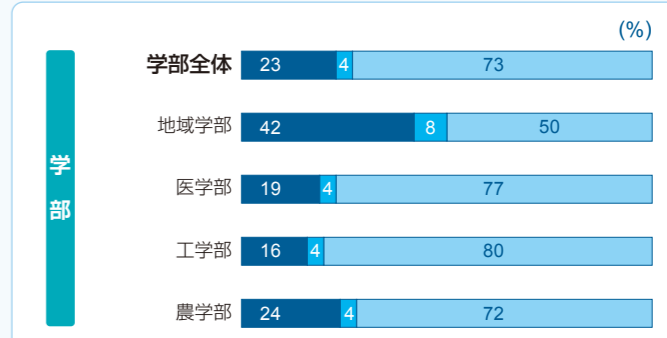
サークル等に入っている主な理由について、大学全体でみると「活動内容に興味があるから」が44%、「友人を得るため」が19%、「自分の特技を伸ばすため」が10%となっており、サークル活動が自分の興味や特技に合っている事が大きな理由だと考えられます。

25-1

ボランティア活動について尋ねます。あなたは、最近1年間にボランティア活動をしたことがありますか。またはしていますか



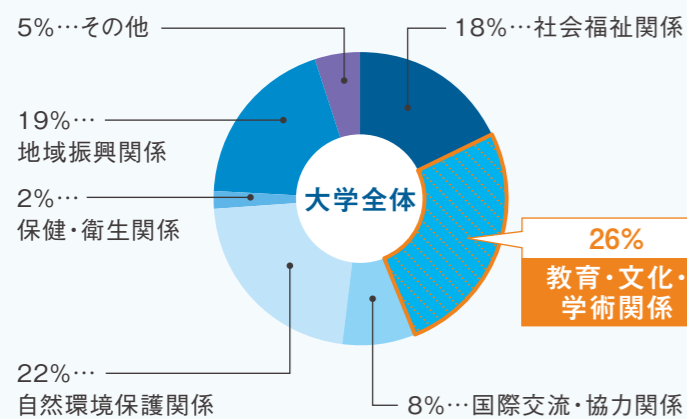
最近1年間のボランティア活動の経験がある学生は約23%、現在も継続中の学生は4%で、低い割合だといえます。学部・研究科別に見ると、地域学部では半数が、地域学研究科では約7割の学生にボランティア経験があります。しかしそれに次ぐのは農学部28%、農学研究科34%であり、医学部23%、医学研究科27%、工学部20%、工学研究科21%と、全般的にはボランティア活動はそれほど活発ではない現状がうかがえます。男女別でみると、男性の25%に対して女性が31%という結果も興味を引かれるところです。



5. 課外活動

25-2
I

ボランティア活動を「したことがある」「している」と答えた人に尋ねます
それはどのような活動分野のものでしたか

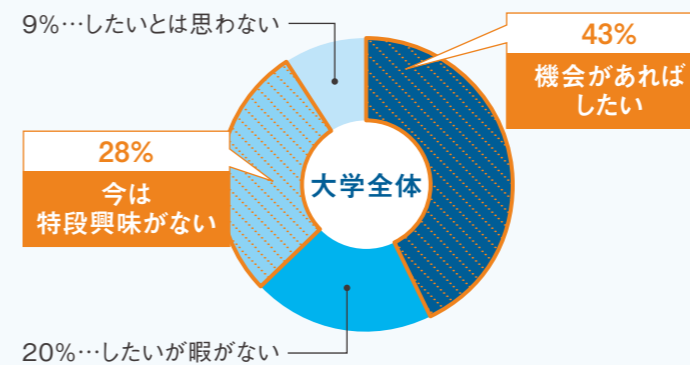


ボランティアの活動分野についてはそれほど大きな偏りはありませんでした。一番多いのは「教育・文化・学術関係」であり、次いで自然環境保護関係でした。その担い手として学部・研究科ごとの偏りは相対的に少なく、活動分野は比較的広がりを見せていることがうかがえます。たとえば全体の約2割を占める「地域振興関係」に携わっている学生は必ずしも地域学部にも所属しているわけではなく、すべての学部にはほぼ均等に存在しているのは興味深いことです。

学部	学部全体 (%)				
	17	25	9	22	20
地域学部	16	46	8	6	20
医学部	33	17	12	17	3
工学部	16	18	8	29	4
農学部	13	15	10	33	3
大学院全体	23	28	6	19	17
地域学研究科	33	39	6	11	11
医学系研究科	36	25	11	7	14
工学研究科	13	24	4	30	22
農学研究科	22	27	13	17	17
連合農学研究科	100				
性別					
男性	21	22	6	26	18
女性	14	30	12	16	22

25-3

ボランティア活動を「したことがない」と答えた人に尋ねます
今後、機会があれば活動してみたいと思いますか

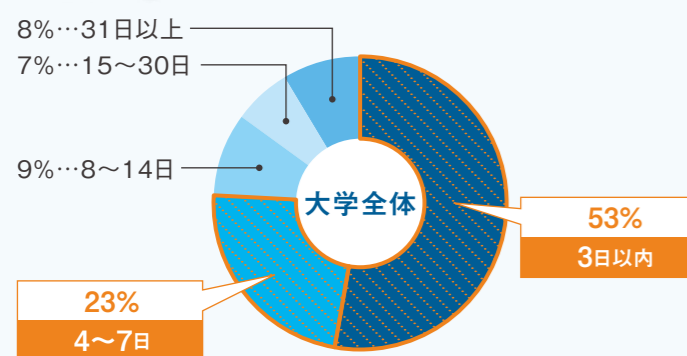


「機会があればしたい」と回答した学生は43%にとどまり、半数以上の学生は「したいが暇がない」「今は特段興味がない」「したいとは思わない」と今後の自分のボランティア活動参加への展開に消極的であるといえます。「機会があればしたい」の回答率が高かったのは地域学部と医学部でした。男女比をみると、ここでも「機会があればしたい」と回答した女性は54%で、男性の38%を大きく上回りました。女性の方がボランティア活動に積極的な回答を示すことについてより丁寧な分析が試みられてもよいかもしれません。

学部	学部全体 (%)				
	44	19	28	9	
地域学部	63	12	20	5	
医学部	55	21	19	5	
工学部	38	19	32	11	
農学部	40	21	29	10	
大学院全体	41	23	28	8	
地域学研究科	17	33	50		
医学系研究科	47	28	16	9	
工学研究科	36	24	32	8	
農学研究科	56	14	22	8	
連合農学研究科	20	20	60		
性別					
男性	38	20	31	11	
女性	54	19	22	5	

25-2
II

ボランティア活動を「したことがある」「している」と答えた人に尋ねます
この1年間の活動日数はどの程度でしたか

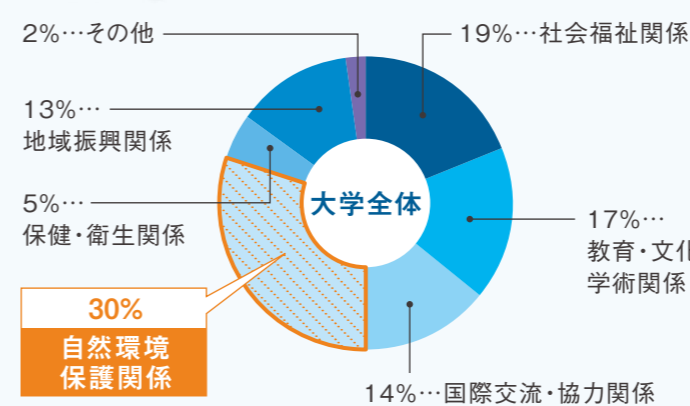


前掲の「活動分野」では学生たちは多様なボランティア活動に携わっているように見えるが、その活動日数は全体の半数以上が「3日以内」であり、「7日以内」になると全体の4分の3を占めます。このことから継続的なボランティア活動にかかわる学生はそれほど多くないことがわかります。東日本大震災を経験し、より長期的にこの時代の課題に取り組む必要が生じているこの社会の現実を鑑みると、継続的なボランティア活動に取り組もうとする学生が増えることが望まれます。

学部	学部全体 (%)				
	53	23	9	6	9
地域学部	47	21	10	11	11
医学部	56	21	7	6	10
工学部	59	25	6	5	5
農学部	47	25	13	3	12
大学院全体	57	22	10	7	4
地域学研究科	46	12	18	18	6
医学系研究科	67	22	4	7	
工学研究科	64	23	11		
農学研究科	44	30	9	17	
連合農学研究科	100				
性別					
男性	51	26	9	6	8
女性	55	19	10	7	9

25-4

ボランティア活動を「機会があればしたい」「したいが暇がない」と答えた人に尋ねます
活動するとすれば、どのような活動分野ですか

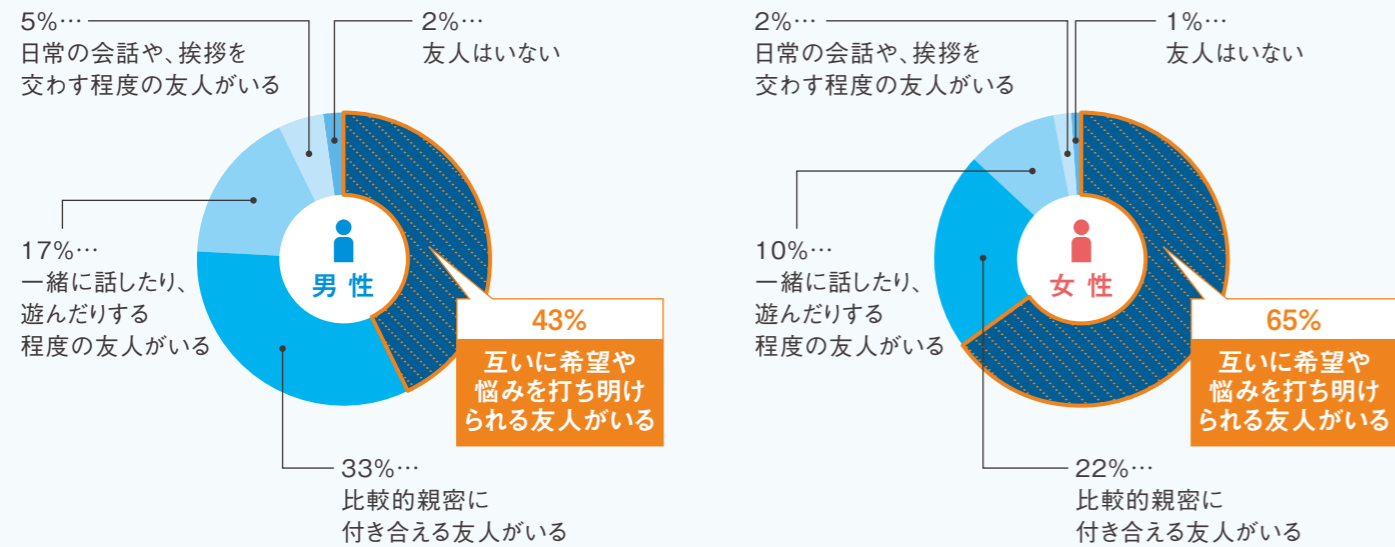


この回答も前掲の「問25の2」と同様、多様な領域にまんべんなく回答が分散していました。これらの回答が「これまでの活動分野」を問う「問25の2」とやや異なるのは、「教育・文化・学術関係」が減少し、「自然環境保護関係」の回答が増えていることです。これは、これからの時代の大きな課題は「自然環境保護関係」であるとより多くの学生が認識するようになってきていることの現れでしょうか。

学部	学部全体 (%)				
	19	18	14	31	5
地域学部	19	32	12	15	20
医学部	37	10	12	13	18
工学部	18	19	13	29	3
農学部	9	12	19	49	3
大学院全体	25	14	12	28	6
地域学研究科	67				
医学系研究科	34	16	16	13	16
工学研究科	24	13	12	34	15
農学研究科	20	10	10	35	5
連合農学研究科	50				
性別					
男性	19	17	12	33	3
女性	19	17	18	26	8

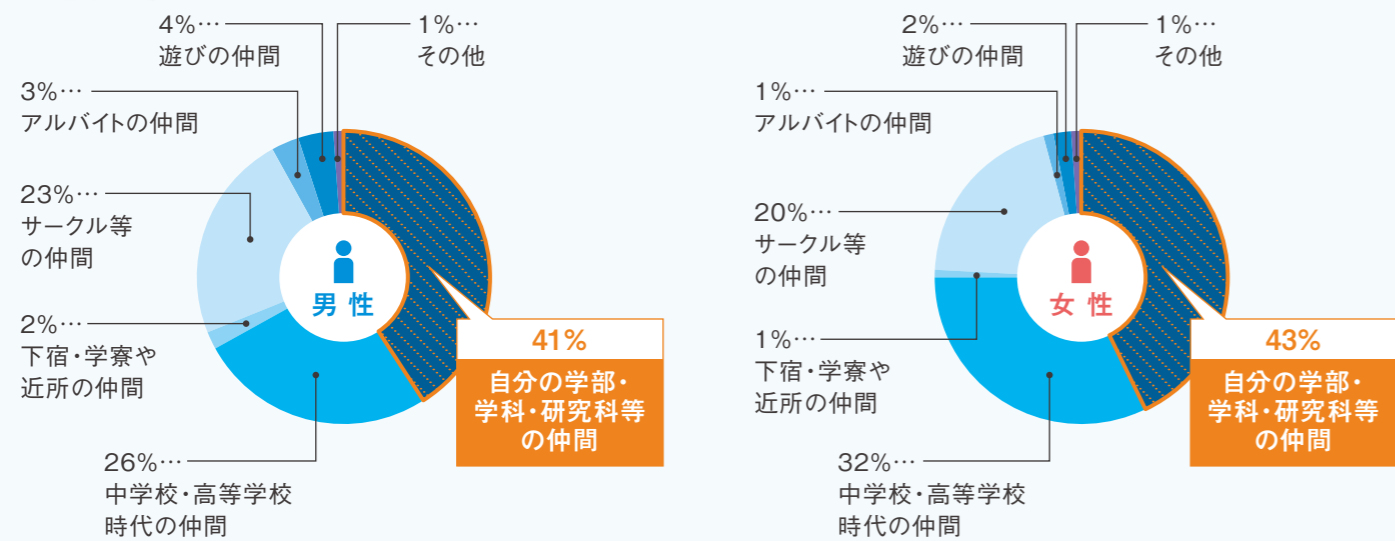
6.人間関係

26 あなたは、どの程度付き合える友人がいますか



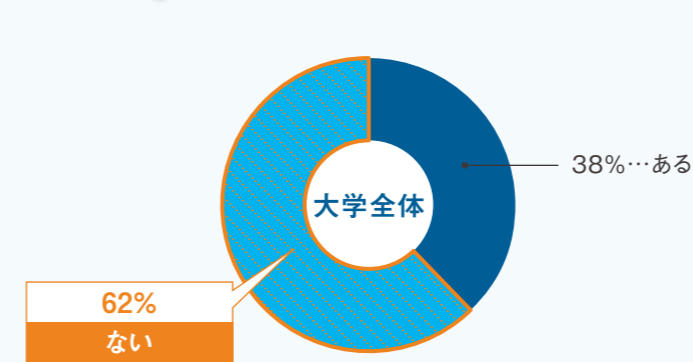
平成24年度に、「親密に話すことのできる友人がいる」と回答した割合は、学部学生で75%~85% (平均80%)、修士(博士前期)課程で75%~85%、博士(博士後期)課程で40%~75%、さらに、男性75%、女性85%です。その割合は、平成18年~21年まで85%程度でしたが、平成22年度に80%以下となり、その後平成24年まで80%以下のままで推移しています。「親密に話すことのできる友人がいない」学部学生20%に、相談の受け皿を用意する必要があるか否かについて、詳細な調査が望まれます。

27 「互いに希望や悩みを打ち明けられる友人」や「比較的親密に付き合える友人」がいると答えた方へそれはどのような友人ですか

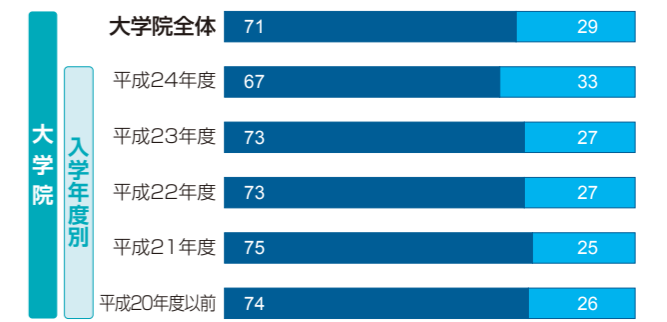
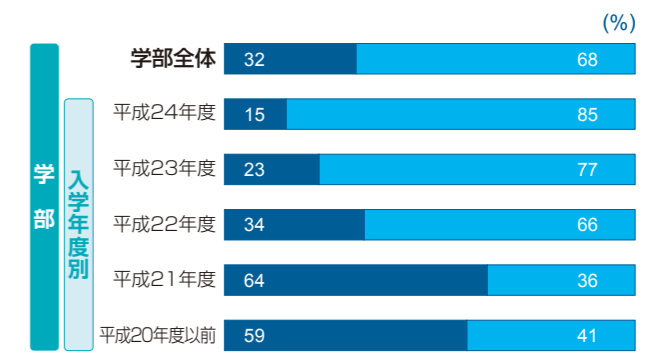


友人関係の大多数が、大学関係者(学部学生、大学院学生、教職員)と中学・高校時代の友人です。外部、一般社会への人間関係の広がりが少ないことが懸念されますが、地方都市での生活を考えれば、当然の結果であるとも思われます。むしろ、問26で「親密に話すことのできる友人がいない」点を優先的に議論すべきでしょう。「親密に話すことのできる友人がいない」学部学生20%が、親しい友人を求めているのであれば、誘導できる環境整備も必要です。

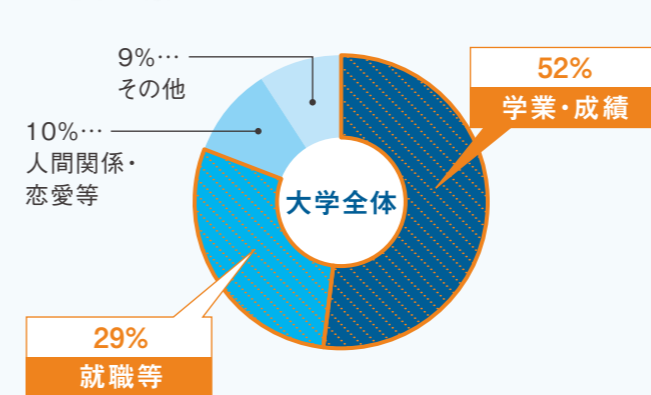
28 あなたは、教員と親しく話し合ったり、または相談したりすることがありますか



教員に親しく話し合ったり相談することがあるかについては、学部全体で約3分の1の学生しか教員に相談したことがなく、特に1年生は22%と極端に少なくなっています。これは2年前のアンケートとほぼ同じ結果であり、状況は改善されていません。チュータ制度やオフィスアワー制度を有効に活用するなど、学生が教員により相談しやすい環境を作る必要があると言えます。4年生や大学院の学生はそれぞれ65%、71%と高い値になっています。

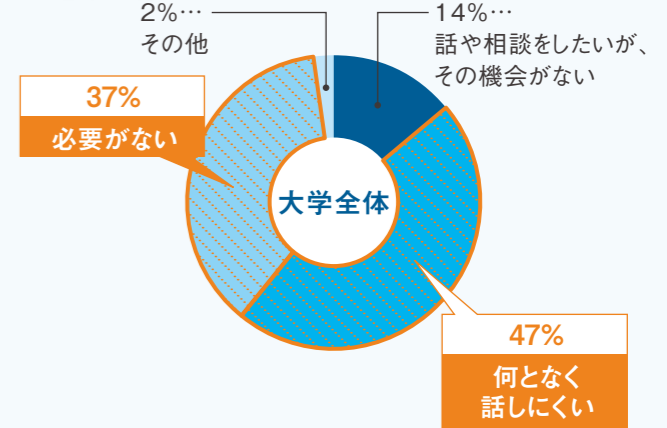


29 教員と親しく話し合う等がある方へその内容は、どのようなものですか



教員への相談内容については、大学全体で「学業や成績」が52%で一番多く、次に「就職等」が29%となっています。「人間関係・恋愛等」は10%と少なく、個人的な内容は教員には相談しにくいことが分かります。

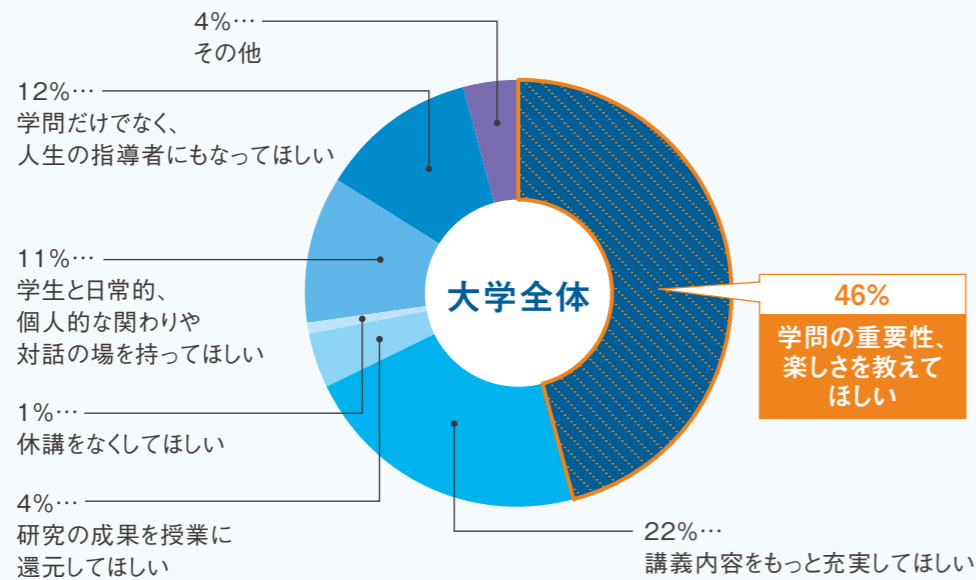
30 教員と親しく話し合う等がない方へそれはどのような理由によるのですか



教員に相談したことがない理由については、「なんとなく話しにくい」が47%と最も多く、「必要がない」が37%、「話や相談したいが、その機会がない」が14%となっています。学生が気軽に相談できるようにするには、教員は学生にとってより身近な存在になることが必要であり、単に相談の場を増やすだけでなく、日頃の学生への接し方も重要と言えます。

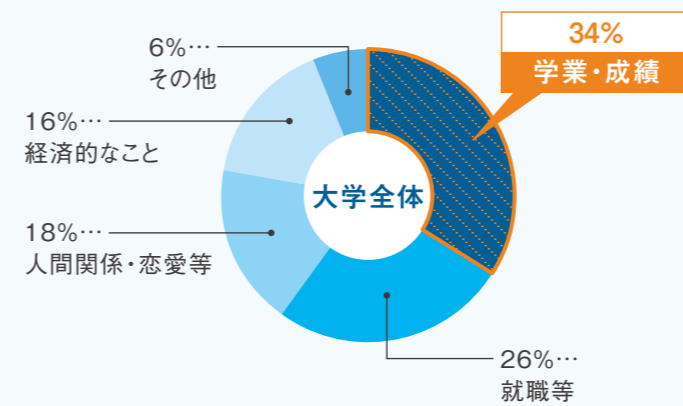
5.人間関係

31 あなたは、本学の教員にどんなことを最も期待しますか



教員に対する期待については、「学問の重要性、楽しさを教えてほしい」が46%、「講義内容をもっと充実してほしい」が22%となっており、講義に関する要望が多く寄せられています。講義以外にも、「学問だけでなく、人生の指導者にもなってほしい」が12%、「学生と日常的な関わりや対話の場を持ってほしい」が11%など、日常生活や人生についても多くの学生が相談することを希望しています。

33 保護者と親しく話しあったり等が「ある」と答えた方に尋ねます その内容は、どのようなものですか



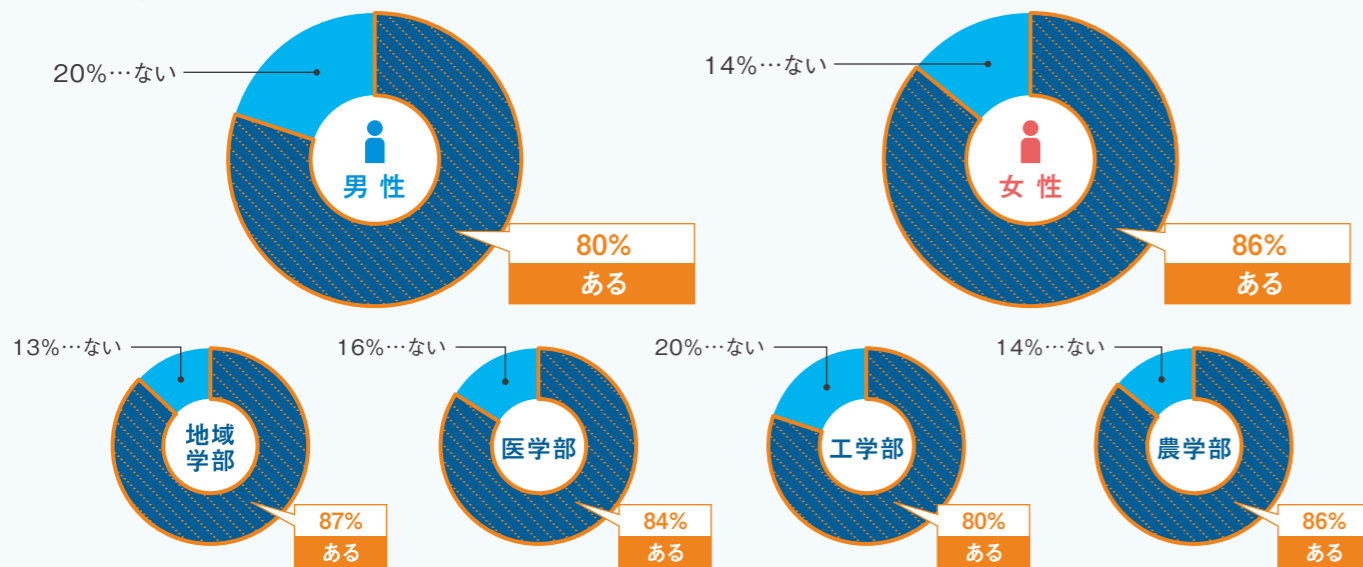
全体的には、学業・成績や就職に関する内容が6割程度を占め、人間関係や経済的な事柄が続いています。男女別では、学業・成績や就職に関する内容を除いて、女性は人間関係・恋愛等の内容で、男性は経済的なことでの相談が多いようです。学部・大学院別では、学部では学業・成績が、大学院では就職に関する内容が多いようです。学部別では、医学部で特に学業・成績や人間関係に関する内容が他学部より多く、工学部では経済的なことが多いようです。

学部	学部全体 (%)				
	男性	女性	男性	女性	男性
学部全体	37	24	17	16	6
地域学部	30	27	22	15	6
医学部	40	15	25	13	7
工学部	37	27	12	19	5
農学部	37	24	18	14	7

大学院	大学院全体 (%)				
	男性	女性	男性	女性	男性
大学院全体	23	36	18	19	4
地域学研究科	20	36	19	19	6
医学系研究科	23	23	29	19	6
工学研究科	25	41	11	20	3
農学研究科	21	38	26	13	
連合農学研究科	15	39	31	15	

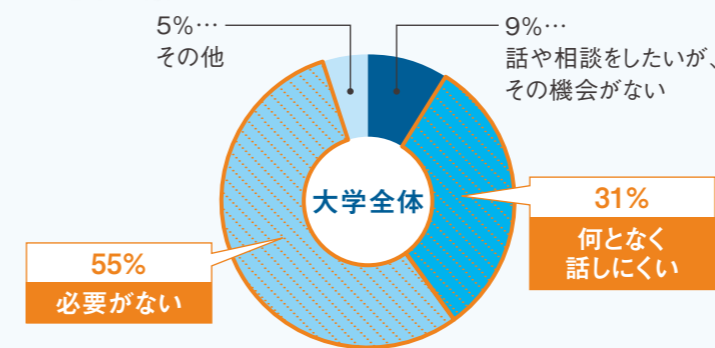
性別	性別 (%)				
	男性	女性	男性	女性	男性
男性	35	29	11	19	6
女性	32	22	28	12	6

32 あなたは、保護者と親しく話しあったり、又は相談したりすることがありますか



全体的に、ほとんどの学生は、保護者とコミュニケーションが良好に取れているようです。男女別では、男性よりも女性の方が保護者との親密な関係が伺えます。学部別では、工学部が他学部より保護者とのコミュニケーションが若干低いようです。

34 保護者と親しく話しあったり等が「ない」と答えた方に尋ねます それはどのような理由によるのですか



保護者と親しく話し合ったり、相談したりすることが無い学生の多くは、相談する「必要がない」が最も多く、次いで、「なんとなく話しにくい」となっており、日頃から保護者とのコミュニケーションの不足が推察されます。

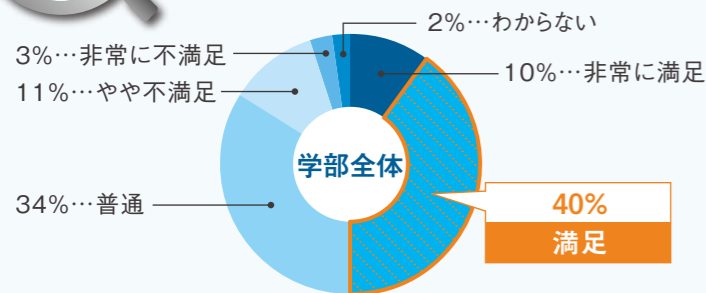
学部	学部全体 (%)				
	男性	女性	男性	女性	男性
学部全体	8	30	57	5	
地域学部	8	34	52	6	
医学部	4	35	57	4	
工学部	9	29	59	3	
農学部	6	30	55	9	

大学院	大学院全体 (%)				
	男性	女性	男性	女性	男性
大学院全体	12	33	51	4	
地域学研究科	17	83			
医学系研究科	15	31	42	12	
工学研究科	7	42	51		
農学研究科	14	29	50	7	
連合農学研究科	50	50			

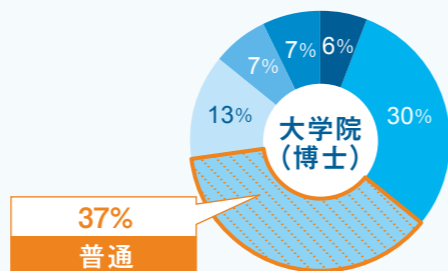
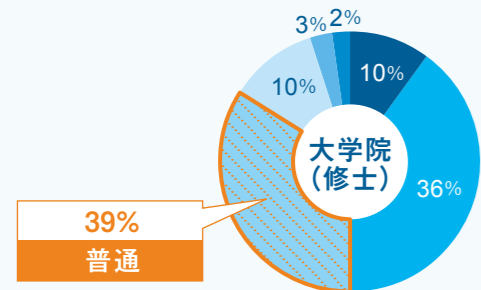
性別	性別 (%)				
	男性	女性	男性	女性	男性
男性	8	29	59	4	
女性	9	37	46	8	

5. 学生生活

35 あなたは、現在の学生生活に満足していますか

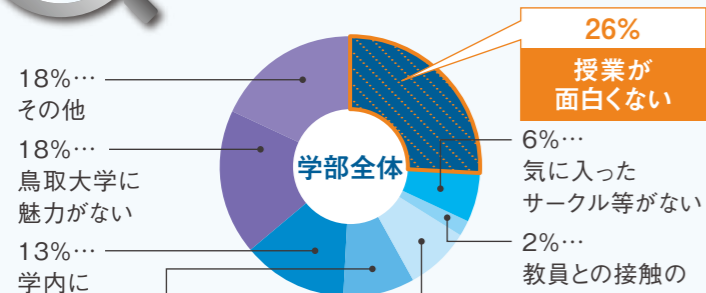


	非常に不満足	やや不満足	普通	満足	わからない
地域学部	12	39	33	11	3
医学部	12	43	28	13	3
工学部	7	37	39	12	3
農学部	13	43	33	8	

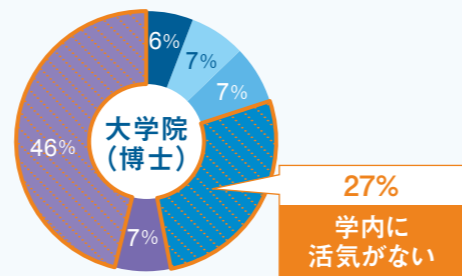
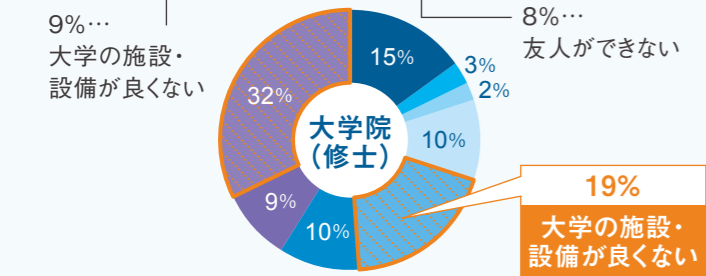


前回の調査では、学部学生において「非常に満足」と「満足」の合計は44%であったのに対し、今回は50%と満足度は増加したと思われる。また、大学院では、修士(博士前期)課程、博士(博士後期)課程となるにつれ、「非常に満足」と「満足」の合計が46%、36%と減少しています。

36 「問35」の質問で「やや不満足」「非常に不満足」と答えた方に尋ねます その理由は何ですか

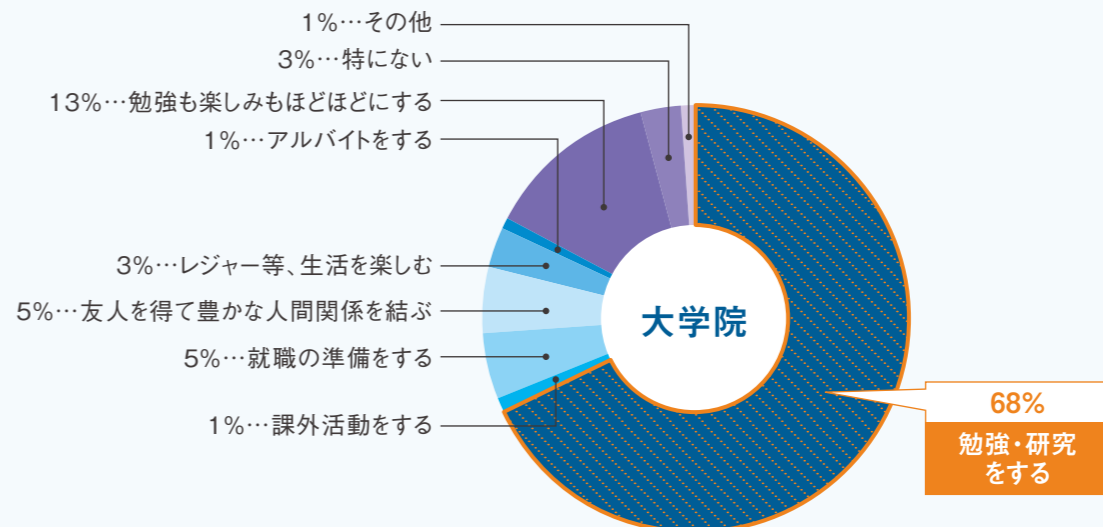
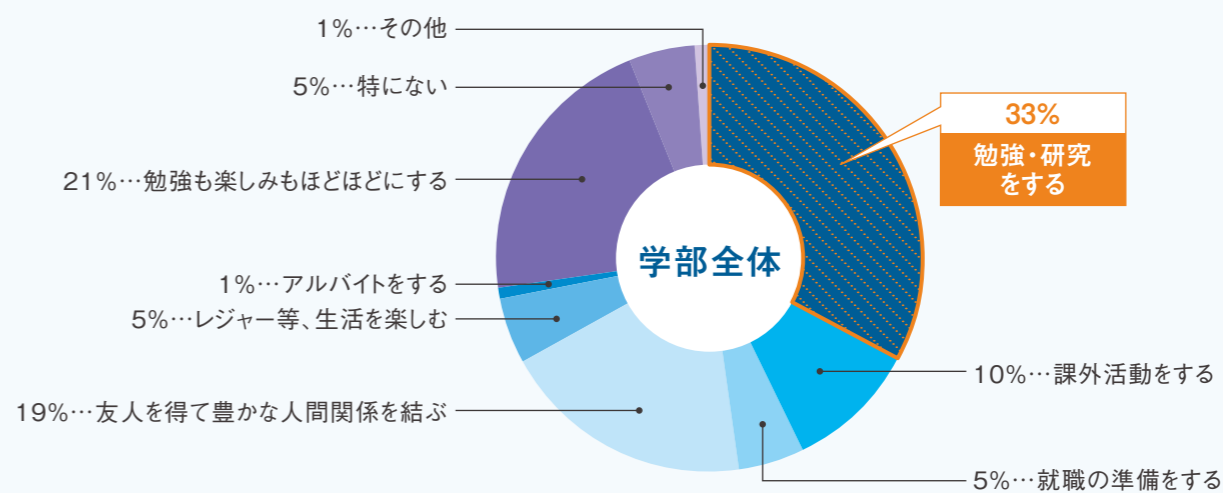


	非常に不満足	やや不満足	普通	満足	わからない
学部全体	28	6	7	9	13
地域学部	27	9	4	5	13
医学部	30	5	4	22	11
工学部	25	6	11	9	12
農学部	25	5	4	4	7



満足していない理由としては、学部学生では、「授業が面白くない」(26%)、「鳥取大学に魅力がない」(18%)「その他」(18%)でした。修士では、70件の回答のうち「大学の施設・設備が良くない」13件、「授業が面白くない」11件で、「その他」23件のうち「研究に関すること」7件、「人間関係」が5件でした。博士では13件の回答のうち「研究に関すること」5件、「学内に活気がない」4件でした。なお、「その他」の意見としては、「教員や友人などの人間関係」を挙げる者がもっとも多かったです。

37 あなたは、現在の学生生活の中でどのような点に最も重点をおいて行動していますか

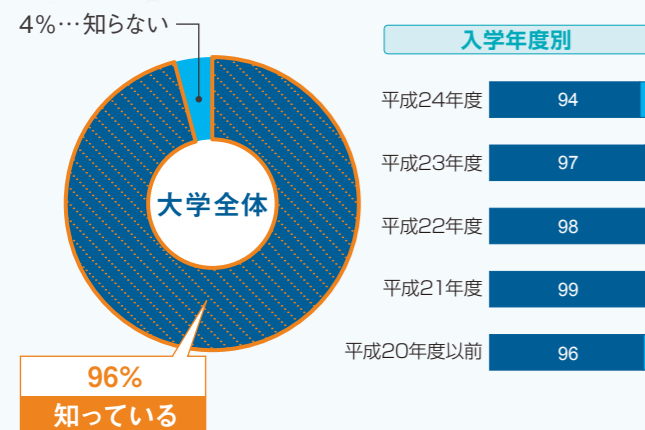


入学年度別	勉強・研究をする	友人を得て豊かな人間関係を結ぶ	友人を得て豊かな人間関係を結ぶ	友人を得て豊かな人間関係を結ぶ	友人を得て豊かな人間関係を結ぶ	友人を得て豊かな人間関係を結ぶ	友人を得て豊かな人間関係を結ぶ	友人を得て豊かな人間関係を結ぶ	友人を得て豊かな人間関係を結ぶ
平成24年度	27	11	25	4	21	7			
平成23年度	30	9	3	17	7	25	5		
平成22年度	33	12	9	14	4	21	3		
平成21年度	47	6	8	13	6	15	3		
平成20年度以前	45	4	14	7	6	19	3		

最も多かったのは、学部、大学院とも「勉強・研究をする」でした。特に、大学院では68%と2/3以上の学生が研究を重点にしていることがわかりました。学部学生を見ると「勉強・研究をする」(33%)に続いて「勉強も楽しみもほどほどにする」(21%)、「友人を得て豊かな人間関係を結ぶ」(19%)、「課外活動をする」(10%)でした。また、入学年度で見ると、低学年ほど多方面に関心を持っていることがわかりました。

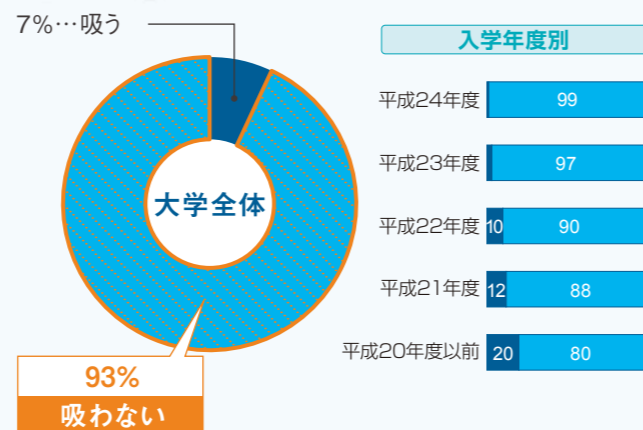
5. 学生生活

38 あなたは、構内全面禁煙が実施されていることを知っていますか



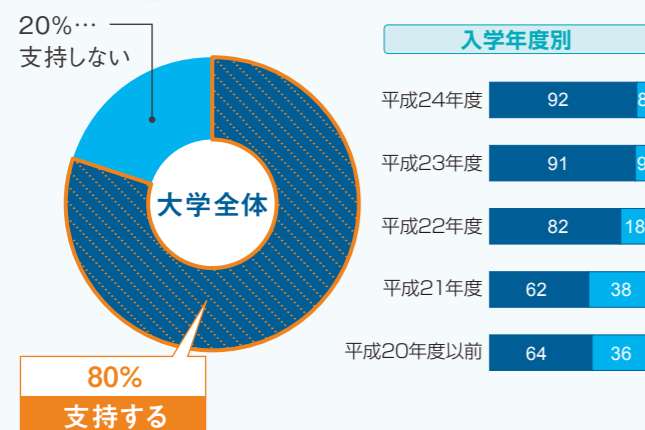
平成21年10月に構内全面禁煙が実施されて約3年が経過し、全体では96%の学生が知っていました。構内全面禁煙が実施された時点で在籍していた平成21年度入学以前の学生は、印象に残っているため、「知っている」割合が高くなっていました。逆に、入学時から構内全面禁煙となっていた平成22年入学生以降は、意識することがなかったためか、「知らない」割合が高くなっていました。

39 あなたは、煙草を習慣的に吸いますか



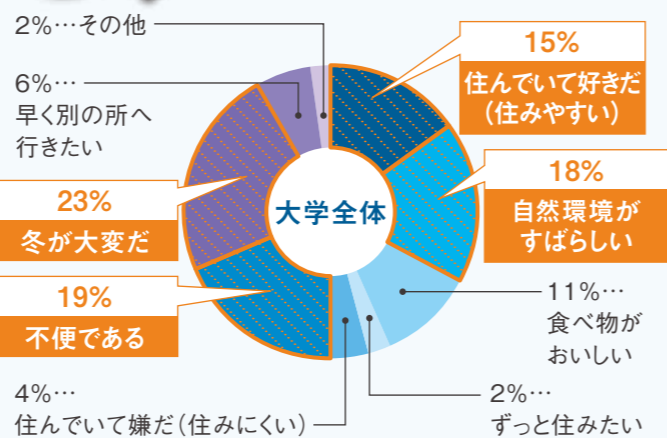
全体では「吸う」人の割合は7%で、前回の10%より減少しています。これは、健康に関心を持ったこと、もしくは、平成22年10月にたばこ税が増税された影響のどちらかと思われる。また、入学年度ごとに見ると、学年進行とともに喫煙率が上昇しています。さらに、男女別の喫煙率は、男性が10%であったのに対し、女性は1%であり、これも前回の調査よりもそれぞれ3ポイント減少しました。

40 あなたは、構内全面禁煙をどう思いますか



全体では「支持する」が80%と前回調査との比較では、6ポイント上昇して支持が広がってきました。これも入学年度ごとに見ると、学年進行とともに支持率が下がっており平成21年度入学生以前では、1/3が「支持しない」と回答しました。また、最後の自由記載欄にたばこに関するコメントが多くあり、その中で「喫煙者のマナー」に関する記載が多かったです。これは、大学周辺での喫煙が見苦しい、その後の吸い殻のポイ捨てについての意見が多く寄せられました。それに関連し「喫煙室の設置」を求める声もみられました。

41 鳥取の印象について尋ねます



「自然環境が好き」(18%)や「住んでいて好きだ」(15%)の肯定的な意見と「冬が大変だ」(23%)や「不便である」(19%)の否定的な意見がほぼ半数ずつで、前回の調査結果とほぼ同じでした。特に前回との大きな変化は、「冬が大変だ」が5ポイント増加しました。ここ2年間の大雪により、そのような印象を与えたと思われる。また、その他の意見としては、「家賃などの物価が低い」、「人が優しい」、「遊ぶところが少ない」、「テレビのチャンネルが少ない」などの意見がありました。

学生支援体制編

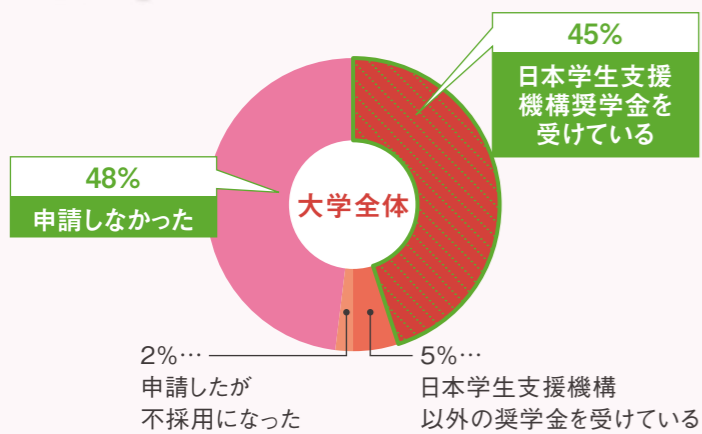
鳥取大学における、経済、学習、生活、就職の支援体制についてや、進学について考えていることを解答してもらいました。



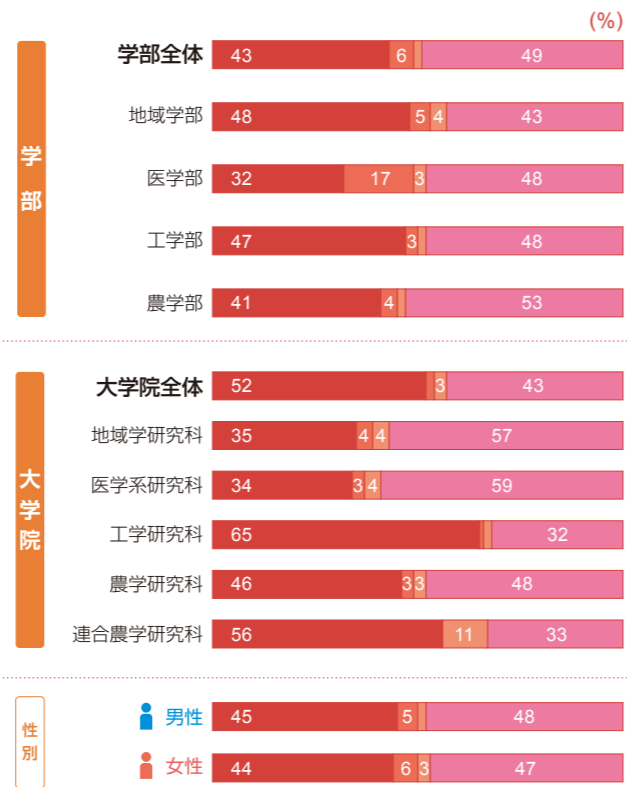
2

1. 経済支援体制

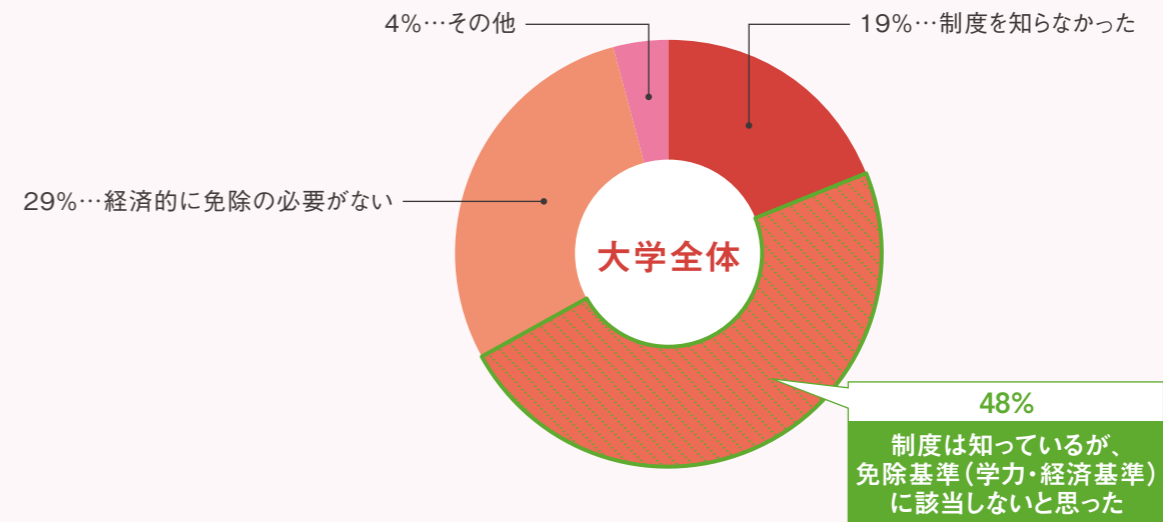
1 あなたは、なんらかの奨学金を受けていますか



前回の調査では、「日本学生支援機構の奨学金を受けている」が48%であったのに対し、今回は45%と若干減少しています。一方、「日本学生支援機構以外の奨学金を受けている」は前回4%から5%に微増となっています。奨学金の受給割合は、学部学生全体では49%、大学院学生全体では54%と、やはり大学院学生の方が奨学金を受けている割合が高くなっています。「申請したが不採用になった」が前回より若干減少、「申請しなかった」は反対に若干増加しています。

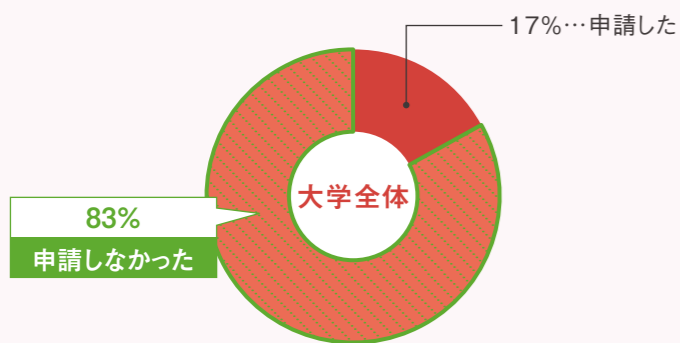


3 問2で「申請しなかった」と答えた方に尋ねます 申請しなかった主な理由は何ですか

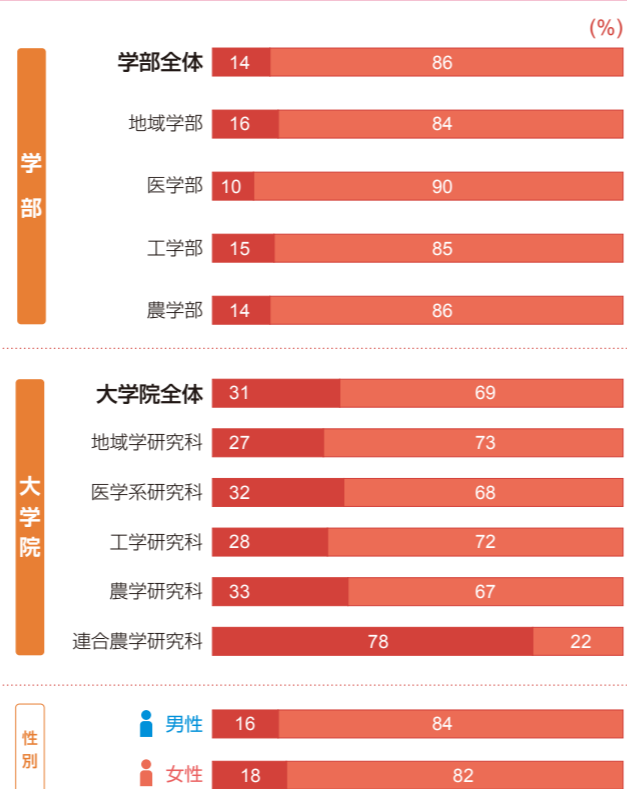


前回の調査では、「制度を知らなかった」が17%であったのに対し、今回は19%でした。同じ「制度は知っているが、免除基準に該当しないと思った」が前回54%に対し、今回は48%となっています。一方、「経済的に免除の必要がない」は、前回24%に対し、今回29%と増えています。「制度を知らなかった」については、学部学生の1年生が最も多く25%となっており、2年生、3年生、4年生はそれぞれ20%、14%、13%となっています。1年生が多いのは、入学時に授業料免除に対する説明が不十分なこと、並びに入学手続時に入学料と合わせて授業料を支払う手続の案内の方法が不十分であることが推測されます。

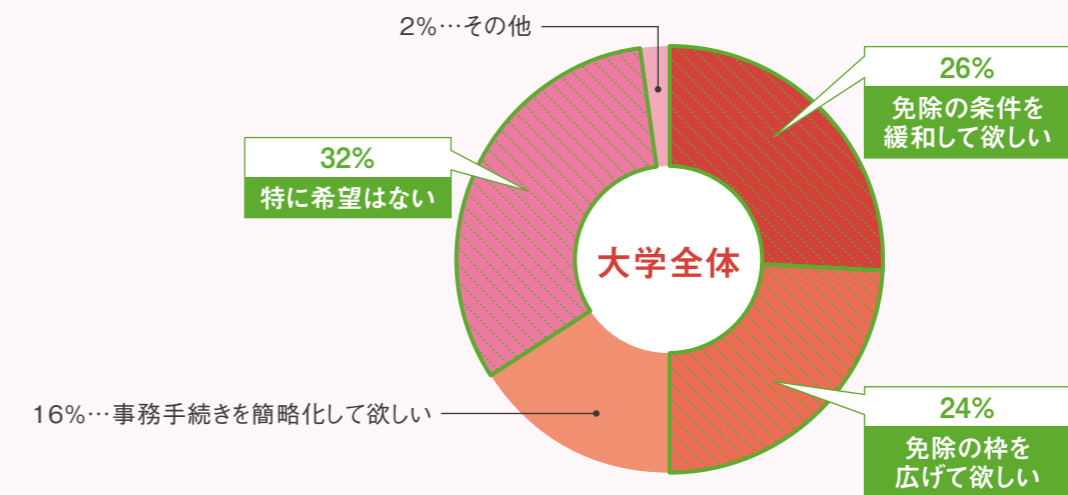
2 あなたは、平成24年度前期の授業料免除を申請しましたか



学部学生全体では「申請した」が前回調査と同じく14%であったのに対し、大学院生全体では、前回調査の25%に対して、31%に増加しています。全体では前回調査16%に対し、今回は17%と微増となっています。調査結果は、前回調査と比較して微増ですが、平成23年度から授業料免除に対する予算を拡充しているため、全額免除の割合がかなり高くなりました。



4 授業料免除について要望することがありますか

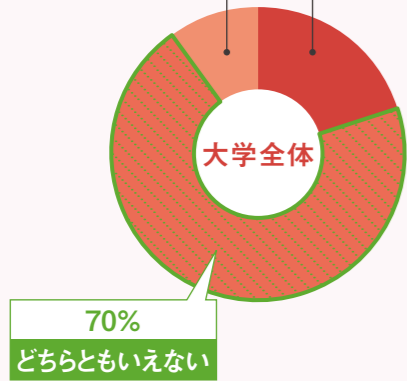


前回の調査では、「免除の条件を緩和してほしい」が29%、「免除の枠を広げてほしい」が32%、「事務手続きを簡略化してほしい」が20%でしたが、今回の調査では、順に26%、24%、16%といずれも減少しています。「特に希望はない」が前回18%であったのに対し、今回は31%と大幅に増加しています。その要因として、平成23年度から授業料免除の予算額が大幅に増えたことが推測されます。また、調査の時期に平成24年度後期分の免除申請手続について周知しており、手続を簡略したことも要因と思われます。

2. 学習支援体制

5-1 あなたの入学時の大学への期待感について、現在の心境を尋ねます

10%…期待はずれである 20%…期待通りである



「期待通り」は学部では平均19%、大学院でも平均26%にとどまり、「どちらとも言えない」が学部では70%、大学院でも65%に達します。「期待通り」の比重は、学年別では4年生でやや高く、3年生でやや低くなっています。学部別では農学部でやや高く、工学部でやや低くなっています。期待はずれの理由として、自由記述では、授業・カリキュラムの内容・水準に対する不満のほか、学習・厚生施設、立地条件、交友関係など、多岐にわたっています。

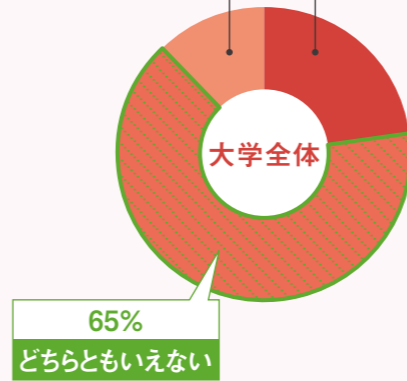
学部	学部全体		
	期待はずれ	期待通り	どちらともいえない
学部全体	19	70	11
地域学部	20	70	10
医学部	19	70	11
工学部	16	73	11
農学部	24	66	10

大学院	大学院全体		
	期待はずれ	期待通り	どちらともいえない
大学院全体	26	65	9
地域学研究科	54	42	4
医学系研究科	23	65	12
工学研究科	24	67	9
農学研究科	23	70	7
連合農学研究科	33	67	

性別	性別別		
	期待はずれ	期待通り	どちらともいえない
男性	20	68	12
女性	21	71	8

6 鳥取大学のカリキュラムについてどう思いますか

12%…期待はずれである 23%…期待通りである



「期待通り」は学部では平均22%、大学院でも平均25%にとどまり、「どちらとも言えない」が学部では66%、大学院でも62%に達します。「期待通り」の比重は、学年別では、前問とは対照的に高学年ほど低く、「期待はずれ」の比重も高学年ほど高くなっています。学部別では、医学部・農学部は「期待通り」が平均より高い反面、「期待はずれ」も他の学部より高くなっています。

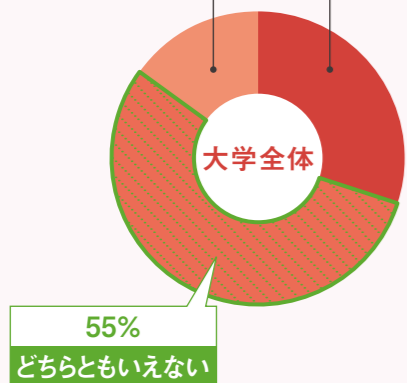
学部	学部全体		
	期待はずれ	期待通り	どちらともいえない
学部全体	22	66	12
地域学部	23	66	11
医学部	23	64	13
工学部	20	69	11
農学部	24	63	13

大学院	大学院全体		
	期待はずれ	期待通り	どちらともいえない
大学院全体	25	62	13
地域学研究科	35	57	8
医学系研究科	25	61	14
工学研究科	27	62	11
農学研究科	19	61	20
連合農学研究科	22	78	

性別	性別別		
	期待はずれ	期待通り	どちらともいえない
男性	22	64	14
女性	24	67	9

5-2 あなた自身の学習意欲について、現在の心境を尋ねます

15%…減退している 30%…高まっている



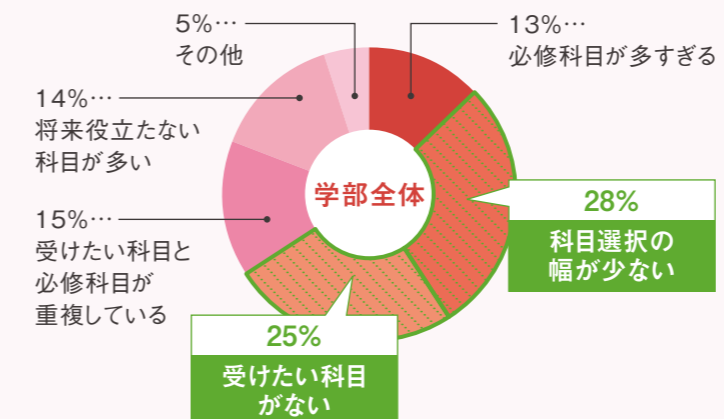
「高まっている」は学部では平均28%、大学院では平均41%に達し、「どちらとも言えない」は学部では56%、大学院では49%におよびます。前問と比較して肯定的回答がやや多く、期待通りではなかったけれども学習しよう、という意識の学生が少なからず存在することがうかがえます。「高まっている」の比重は、学年別では高学年ほど高く、学部別では農学部・地域学部で高くなっています。「減退している」理由としては、「難しくついていけない」というもの、逆に「高校の復習のようで退屈」というものに両極化しています。

学部	学部全体		
	減退している	高まっている	どちらともいえない
学部全体	28	56	16
地域学部	30	57	13
医学部	25	60	15
工学部	25	58	17
農学部	32	53	15

大学院	大学院全体		
	減退している	高まっている	どちらともいえない
大学院全体	41	49	10
地域学研究科	69	31	
医学系研究科	40	48	12
工学研究科	35	55	10
農学研究科	47	44	9
連合農学研究科	78	22	

性別	性別別		
	減退している	高まっている	どちらともいえない
男性	29	55	16
女性	31	57	12

7-1 問6で「どちらともいえない」「期待はずれである」と答えた方に尋ねます カリキュラムに不満があるとすれば、どういう点にありますか。全学共通科目の不满理由は何ですか (学部学生への質問/選択肢から2つまで選んで回答)



「科目選択の幅が少ない」が28%、「受たい科目がない」が25%で比較的高くなっています。自由記述では、授業内容・教授方法・評価基準に対する不満、そもそも専門と関係ない教養教育を履修しなければならないことへの疑問など、授業・カリキュラム上の問題に加えて、抽選にはずれて履修できないという制度上の問題への不満も散見されます。

学部	学部全体				
	減退している	高まっている	どちらともいえない	不満理由1	不満理由2
学部全体	13	27	25	16	14
地域学部	9	27	28	16	15
医学部	10	32	25	12	16
工学部	17	27	25	14	13
農学部	10	26	24	20	14

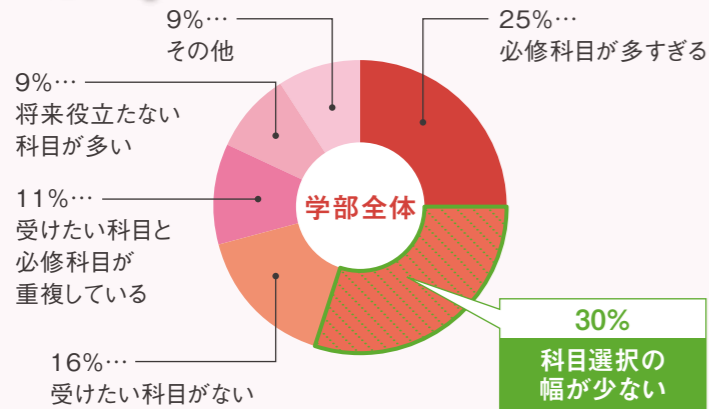
入学年度別	入学年度別				
	減退している	高まっている	どちらともいえない	不満理由1	不満理由2
平成24年度	17	27	23	14	15
平成23年度	10	26	29	20	12
平成22年度	10	28	30	14	13
平成21年度	10	31	23	15	14
平成20年度以前	16	33	17	14	14

性別	性別別				
	減退している	高まっている	どちらともいえない	不満理由1	不満理由2
男性	15	27	25	13	15
女性	9	28	25	21	12

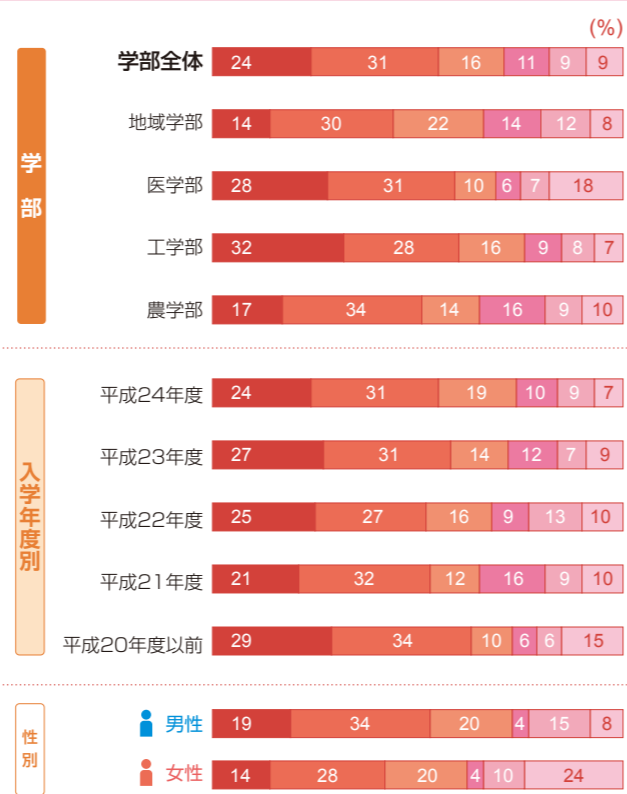
2. 学習支援体制

7-2

問6で「どちらともいえない」「期待はずれである」と答えた方に尋ねます
カリキュラムに不満があるとすれば、どのような点にありますか。専門科目の不満理由は何ですか
(学部学生への質問/ 選択肢から2つまで選んで回答)

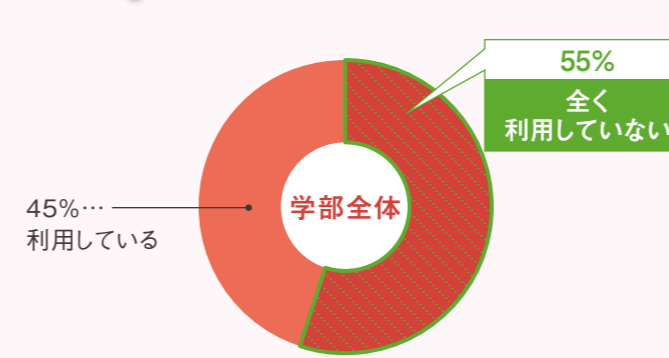


「必修科目が多すぎる」が25%、「科目選択の幅が少ない」が30%で比較的高くなっています。学部別では、地域学部の場合「受けたい科目がない」が22%で他の学部より高くなっています。自由記述では「特に不満はない」というものも多く、カリキュラムに対する不満の多くが主に前問の全学共通科目に対するものであったことがうかがえます。なお地域学部ではカリキュラム全体の科目編成や個別科目の内容・水準に関して、農学部では年次配当のバランスや留年制度の是非に関して、他の学部より不満が多くなっています。

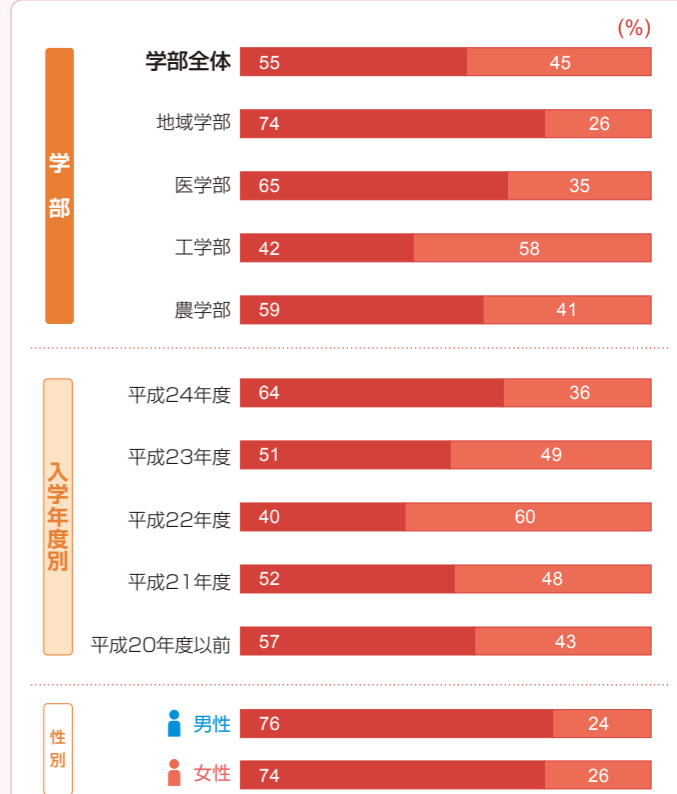


8

学部学生の人に尋ねます。「コミュニケーション英語」及び「情報リテラシ」以外の授業でパソコンを使用していますか

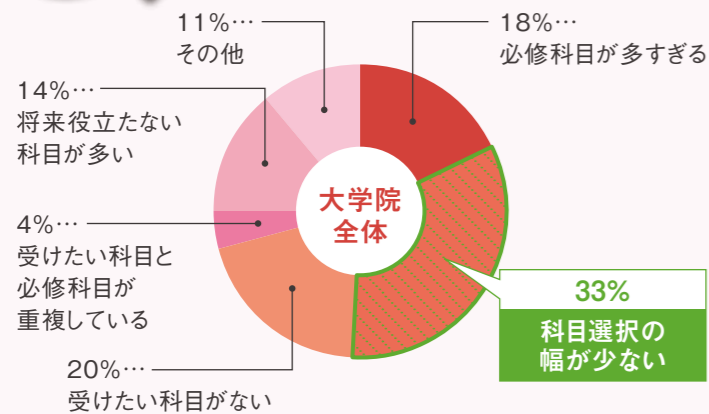


全体平均では「利用している」は45%で過半に達せず、「全く利用していない」が55%を占めます。「利用している」割合は、学部別では工学部が58%で最も高く、地域学部が26%で最も低くなっています。学年別では高学年ほど高いですが、ただし4年生以上になると逆に在学年数が長いほど低くなっています。各学部・学科に応じた専門性が高まるほど、全学共通仕様の必携パソコンでは対応が困難になっていることがうかがわれます。

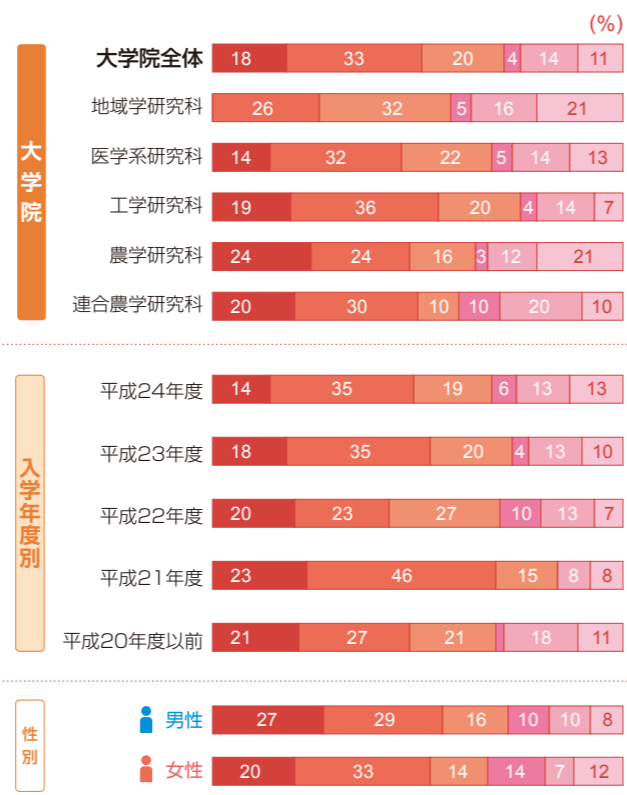


7-3

問6で「どちらともいえない」「期待はずれである」と答えた方に尋ねます
カリキュラムに不満があるとすれば、どのような点にありますか。授業科目の不満理由は何ですか
(大学院生への質問/ 選択肢から2つまで選んで回答)

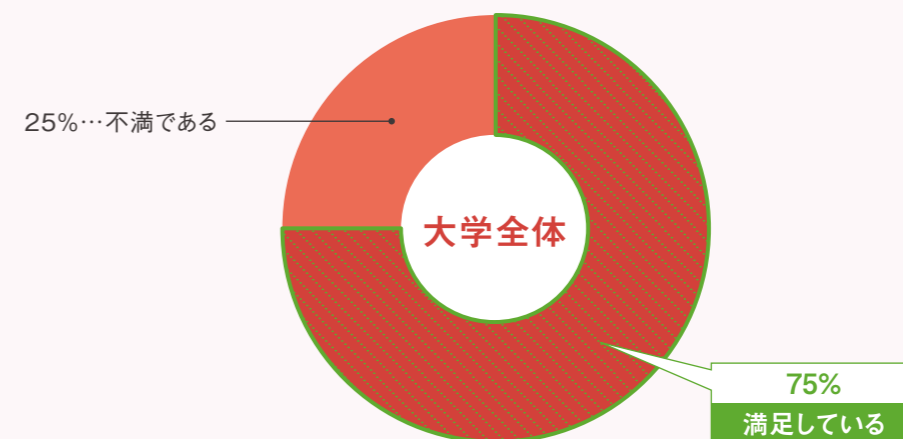


「科目選択の幅が少ない」が33%で最も高く、「受けたい科目がない」が20%、「必修科目が多すぎる」が18%と続きます。研究科別では、農・工・医学系の場合、「必修科目が多すぎる」、あるいは「科目選択の幅が少ない」が高くなっています。逆に地域学研究科では「必修科目が多すぎる」との回答が無い反面、むしろ「受けたい科目がない」が最も高くなっています。自由記述では、大学院ならではの授業水準の高さ、逆に期待はずれに対する不満や、自身の研究活動との両立を図っていく上での不満が見受けられます。



9

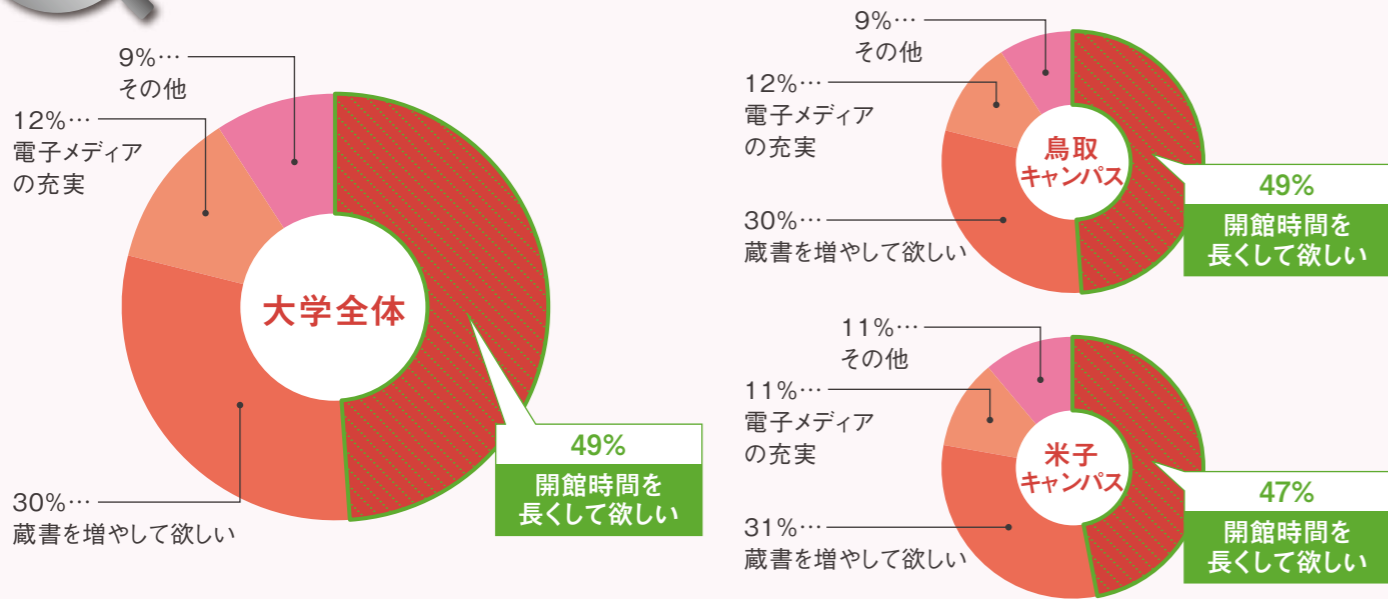
大学内でインターネットや電子メールを利用する際のネットワーク環境について満足していますか



学部では「満足」75%、「不満」25%となっています。学年別では高学年ほど「満足」が低く、これは前問のとおり高学年ほど必携パソコンの利用頻度が高いためと思われます。不満の理由としては、「有線LANの端末が少ない」、「無線LANにつながりにくい、途中で切れる」、「学生会館・サークル棟で利用できない」、「学外からアクセスできない」などに集中しています。なお大学院の「満足」は学部より高いですが、これは研究室の外での利用機会が少ないためと思われます。

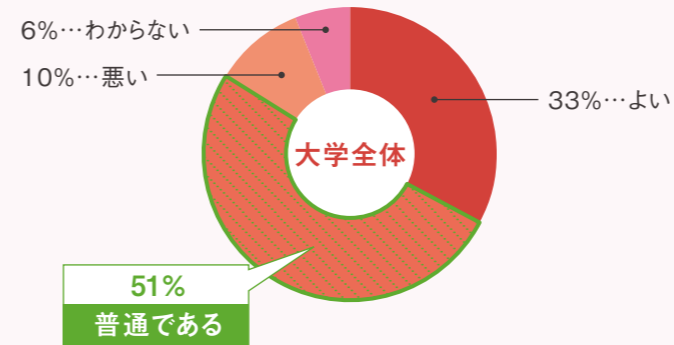
2. 学習支援体制

10 図書館の利用について、図書館に求めるものは何ですか



前回の調査では、「開館時間を長くしてほしい」が54%に対し、今回は、49%でした。「蔵書を増やしてほしい」が前回29%に対し、今回は30%、「電子メディアの充実」が前回11%に対し、12%となっています。「その他」が前回6%に対し、今回は9%とわずかながら増えています。その内容は、自習スペースの拡張、土日の開館時間の延長、冷暖房の管理、増席などの順に要望がありました。開館時間の延長については、平成23年度から1時間延長して22時まで利用できるようになり、延長の要求が若干下がったものと思われる。

12 学内の事務職員の対応はどうか



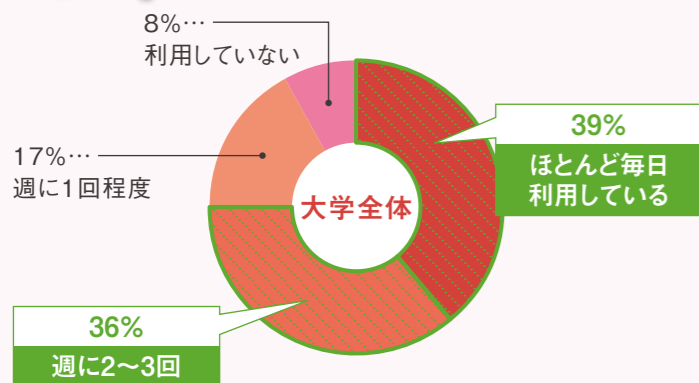
事務職員の対応については、「よい」が33%、「普通である」が51%です。いずれも前回より、それぞれ5ポイント、3ポイント増えています。悪いは前回調査より2ポイント少なくなり10%となり、事務職員の対応は改善されています。しかし、10%の学生が、「悪い」と感じており、事務職員の対応については自由記述でも厳しい意見が上がっているため、さらなる改善を図る必要があります。

学部	よい (%)	普通である (%)	悪い (%)	わからない (%)
学部全体	34	50	10	6
地域学部	37	47	9	7
医学部	41	47	9	3
工学部	33	52	8	7
農学部	28	52	14	6

大学院	よい (%)	普通である (%)	悪い (%)	わからない (%)
大学院全体	29	53	13	5
地域学研究科	46	42	12	
医学系研究科	23	55	11	11
工学研究科	30	54	12	4
農学研究科	25	55	19	
連合農学研究科	33	67		

性別	よい (%)	普通である (%)	悪い (%)	わからない (%)
男性	32	51	10	7
女性	34	51	10	5

11 大学生協の利用について、1週間にどの程度利用していますか



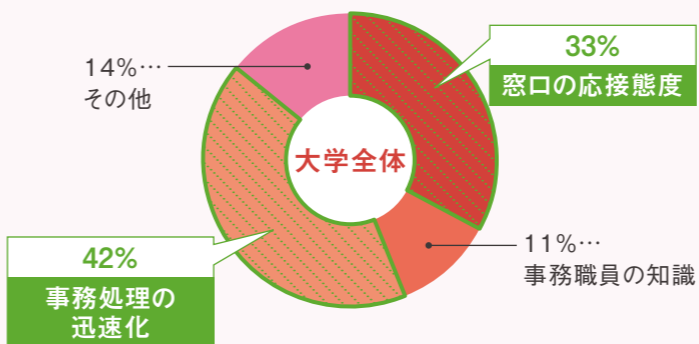
今回新たに調査した事項で、その結果は、「ほとんど毎日利用している」が39%、「週に2~3回」が36%、「週に1回程度」が17%、「利用していない」は8%でした。学部学生では、「利用していない」が6%に対し、大学院学生は19%となっています。特に米子地区では、医学部生は5%が「利用していない」でしたが、大学院学生は52%となっています。

学部	ほとんど毎日利用している (%)	週に2~3回 (%)	週に1回程度 (%)	利用していない (%)
学部全体	39	38	17	6
地域学部	34	43	16	7
医学部	44	33	18	5
工学部	38	37	17	8
農学部	39	38	18	5

大学院	ほとんど毎日利用している (%)	週に2~3回 (%)	週に1回程度 (%)	利用していない (%)
大学院全体	41	24	16	19
地域学研究科	19	31	38	12
医学系研究科	10	11	26	53
工学研究科	48	30	14	8
農学研究科	64	23	6	7
連合農学研究科	67	11	22	

性別	ほとんど毎日利用している (%)	週に2~3回 (%)	週に1回程度 (%)	利用していない (%)
男性	39	35	17	9
女性	38	37	18	7

13 事務の窓口サービスについて、最も改善すべき点はどこですか



今回の調査では、「窓口の応接態度」が33%で、「事務職員の知識」は11%となっており、前回調査のそれぞれ36%、13%より減少しています。「事務処理の迅速化」については、前回調査40%に対して、42%となっており、まだまだ改善を図る必要があります。「窓口の応接態度」を指摘した学生の所属学部別では、地域学部が38%、農学部38%、工学部30%、医学部25%となっています。また、大学院では、「窓口の応接態度」に対して地域学研究科の学生から、39%もの指摘があり、調査結果をもとに改善に向けてさらに取り組む必要があります。

学部	窓口の応接態度 (%)	事務処理の迅速化 (%)	事務職員の知識 (%)	その他 (%)
学部全体	33	42	11	14
地域学部	38	38	8	16
医学部	25	50	10	15
工学部	30	44	11	15
農学部	38	38	12	12

大学院	窓口の応接態度 (%)	事務処理の迅速化 (%)	事務職員の知識 (%)	その他 (%)
大学院全体	33	42	12	13
地域学研究科	39	26	13	22
医学系研究科	23	52	11	14
工学研究科	34	41	13	12
農学研究科	44	29	12	15
連合農学研究科	44	56		

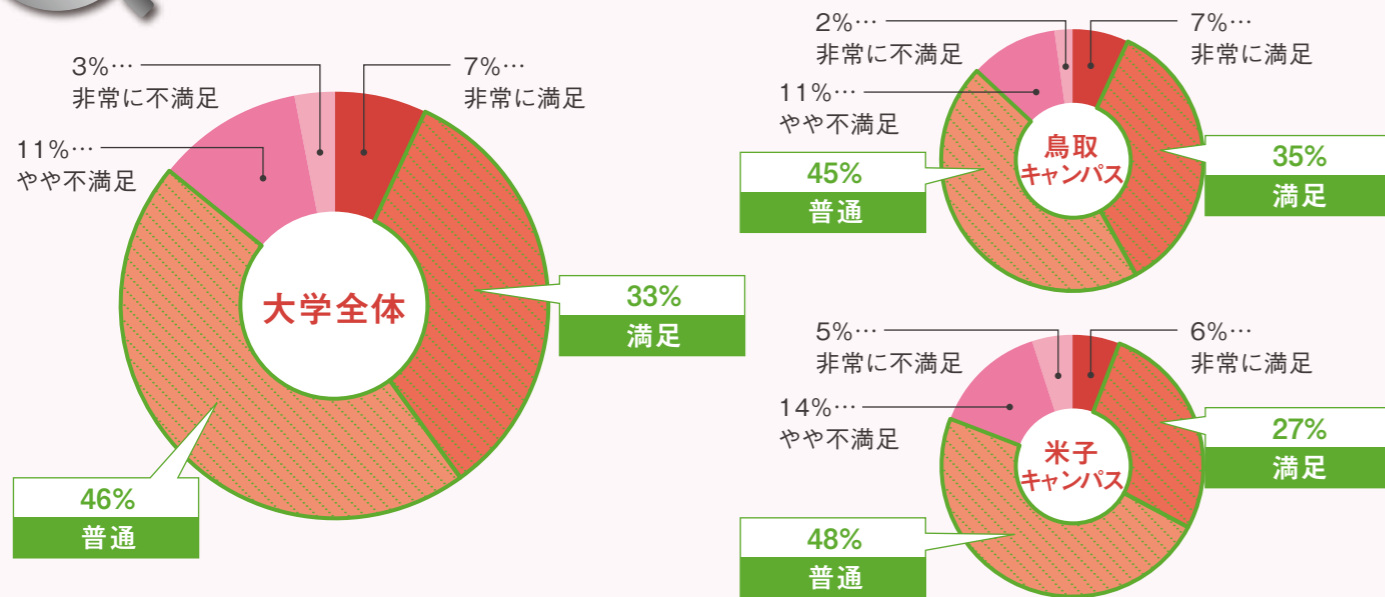
性別	窓口の応接態度 (%)	事務処理の迅速化 (%)	事務職員の知識 (%)	その他 (%)
男性	29	43	13	15
女性	39	39	9	13

2. 学習支援体制

3. 生活支援体制

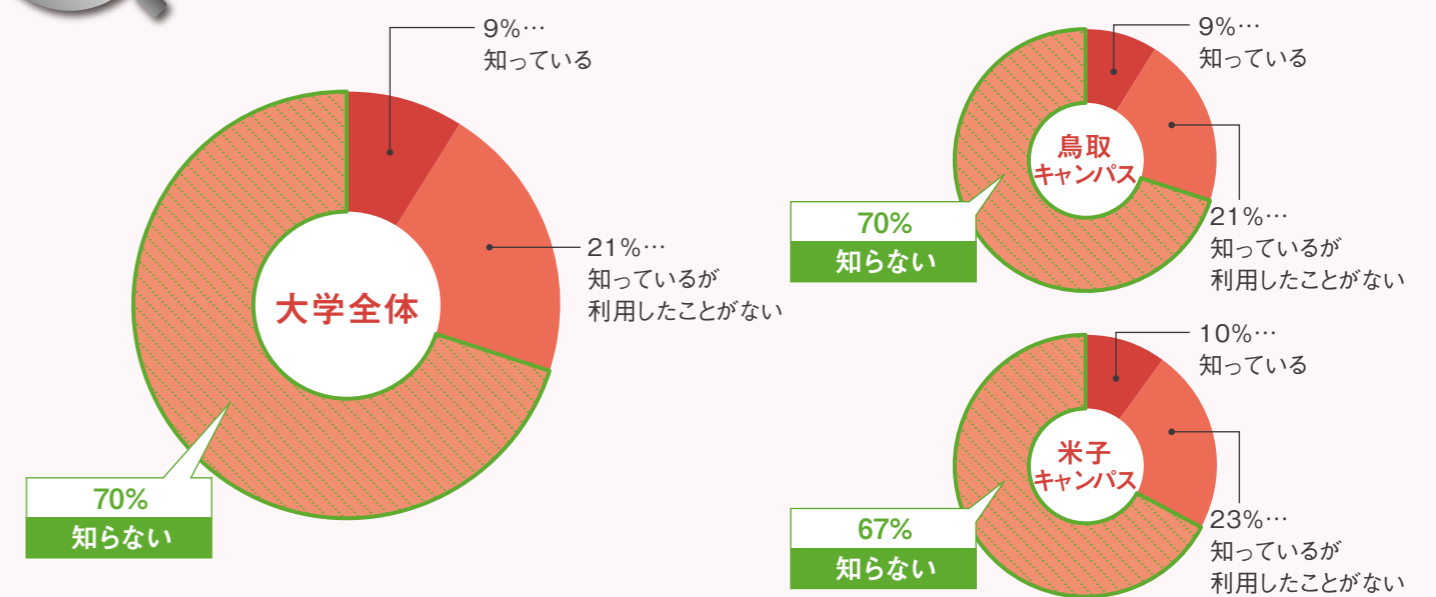
A. 学生相談について

14 大学のキャンパス環境について尋ねます



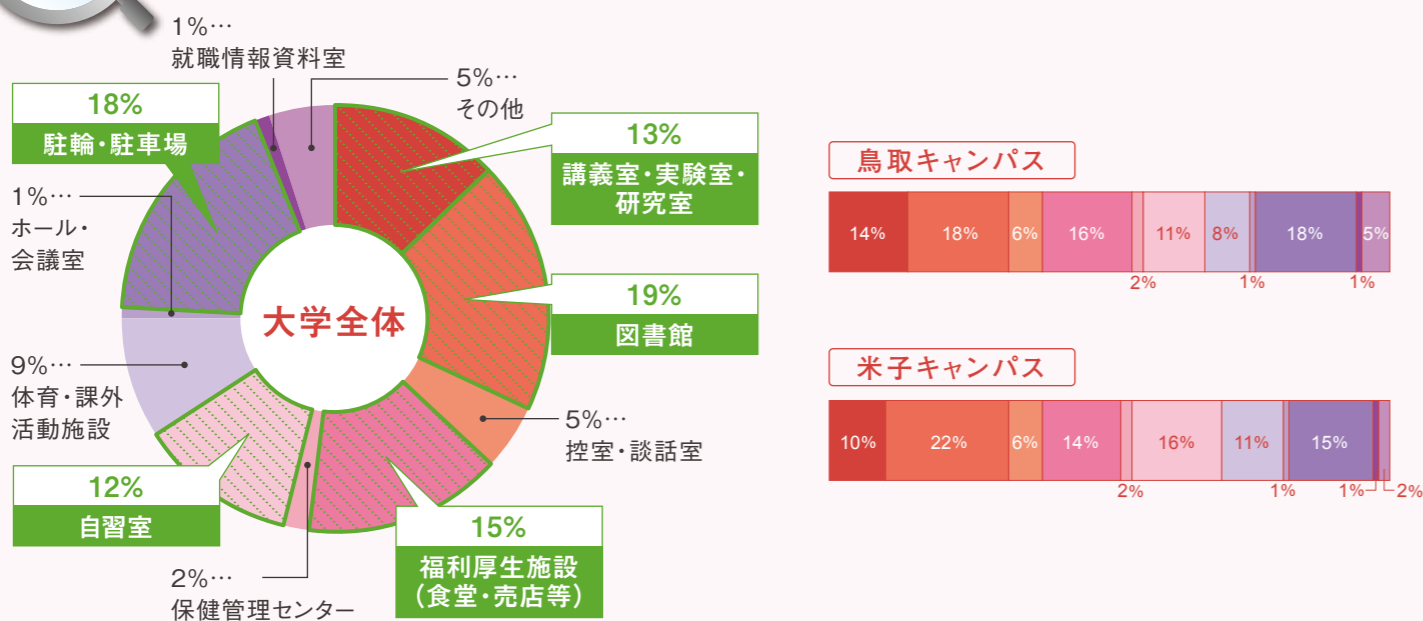
大学全体では、「非常に満足」が7%（前回7%）、「満足」が33%（同30%）、「普通」が46%（同43%）、「やや不満足」が11%（同11%）、「非常に不満足」が3%（同4%）となっています。鳥取キャンパスでは、大学全体と数値も傾向もほとんど変わりませんが、米子地区では「満足」が前回より10ポイント増えて、「やや不満足」は、前回より20ポイント以上少なくなっており、米子キャンパスの環境に不満を持っている学生が少なくなっています。

16 あなたは、鳥取地区に「なんでも相談」米子地区に「学生相談窓口」のあることを知っていましたか



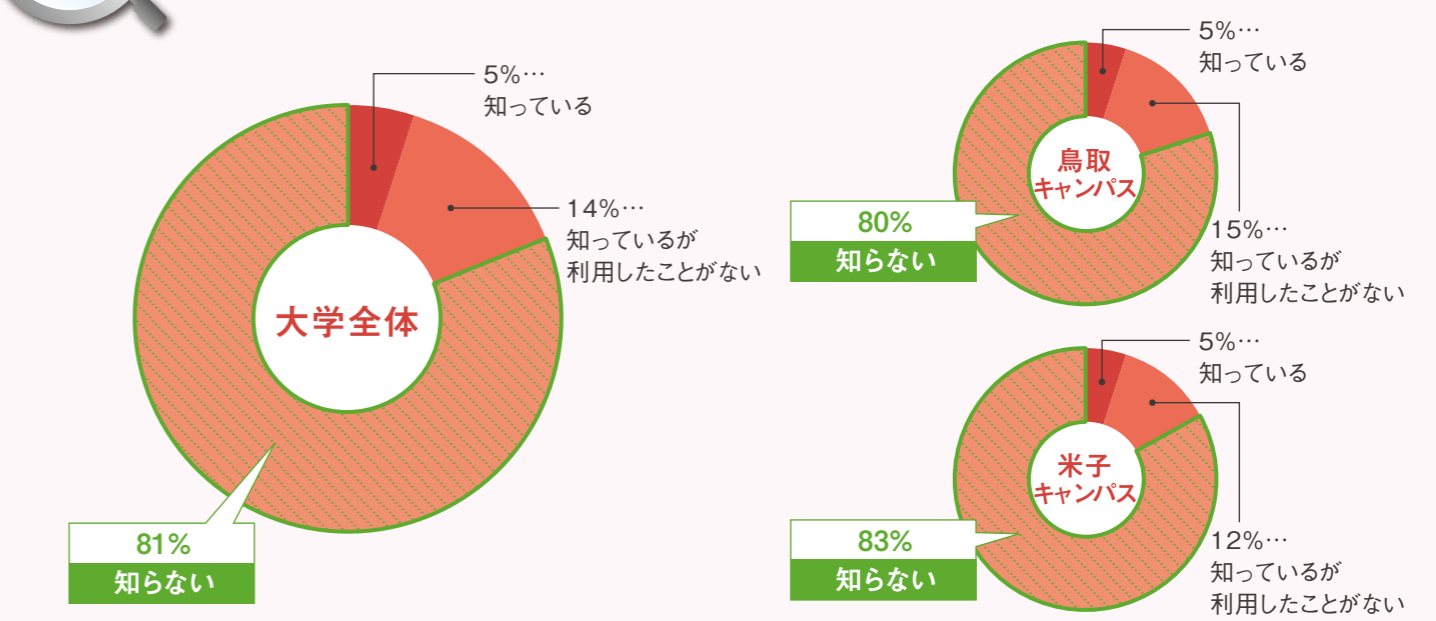
鳥取地区に「何でも相談」があることについて、「知っている」が9%（前回10%）、「知っているが利用したことがない」が21%（同30%）で、「知らない」が70%（同60%）となり、認知度及び利用度もまだ低くなっています。米子地区の「学生相談窓口」については、「知っている」が10%（同5%）、「知っているが利用したことがない」が23%（同33%）で、「知らない」が67%（同62%）となっています。「知っている」はいずれも3割のため今後益々の周知が必要です。

15 鳥取大学の施設等で整備充実して欲しいのはどれですか



大学全体では、「図書館」が19%（前回12%）、「駐輪・駐車場」が18%（同13%）、次いで「福利厚生施設（食堂・売店）」が15%（同19%）、「講義室・実験室・研究室」が13%（同18%）、「自習室」が12%（同11%）の順になっています。「駐輪・駐車場」の要望が多いのは、平成23年度から学部毎に自転車の駐輪場所をした影響があると思われる、米子キャンパスの「図書館」の要望が突出しているのは、医学部図書館の改修工事の影響があると思われます。

17 本学では平成23年11月から「学生の電話、Webによるメンタルヘルス・健康サポート24」を外部委託により開設していますが、このことを知っていましたか

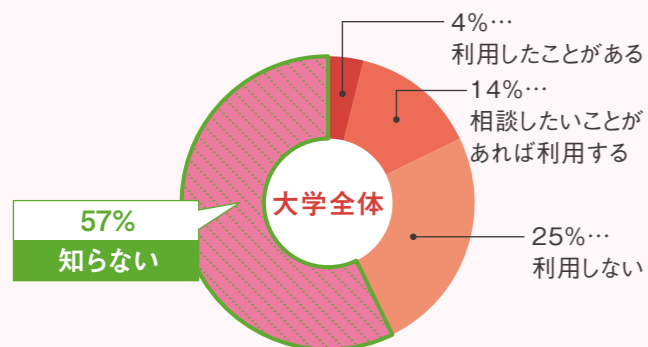


平成23年11月から外部委託により開設している制度ですが、「知っている」は5%、「知っているが利用したことがない」は14%と合わせても20%弱であり、まだまだ認知度は低いです。「知っている」または「知っているが利用したことがない」と回答した者のうち、1年生が43%を占めています。認知度は低ですが、教職員も含めた利用者は増えているため、多種多様な相談に対して支援の継続、支援方法の拡充等整備する必要があります。

3.生活支援体制

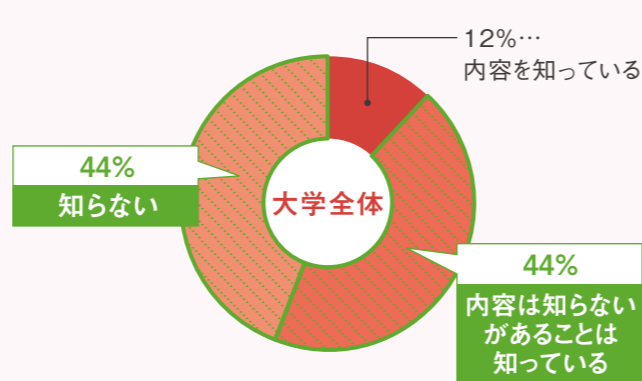
A.学生相談について

18 鳥取大学学生相談ホームページについて尋ねます。あなたは、学生相談室ホームページを利用したことがありますか



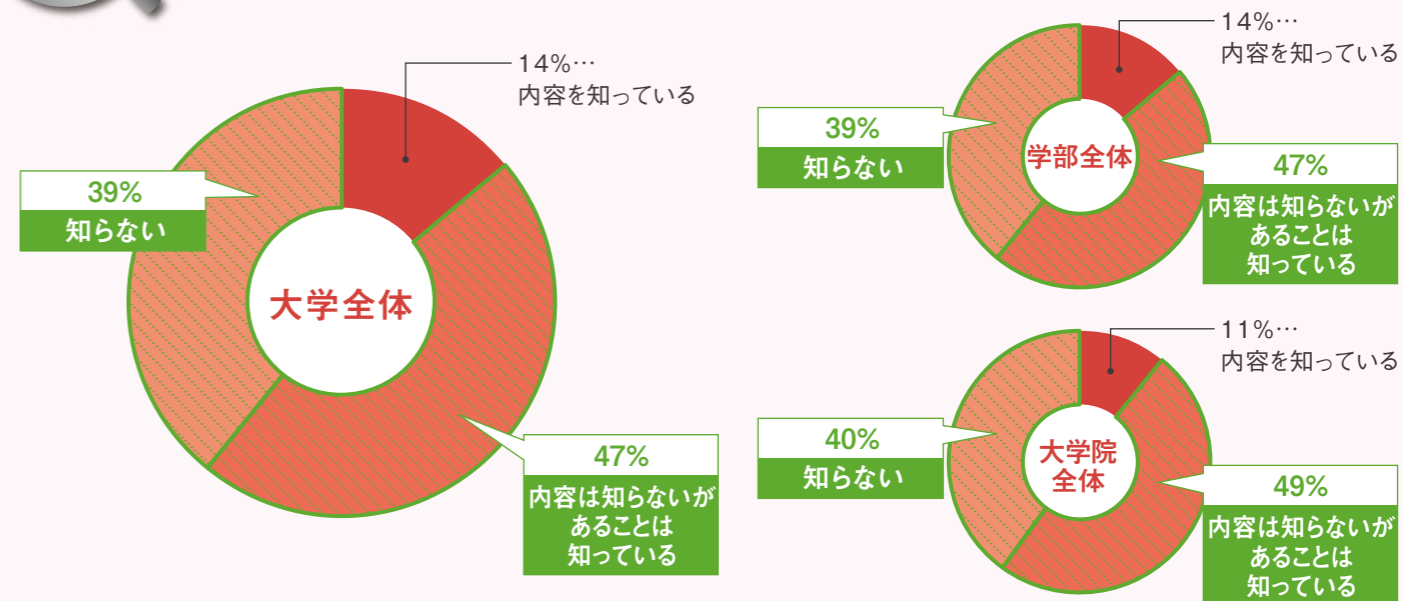
学生相談ホームページについては、「利用したことがある」が4%（前回5%）、「相談したいことがあればする」が14%（同17%）であり、若干減少しています。「知らない」が57%と前回（68%）より10ポイント認知度は上がっていますが、「利用しない」が25%（同10%）で15ポイント以上増えて、全体の4分の1が「利用しない」と答えています。「利用しない」理由は、「相談する必要がない」、「自分で解決、周りに相談する」、「直接会って相談したい」、「面倒くさい」、「個人情報不安」等でした。

19 あなたは、ハラスメントの防止に関する規則があることを知っていますか



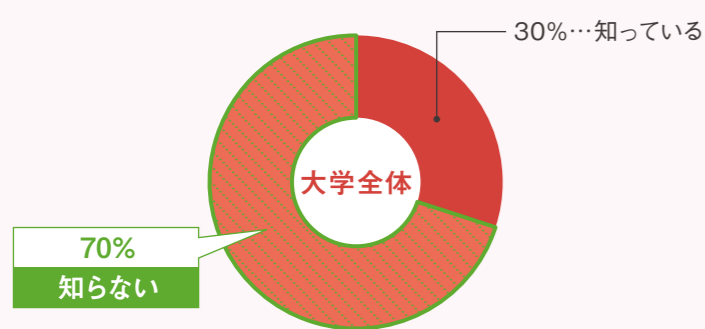
ハラスメント防止の規則については、「内容を知っている」が12%（前回11%）、「内容は知らないがあることは知っている」が44%（同48%）、「知らない」が44%（同41%）であり、若干認知度が低くなっています。大学院生のうち「知らない」は40%であり、全体でも高学年になるにつれて「知らない」と答えた割合は下がっています。学部学生の全体では「知らない」が45%ですが、農学部では22%と半分以下であり、学部のオリエンテーション等の成果と思われる。

21 あなたは、学生にも懲戒処分があり、その規則があることを知っていますか



学生の懲戒規則については、大学院生では「知らない」が40%、「内容を知っている」が11%、「内容は知らないが規則があることは知っている」が49%でした。学部学生では、「知らない」が39%、「内容を知っている」が14%、「内容は知らないが規則があることは知っている」が47%であり、学部、大学院に関わらず大差はありませんでした。この質問でも農学部が「知らない」が22%、4人に1人が「内容を知っている」(25%)と答え、「内容は知らないが規則があることは知っている」が53%と過半数を超えています。

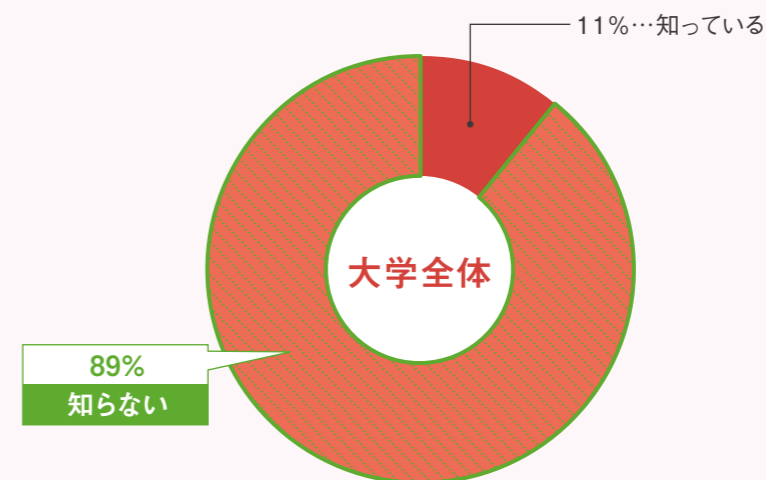
20 あなたは、ハラスメント相談員がいることを知っていますか



ハラスメント相談員については、大学院生では「知らない」が60%、「知っている」が40%、学部学生では「知らない」が72%、「知っている」が28%でした。前問と同じように高学年になるにつれて認知度は上がっています。「知らない」と答えた学部の割合は、地域学部90%、医学部85%、工学部85%となっており、ここでも農学部は37%で「知っている」が63%と突出しています。

		学部全体	
学部	入学年度別	28	72
	平成24年度	24	76
	平成23年度	21	79
	平成22年度	33	67
	平成21年度	33	67
	平成20年度以前	49	51
		大学院全体	
大学院	地域学研究科	35	65
	医学系研究科	25	75
	工学研究科	33	67
	農学研究科	80	20
	連合農学研究科	89	11
		性別	
	男性	27	73
	女性	35	65

22 あなたは、緊急連絡先(学生相談窓口を含む)QRコードがあることを知っていましたか

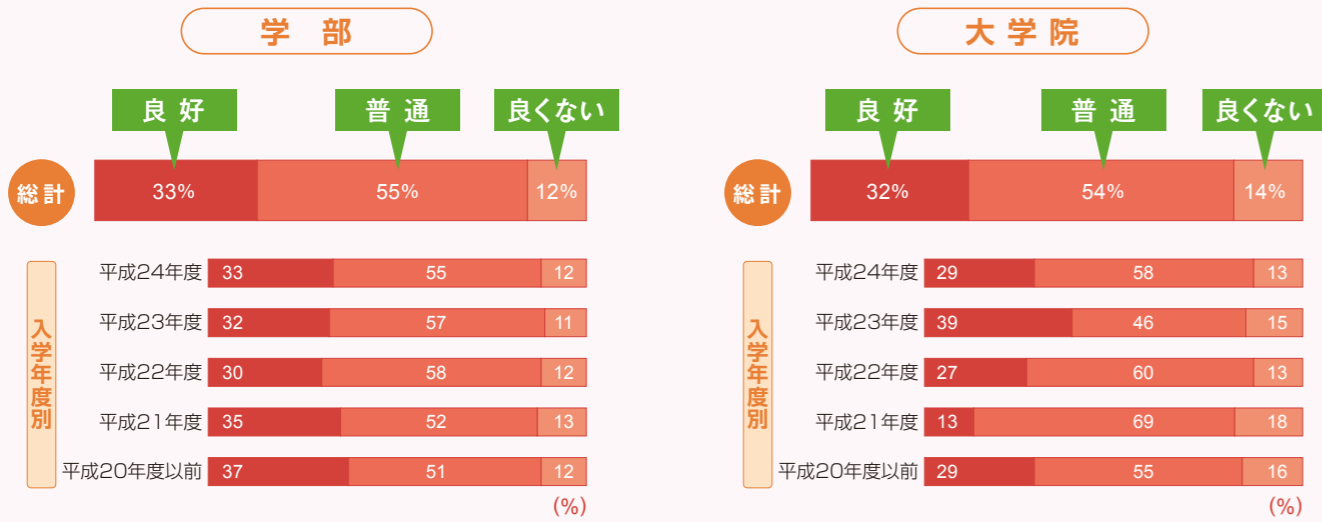


緊急連絡先(学生相談窓口を含む)QRコードについては、学部、大学院、入学年度に関わらず、「知らない」が89%（前回88%）、「知っている」が11%（同12%）であり、前回同様に認知されていません。入学時に資料として配付していますが、全く効果がないため、さらなる工夫・改善が必要です。

3.生活支援体制

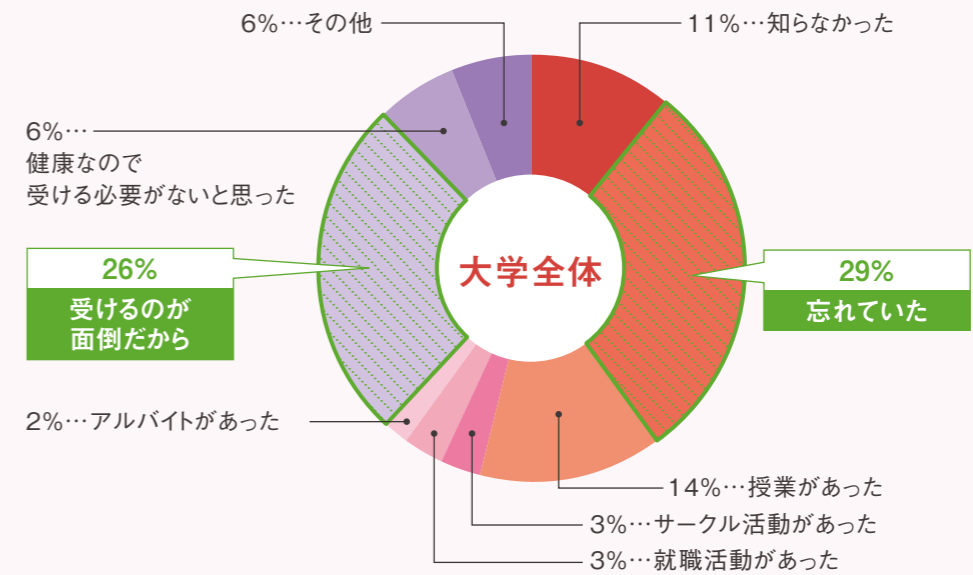
B.健康について

23 現在、あなたの健康状態は、自分でどう思っていますか



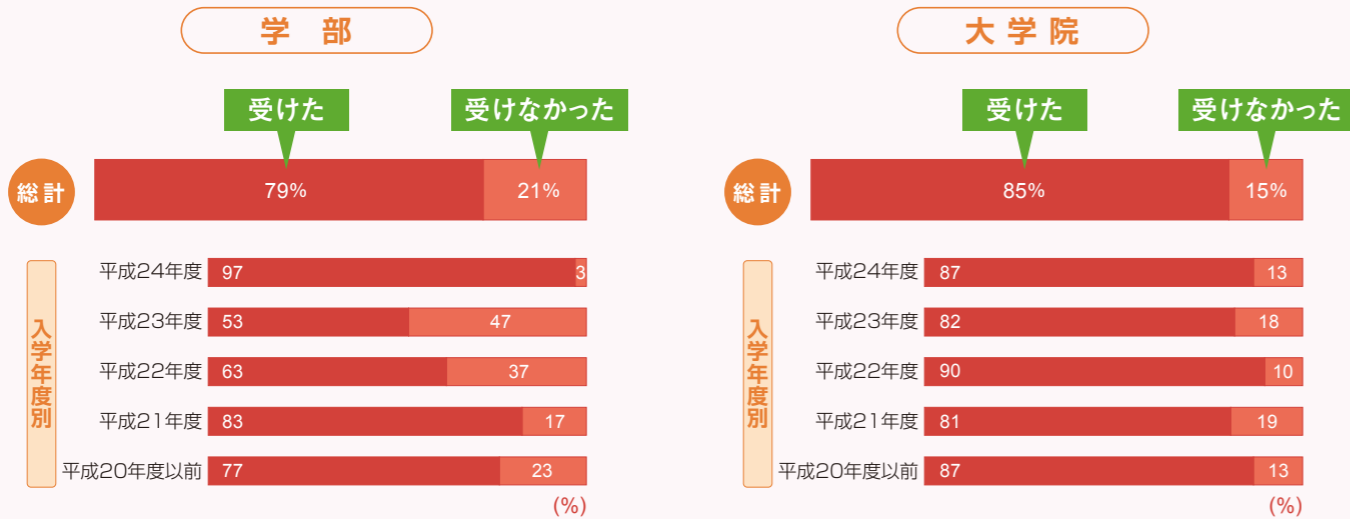
現在の健康状態について、学部・大学院別に比較したところ、学部では「良好」が33%、「普通」が55%、「よくない」が12%、大学院では「良好」が32%、「普通」が54%、「よくない」が14%の割合でした。学部・大学院別に学年別に比較したところ、学部の学年別では、特に大きな差は見られませんが、大学院別では、平成21年度入学が「健康状態がよくない」と回答した人が多い印象です。

24-2 問24-1で「受けなかった」と答えた人に尋ねます その主な理由は何ですか



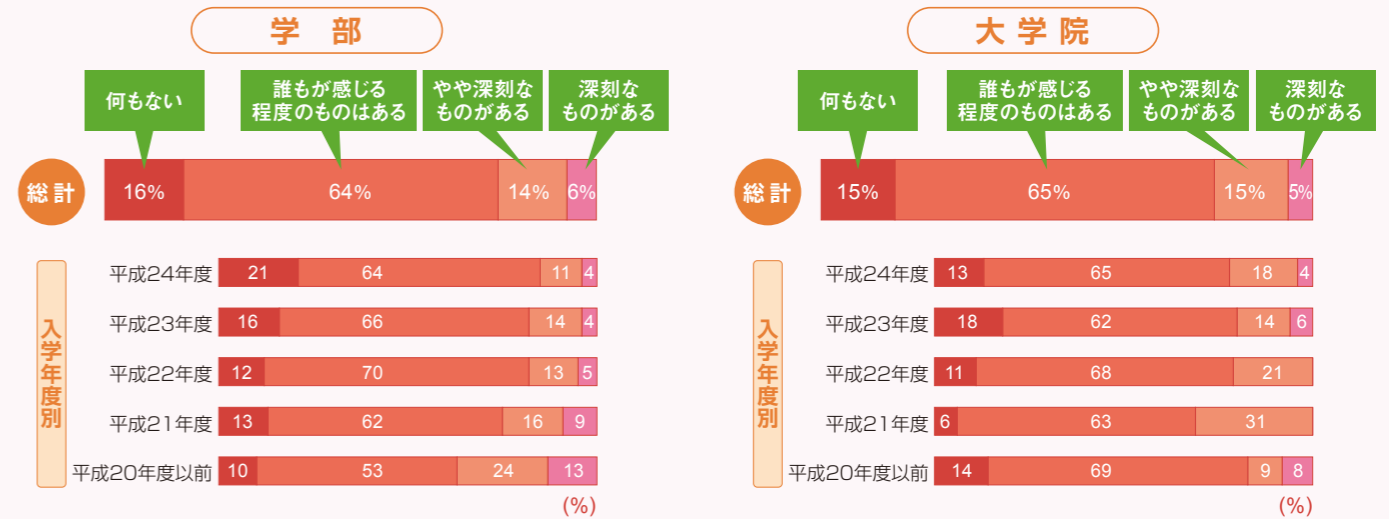
健康診断を受診しなかった理由では、「知らなかった」「忘れていた」の合計が40%となっています。2010年では50%を占めていたの
で10%は減っていますが、引き続き健康診断日程をさらに広く周知するよう工夫していく必要があります。また、「受けるのが面倒だから」
が26%あります。健康診断は学校保健法で義務づけられており、必ず受診するよう指導していく必要があります。

24-1 保健管理センターの利用について尋ねます あなたは、今年度の定期健康診断を受けましたか



健康診断の受診状況を、学部・大学院の学年別に比較したところ、学部の2・3年生(平成22・23年度入学)の受診率が低いことが分
かります。これは、新入生の健康診断は入学時に一斉に実施するということや、学部4年生以上・大学院生は就職活動等で健康診断証明書が
必要となるためと思われる。2・3年生に対して、証明書の必要性にかかわらず、自身の健康チェックとして健康診断を受診するよう指導し
ていく必要があります。

25-1 あなたは、現在、何か不安や悩みがありますか



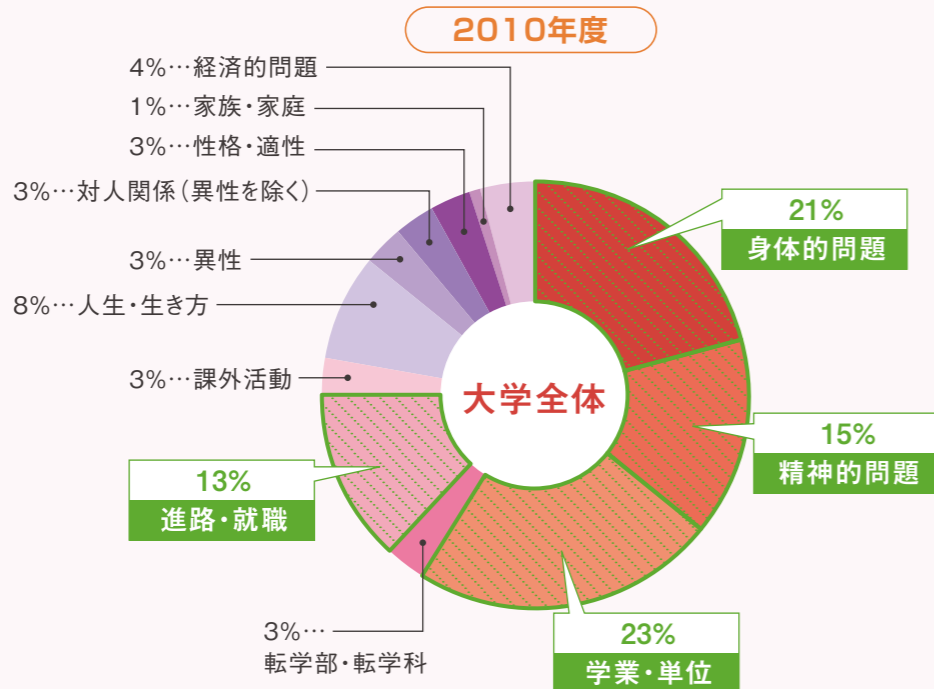
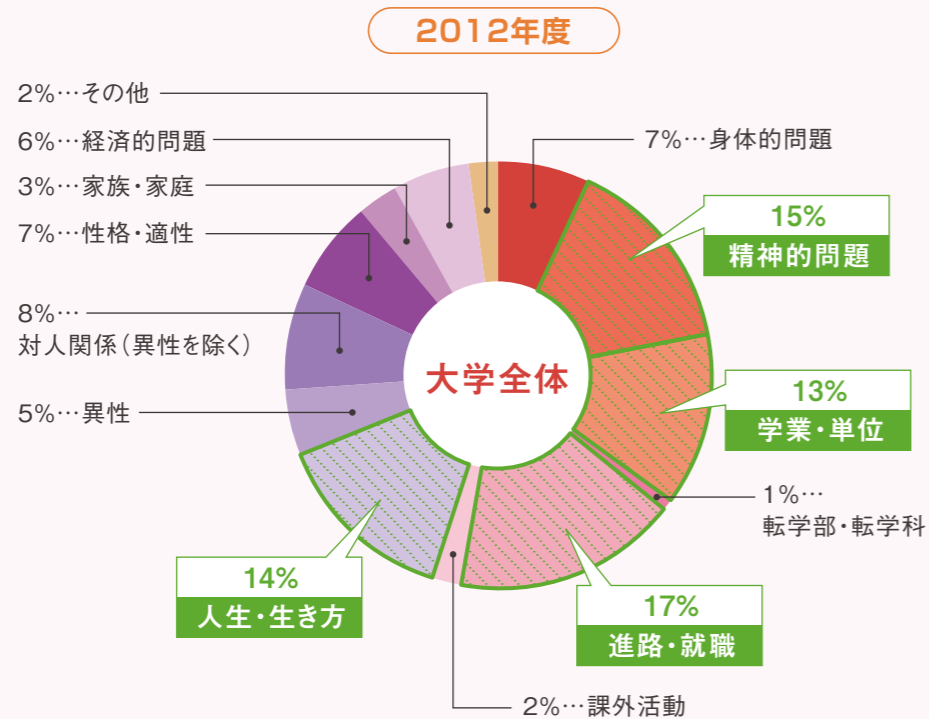
不安や悩みの有無について、学部別では学年が上がるにつれて、「やや深刻なものがある」「深刻なものがある」の割合が増え、平成20
年度以前入学が合わせて約37%と一番多くなっています。大学院別でも、平成20年度以前を除き、学年が上がるにつれて「やや深刻なも
のがある」「深刻なものがある」の割合が増えています。

3.生活支援体制

B.健康について

25-2

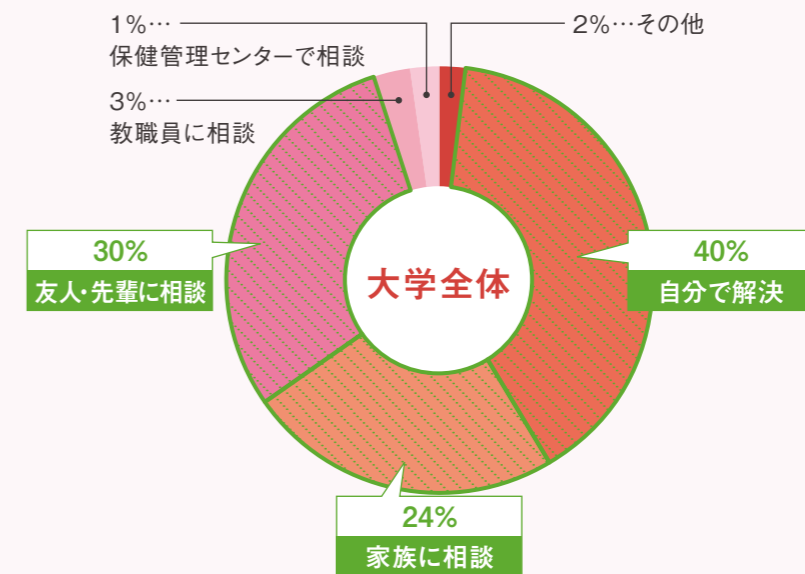
問25-1で「やや深刻なものがある」「深刻なものがある」と答えた人に尋ねます
その主な原因と思うものは何ですか



悩みの内容について、割合の多い順に見ると、「進路・就職」「精神的問題」「人生・生き方」「学業・単位」となっています。2010年と比較したところ、「進路・就職」13%→17%、「人生・生き方」8%→14%と割合が増加し、「身体的問題」「学業・単位」は21%→7%、23%→13%と割合が減少しています。また、「対人関係」「性格・適性」の割合も増加しており、2010年に比べ悩みの内容が様々になってきていると言えます。

26

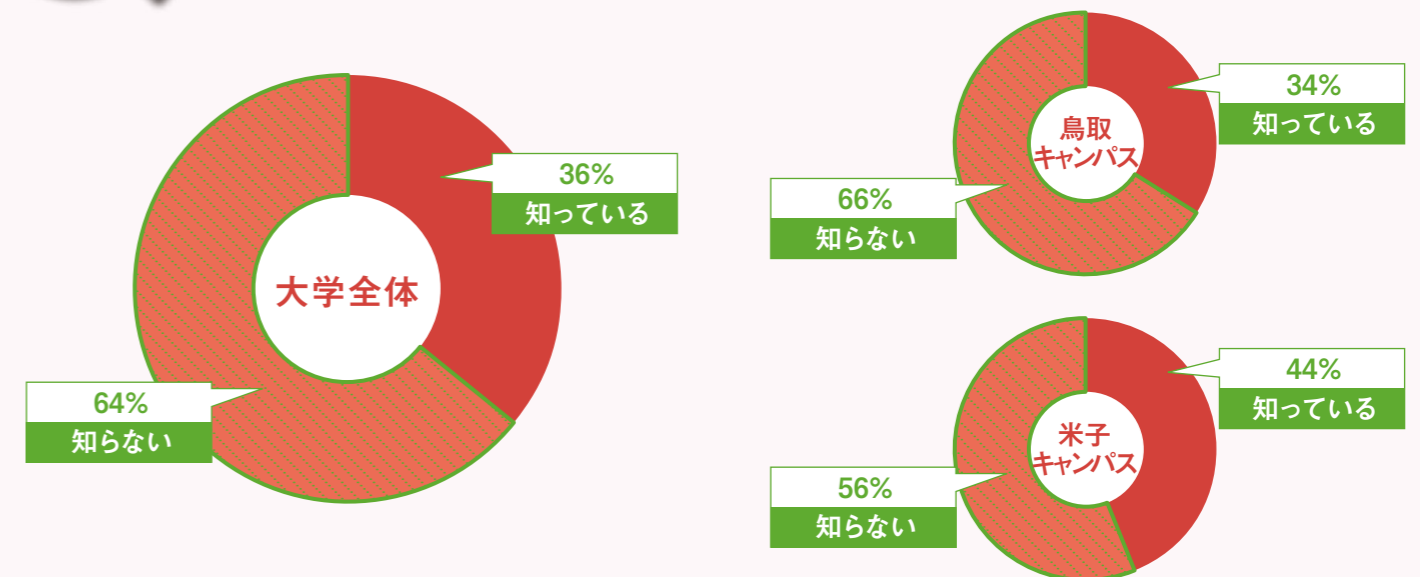
あなたは、自分の不安や悩みについてどのように対処していますか



不安や悩みをどのように対処しているかについて、「自分で解決」が40%、「友人・先輩に相談」「家族に相談」が合わせて54%であり、「教職員に相談」「保健管理センターに相談」は数%でした。現状では教職員や保健管理センターへの相談は増加しています。悩みを自分で解決するのが難しい場合、友人・先輩や家族など信頼できる人に相談してみる、周りの人に相談できない場合、教職員や保健管理センターに相談するなど、悩みを一人で抱え込まないようにしましょう。

27

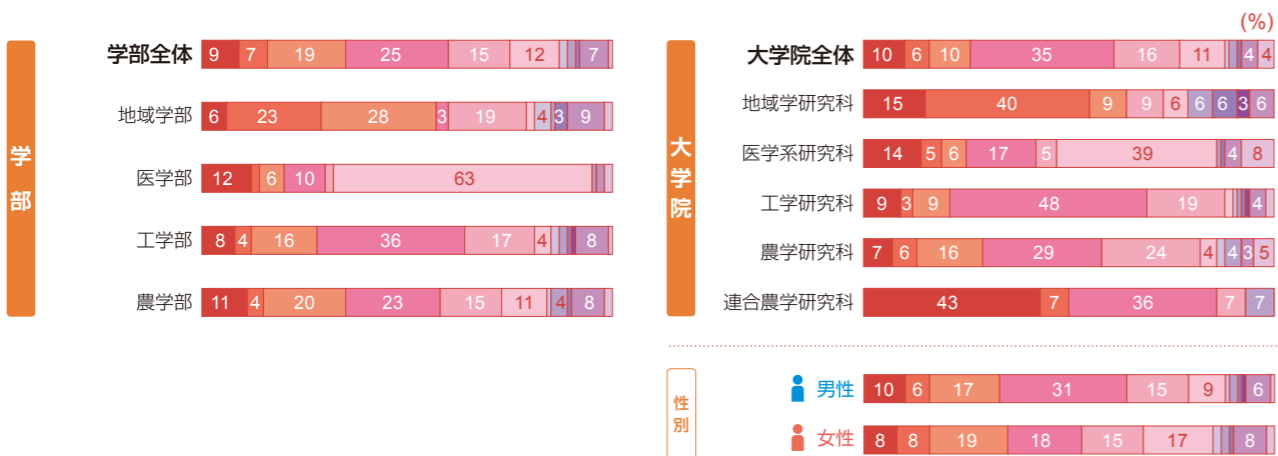
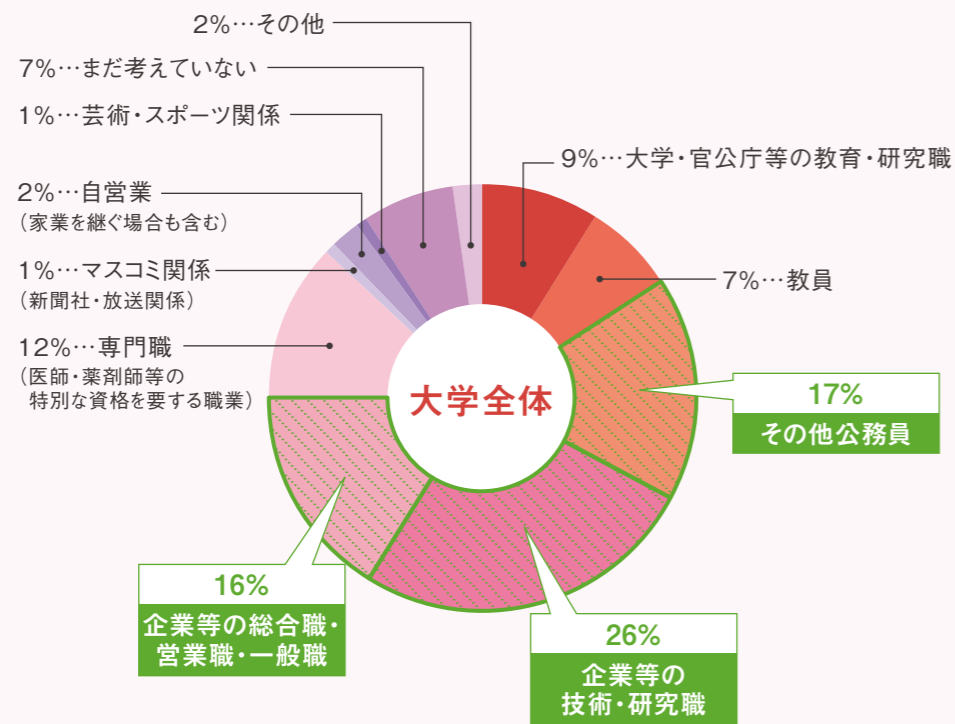
あなたは、保健管理センターでカウンセリングが受けられることを知っていますか



保健管理センターでのカウンセリングについて、「知っている」の割合が36%、「知らない」の割合が64%でした。鳥取地区も米子地区も「知らない」の割合が多いので、保健管理センターでカウンセリングが受けられることを引き続き周知していく必要があります。また、生活支援課の「なんでも相談」、各学部の「学生相談員」、「電話、Webによるメンタルヘルス・健康サポート24」による相談も受け付けており、そちらも併せて周知していく必要があります。

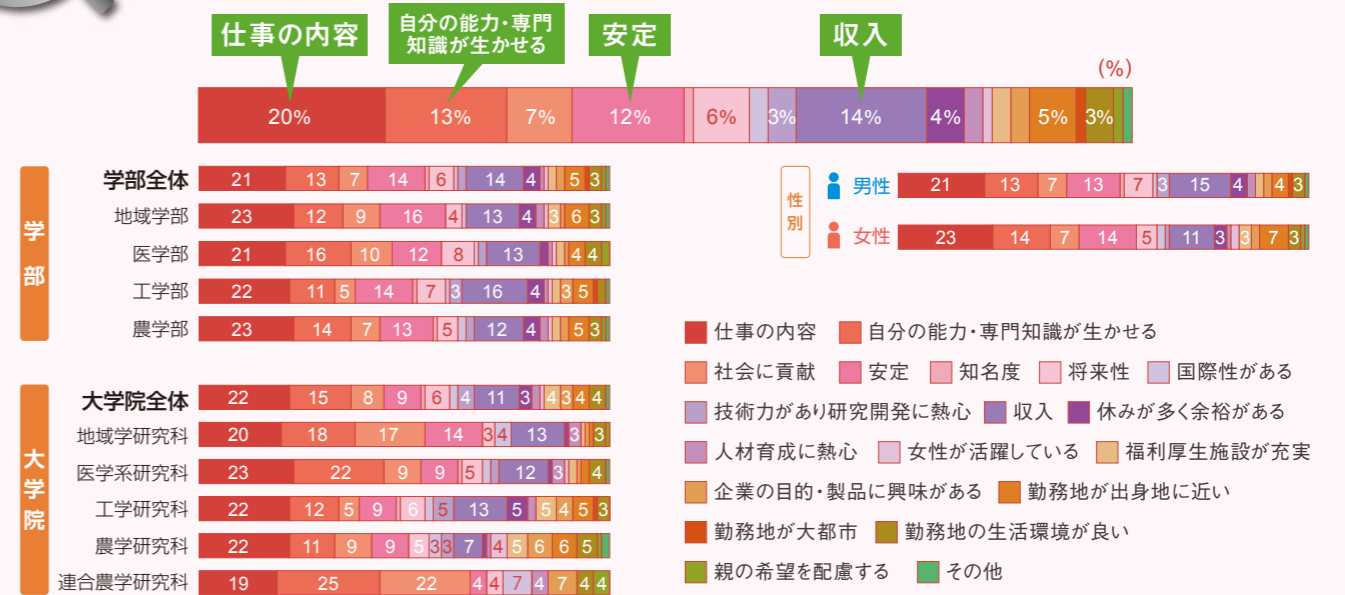
4.就職支援体制

28 あなたは、将来どのような職業に就きたいと思いますか



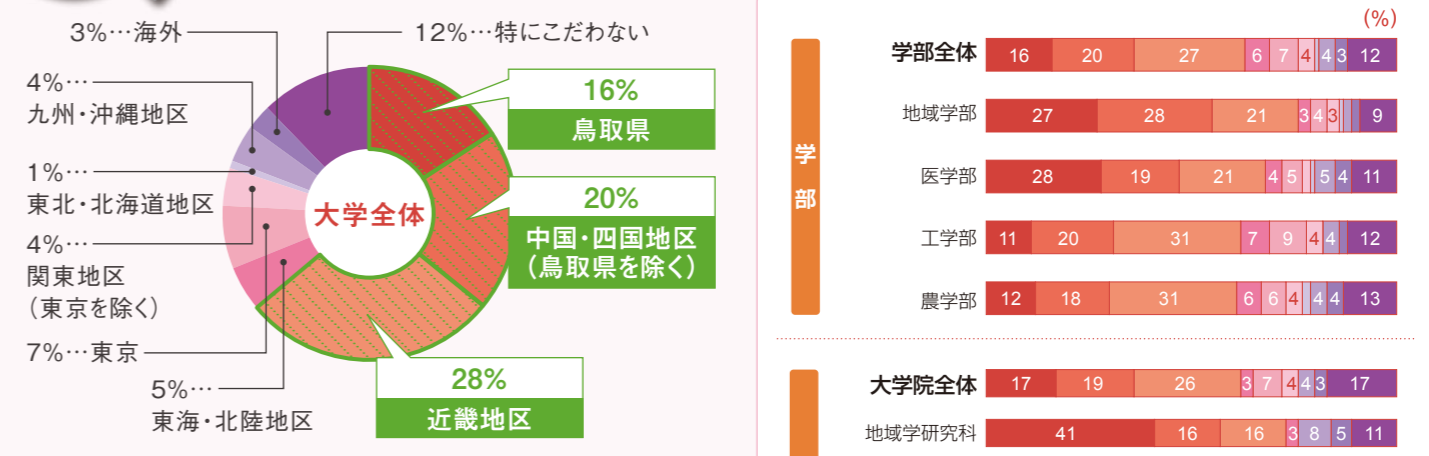
地域学部・地域学研究科では教員や公務員志望が多く、工学部・工学研究科では企業等の技術職・研究職志望が多いなど、それぞれの学部・研究科ごとに明瞭な特徴がみられます。また、公務員志望は学部生のほうにより多いという傾向もみられました。本学の就職支援体制においては、学生個々の就業イメージを尊重しながらも、そうしたイメージに具体的な裏付けを与えるための職業研究・企業研究を促し、希望する職業に就くために必要な能力や資質を十分理解させることが必要であるといえます。

29 あなたが就職する場合、どのような点を重視して選択しますか



まず学部学生については、所属学部による回答傾向の違いはあまり大きくありません。他方、大学院学生については、研究科ごとの違いがみられます。地域学研究科では他の研究科に比べ「社会に貢献」が抜き目出で多く、工学研究科・農学研究科では、企業の強みや特長のほか、勤務先の労働条件や生活環境に関心をもっている大学院生が多いことがみてとれます。

30 あなたが就職するとした場合、勤務地はどこを希望しますか

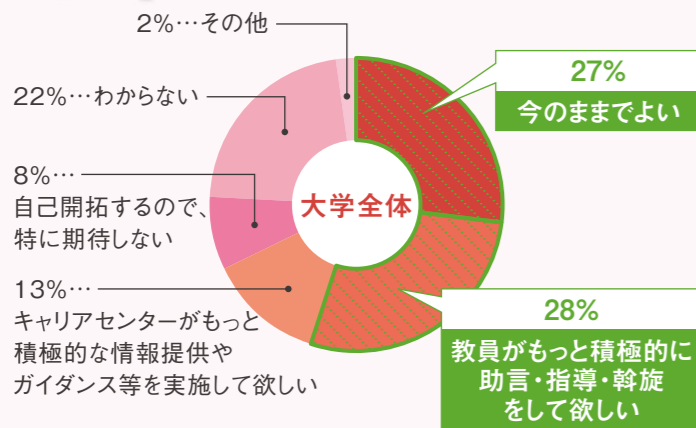


学部全体としてみた場合の回答比率は前回調査とほぼ同じ傾向となりました。また、地域学部・地域学研究科、医学部・医学系研究科と、工学部・工学研究科、農学部・農学研究科との間で明瞭な差がみられるという点も、前回調査とよく似た傾向を示しました。すなわち前者(地域・医)では鳥取県内および中国・四国地区を希望する者が多く、後者(工・農)では鳥取県内希望者が少ない半面、近畿地区を希望する者が増えてきています。この傾向は、学生の出身地分布が大きく影響していると考えられます。

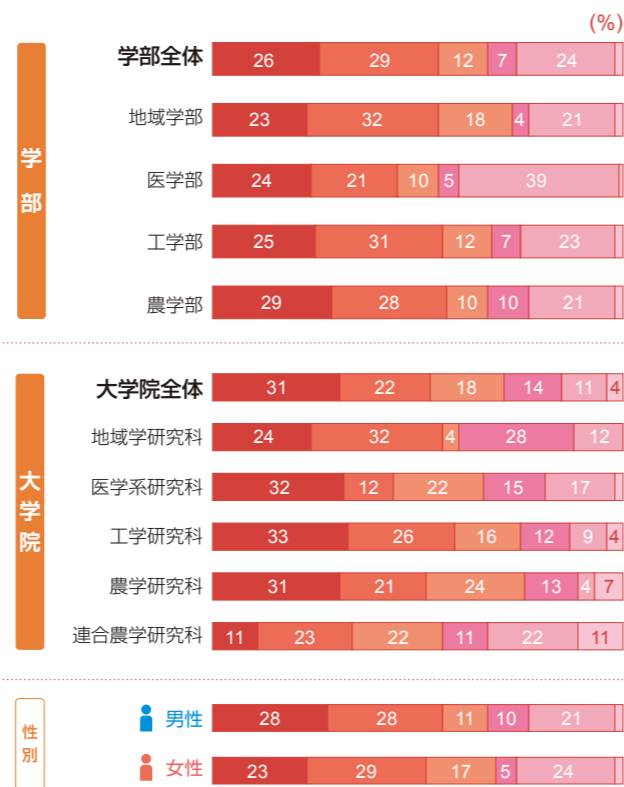
4.就職支援体制

31

あなたは、就職活動に関して、
大学側にどのようなことを最も期待しますか



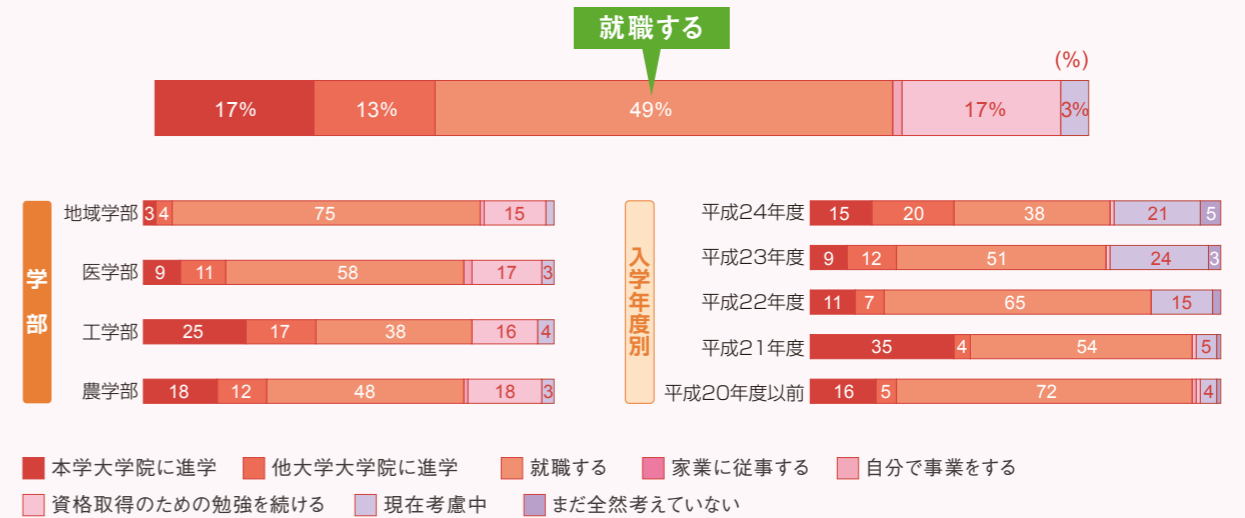
前回調査との大きな違いとして、全体集計で「キャリアセンター(前回は「学生部就職支援課」)がもっと積極的な情報提供やガイダンス等を実施してほしい」が7ポイント減少し、代わりに「今のままでよい」が8ポイント増加しました。「教員がもっと積極的に助言・指導・斡旋をしてほしい」や「特に期待しない」の回答比率はあまり変化がないことから、キャリアセンターによる就職支援の取組が、この2年のあいだに学生からも一定の認知・評価を受けていると考えられます。ただし自由記述では要望も多数寄せられており、それらの検討も課題です。



5.進学

33

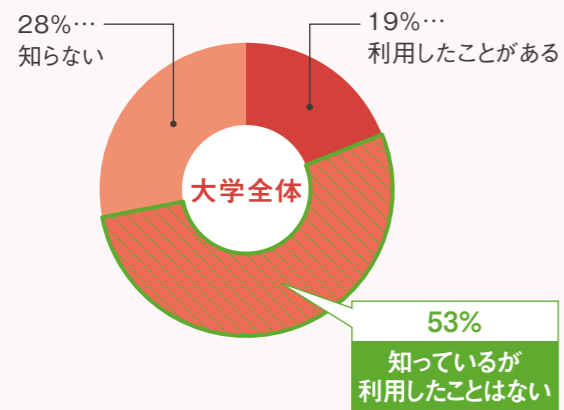
学部学生の人に尋ねます
あなたは卒業後、どのような進路を考えていますか



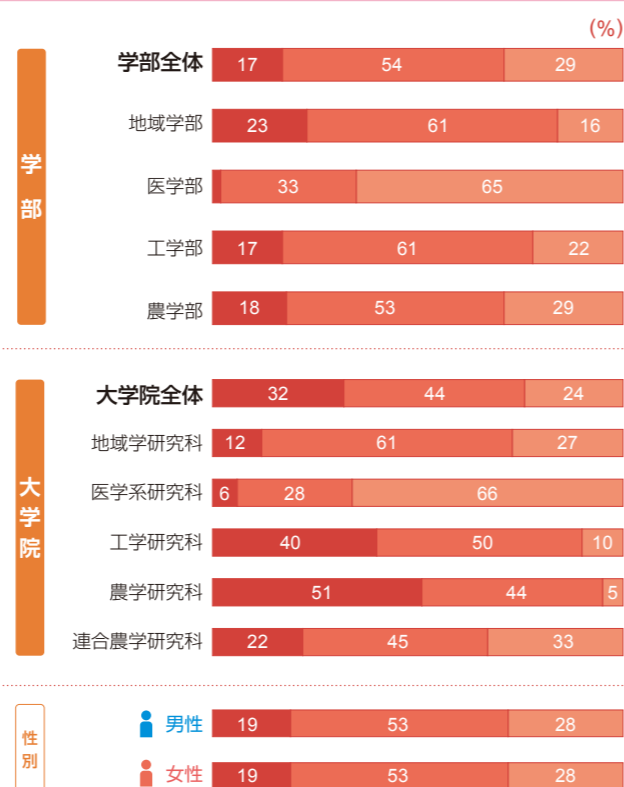
学部ごとに各選択肢の回答比率が異なりますが、どの学部とも、卒業生の最終的な進路状況とよく似た割合を示しているところが興味深い点です。また前回調査との比較で大きな違いがみられるのは、学部2年生と3年生で「就職する」を回答した者が、前回はどちらも半数を下回っていましたが今回は半数を超えたという点です。ただし同一学生の2年後を追跡したパネル調査ではないため、その解釈は慎重である必要があります。そのほかの特徴として、「現在考慮中」の回答率が前回調査よりも増加傾向にある点があげられます。

32

キャリアセンターを利用したことがありますか

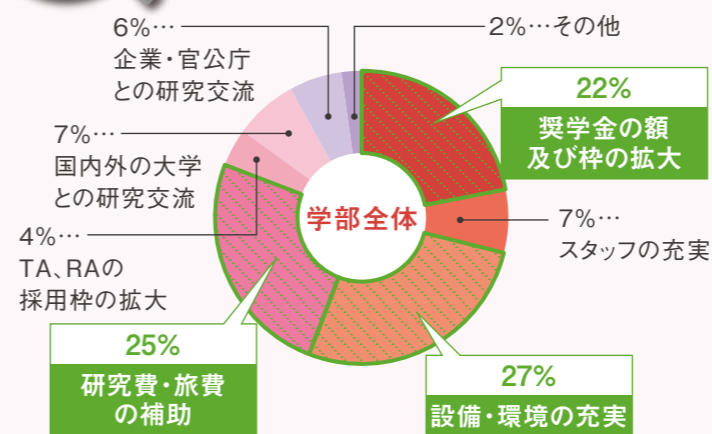


明瞭にあらわれているのは、認知率と利用率とのギャップの大きさです。問31の回答結果だけをもって、キャリアセンターの現在の取組実績を手放して高評価してよいわけでないことがわかります。半数あまりの学生における、認知はしているが利用実績がない理由とはどのようなものなのか、就職支援体制の充実化に向けたさらなる調査分析が必要といえます。そのほか、認知率においても利用率においても、学部学生よりも大学院学生のほうが高いという傾向がみられました。

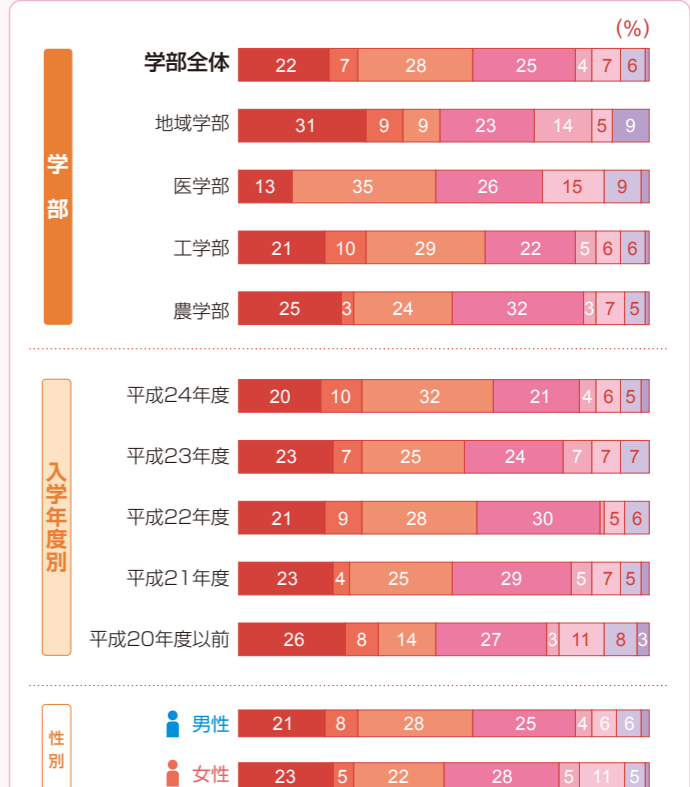


34

問33の質問で「本学大学院に進学」と答えた人に尋ねます
本学大学院で研究を進める上で、大学に要望することがありますか (学部学生のみ回答)



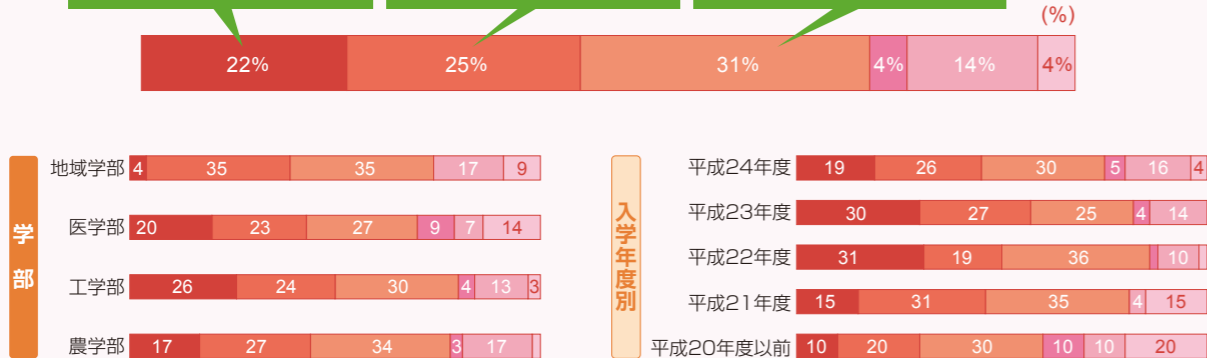
前回調査と比較すると、学部全体集計でそれぞれ30%台を占めていた「奨学金の額及び枠の増大」と「設備・環境の充実」が、前者は8ポイント、後者は5ポイント減少し、代わりに「研究費・旅費の補助」が10ポイント増加しました。この「研究費・旅費の補助」の増加は、今回調査で学部を問わずみられた傾向で、特に地域・医・工学部での大幅な伸びが前回調査との明瞭な差として認められました。



35

問33の質問で「他大学大学院に進学」と答えた人に尋ねます
他大学の大学院を希望する理由は何ですか (学部学生のみ回答)

志望する他大学大学院の方が、
専門を生かせる職業に就職できる
可能性が高いと思うから
志望する他大学大学院の方が、
社会的評価が高いから
志望する他大学大学院の方が、
より高度な研究が行えると思うから

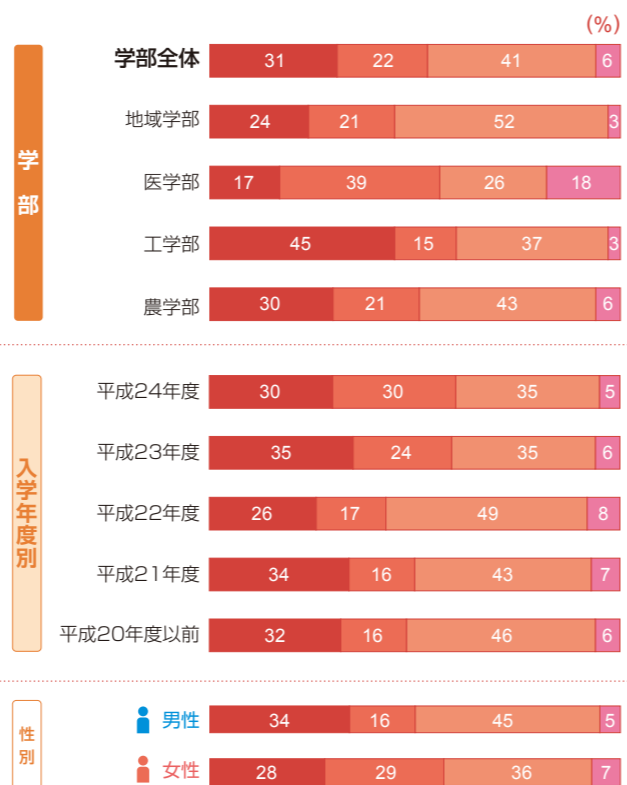
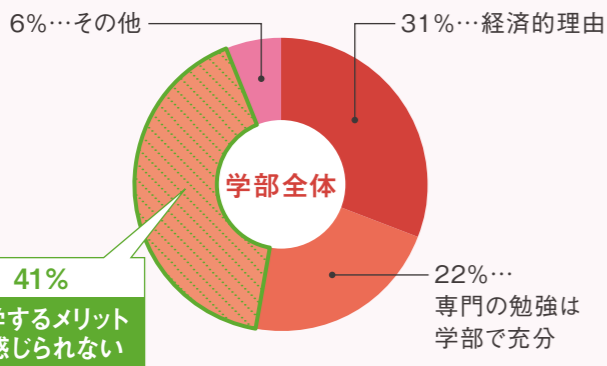


■ 志望する他大学大学院の方が、社会的評価が高いから ■ 志望する他大学大学院の方が、専門を活かせる職業に就職できる可能性が高いと思うから
■ 志望する他大学大学院の方が、より高度な研究が行えると思うから ■ 鳥取大学の教員に魅力を感じないから ■ 自宅から通えるから ■ その他

医・工・農学部で最も回答比率の高かった選択肢が、「志望する他大学大学院のほうが、より高度な研究が行えると思うから」で、自由記述でも「自分が興味のある／自分がしたい研究が他大学の大学院にあるから」という内容が多くみられました。前回調査では、当時の1年生の3割が「志望する他大学大学院のほうが、社会的評価が高いから」と回答し、これが最多でしたが、今回調査の1年生では10ポイント減少し、「より高度な研究が行えると思うから」「専門を活かせる職業に就職できる可能性が高いと思うから」を下回るかたちとなりました。

36

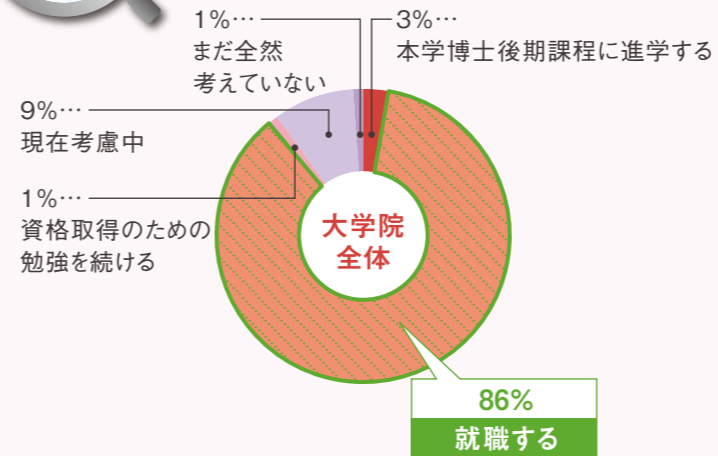
問33の質問で「就職する」「家事に従事する」「自分で事業をする」「資格取得のために勉強を続ける」のいずれかと答えた人に尋ねます
大学院へ進学を希望しない理由は何ですか (学部学生のみ回答)



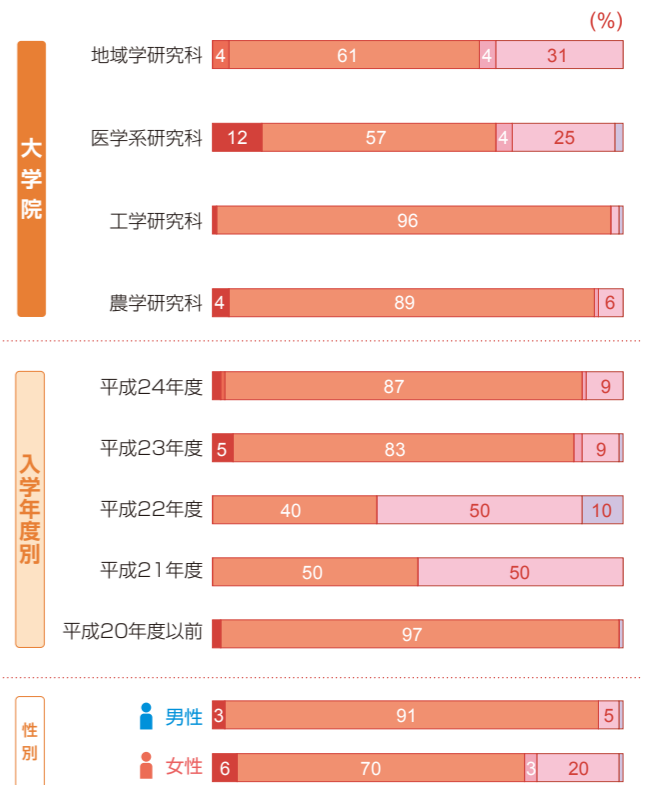
学部全体としてみた場合の回答比率は前回調査とほぼ同じ傾向となりました。ただし学部別にみると差がみられ、地域・農学部では「進学するメリットを感じられない」が最も多く、医学部では「専門の勉強は学部で充分」が、工学部では「経済的理由」の回答比率が最多となりました。なお工学部についてみると、「専門の勉強は学部で充分」が10%台で、「経済的理由」と「進学するメリットを感じられない」がそれぞれ4割前後で拮抗するという傾向は、前回調査でもみられました。

37

修士・博士前期課程大学院学生の人に尋ねます
あなたは大学院修了後、どのような進路を考えていますか

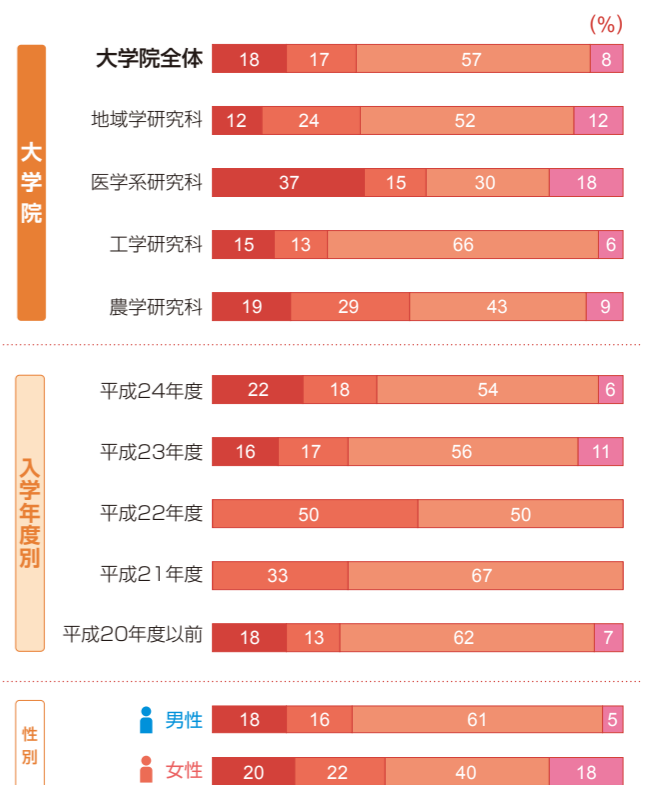
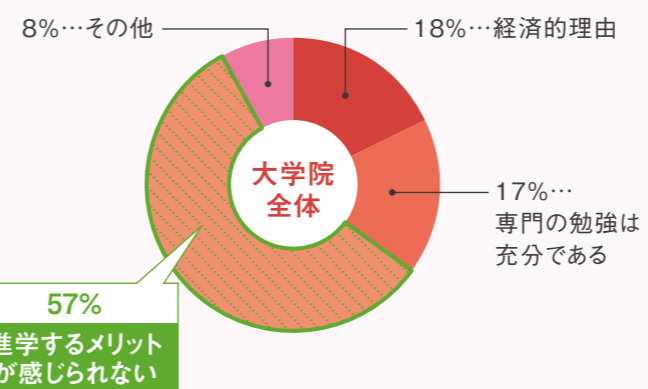


博士後期課程への進学が要求される職業はアカデミック・キャリア等に限られてきますが、博士後期課程への進学を考えている大学院生は実際わずか、ほとんどの者は修士・博士前期課程修了後に就職を考えています。ただし地域学研究科と医学系研究科については、「現在考慮中」が3割前後を占めるという結果となりました。



38

問37の質問で「就職する」「家事に従事する」「自分で事業をする」「資格取得のために勉強を続ける」のいずれかと答えた人に尋ねます
博士後期課程へ進学を希望しない理由は何ですか (修士・博士前期課程大学院学生のみ回答)



アカデミック・キャリア等、博士後期課程への進学が必要となる進路を希望・想定していない大学院生であれば、博士後期課程に対して「進学するメリットを感じられない」という回答をするものと考えられます。ちなみに大学院全体では前回調査から同選択肢が15ポイント増加し、医学系研究科を除けばどの研究科も過半数を占めています。なお医学系研究科では「経済的理由」が最多の回答を集めました。

6.その他

39

他の設問と重複しますが、大学及び学生生活全般について、もう一度尋ねます鳥取大学に最も要望したいことは何ですか



- カリキュラムの改革 ■ 授業方法の改善 ■ 教育スタッフの充実 ■ 単位認定や試験方法の改善 ■ 講義室・実験室の充実
- 図書館の充実 ■ 福利厚生施設の充実 ■ 体育・課外活動施設の充実 ■ 駐輪・駐車場の充実 ■ 自習室の充実 ■ 院生研究室等の充実
- 奨学金・授業料免除等の充実 ■ 就職対策の充実 ■ 学生相談体制及び保健管理センターの充実 ■ 大学祭等学生行事への支援

鳥取大学に最も要望したいことは何かについて、大学全体集計での上位をみると、「駐輪・駐車場の充実」が12%、「図書館の充実」が11%、「授業方法の改善」と「奨学金・授業料免除等の充実」が9%、「カリキュラムの改革」「単位認定や試験方法の改善」「自習室の充実」が8%となりました。回答結果を総合すれば、ソフトとハードの両面からの「安心して意欲的に学べる環境」の充実が鳥大生の要望であり、この声を今後の学内施策に活かしていく必要があります。

回答	学部					大学院					合計	
	地域	医学	工学	農学	小計	地域	医学	工学	農学	連大		小計
駐車・駐輪場について	11	4	26	25	66	1	5	5	2	0	13	79
構内禁煙について	12	2	19	18	51	0	1	12	0	0	13	64
図書館・自習室の内容充実・時間延長	2	12	7	17	38	1	2	1	0	0	4	42
学食・売店等の内容を充実	4	6	13	8	31	0	0	4	1	0	5	36
授業内容・教員の向上	3	6	10	4	23	0	0	2	0	0	2	25
授業料について	1	3	5	3	12	1	1	2	1	0	5	17
履修登録、授業選択、システム等	15	14	23	23	75	1	1	3	0	1	6	81
課外活動施設・設備を充実	6	7	14	14	41	0	0	0	0	0	0	41
その他	19	17	29	30	95	1	7	13	3	3	27	122
合計	73	71	146	142	432	5	17	42	7	4	75	507

大学及び学生生活について、本学に最も要望したいことを再度尋ねたところ、上の表のような回答がありました。その他を除いて、「授業選択等システムへの不満」、「駐車・駐輪場」、「構内禁煙」、「図書館・自習室への内容充実・時間延長」の順となっています。自由記述のうち主なものは次のとおりです。

主な自由記述意見

駐車・駐輪場について

■ 自宅生のために、自家用車の駐車を許可してほしいです。申請制にして距離や車で所要時間の制限を設け、それに該当する生徒は駐車を許可してほしいです。汽車を利用して大学に来るにも限界があり、車を重宝しています。駐車場を月に借りるのも負担になります。	地域学部
■ 自転車整理の有志を集めて、積極的に片づけていくべき	地域学部
■ 駐輪場にとめてある自転車の乱れを整えてほしい	地域学部
■ 駐輪場を制限されて前よりは美化されたかもしれませんが、その分スペースをもっと広げていただきたいです。置けない人が普通の道に置いたりして邪魔です。駐車場をもっと利用枠を広げてほしいです。	地域学研究科
■ 定時に帰れる者は時間をかけて通勤すればよい、そうでなくば駐車を早急に増設すべき。	医学系研究科
■ 駐車場の台数を増やして。無料化。図書館24h営業。	医学部
■ 米子の駐車場が足りない	医学部
■ 学部棟の前に駐輪場がなくなったことでもかなり困っている。学部棟前、図書館前、セルリア前にはちゃんと駐輪場をつくるべきである。	工学部
■ 屋根をつけてほしい	工学部
■ 冬場の駐車場は除雪された雪で駐車スペースが無くなるのでどうかしてほしい。	工学研究科
■ 駐輪場がない自転車はほんとに何とかしてほしい。図書館前、この前やと撤去して、止めないようにしていることはすぐわかる。それでも留める人には、何らかの処置をした方がいいと思う。	工学研究科
■ 私は自転車通学でないが、駐禁カラコンと、それを完全に無視して駐輪されている自転車は、鳥大で最も恥ずかしく、見られたくない光景である。これを改善するため、駐輪場の充実を望みます。	工学部
■ 去年からはじまった駐輪場制度をはやく見直してほしいです。歩行者として、図書館やショップ前などが現在とても歩きにくいです。(いはん駐輪で)私は自転車を使いませんが、今の制度はとても不便だと思います。(工学棟の裏に多すぎて、共通教育棟に少なすぎると思う)	工学部
■ 自転車を置くスペースを増やしてほしい。工学部の前の草むらなど無用。	工学部
■ 学生が車を止めていいスペース。車の入構をもう少しゆるくしてほしい。4年生以上はOKとかにしてもらわないと不便だ。	農学部
■ 駐輪場の整備(必要などころがなく、不必要などころに作っている。むしろ通行の邪魔)	農学部
■ とにかく、駐輪場がなさ過ぎるので、どうかしてほしいです!!農学部等の前をなぜ駐輪場から芝生にしたのか意味がわかりません。	農学部
■ 駐輪場であった場所を何の意味の無い芝生にし、ただ白線で線を書いただけの駐輪場を造り、課外活動棟においても、目の前に空き地があるにもかかわらず、棟と棟の間の狭いところに駐輪場を造るなど理解できない	農学部
■ 駐輪場所がせまく、不便などころにあること。節電により、エアコン等に制限があること。噴水横の広い芝生エリアをお金をかけてつくった意味がわからない。	農学研究科

全面禁煙について

■ 全面禁煙でなく、喫煙スペースをつくってほしい	地域学部
■ 学校全面禁煙は良いと思うが、喫煙場を校内に設置してほしい。校門などにたばこを吸っている人がたくさんいて、通りにくい。また、小さい。なので、たばこをすえる場所を設置してほしい。そうすることで、学校が、美化されると思う。地域からのみたくもよい。	地域学部
■ 大学構内の全面禁煙については良いと思うのですが、構内全面禁煙になることで、学校の外にたくさん人が集まりたばこを吸ってとても嫌な感じがします。また、たばこのポイ捨ても多くなると思います。以前、注意を呼びかけるメールが届きましたが、その後大学職員の方が、注意されている場所で吸っていました。そんなことでは大学生に示しがつかないと思います。全面禁煙にするならその後起こりうる問題をきちんと考え対処していくべきだと思います。	地域学部
■ 喫煙所を作るべき。毎日、保健管理センター奥を入口とするが、あそこで多くの人がタバコを吸っていて、見た目からしてマイナス評価。近隣から何か言われても動かないのは。	医学部
■ 構内では吸ってないという面目で、入口のあたりでスパスパ吸っちゃてる人々を排除したいと願ってます	医学部
■ 「構内全面禁煙化」について。学内で隠れて喫煙している人を見かけます。施行しているのなら、きちんと取り締まってほしいです。よく吸い殻がおちているところも見かけます。	工学研究科
■ 大学周辺歩道などでの喫煙の注意(迷惑です)→喫煙室を設けたほうが良い	工学研究科
■ 構内全面禁煙の撤廃、喫煙室の設置	工学研究科
■ 構内を禁煙にしたいなら喫煙所をつくるべき、道路ばたで吸われるのも見苦しい	工学研究科
■ 隔離的に喫煙所を作るべき。学内の喫煙マナーは良くなっていない。結局みんなかかれて喫煙して灰皿がないのでポイ捨てしている。学内禁煙を守っている人としては腹が立つ。全面禁煙にしても正門近くに集まり、近くの住人から苦情がくるなど、まったくメリットが感じられない。	工学部
■ 喫煙ルームの設置。門前やサークル棟付近での喫煙が目立ちます。	工学部
■ 所定の喫煙所を設けたほうが良いと思います。校内全面禁煙自体に反対なのではなく、正門前や大学付近での歩きタバコや吸殻のポイ捨てが目立つため。鳥取大学と「鳥大生」の印象がとても悪くなるので、それならば校内に(屋外にでも)喫煙所を設けたほうが良いと思います。	農学部

6.その他

■ 大学周りで喫煙している人々に注意されていますが、大学内で喫煙できない以上どうしても吸いたい人は大学周りでしか吸うことができないのではないのでしょうか(店などでもないですし勤務中なので)なので、あまり人通りがない場所に1ヶ所だけでも喫煙所をもうけたりする必要があるのではと考えています。喫煙所があれば周りで吸ってる人に注意できると思いますか…	農学部
■ 校内全面禁煙によって、現在喫煙者は学校周辺の道路で喫煙しており、現在の状況にはいくつかの改善すべき点が挙げられる。①学外での喫煙による周辺住民への迷惑②喫煙者の喫煙の権利がうばわれている。③(登下校時における)受動喫煙の機会の増加。私自身は嫌煙者であるが、喫煙者にもマナーを守った上で自由に喫煙する権利はあると考える。これらのことを改善するため、学内にいくつかの喫煙室を設け「分煙」を行うことを希望する。	農学部
■ 鳥取大学では構内全面禁煙となっていますが、学生だけではなく鳥大職員の方が駐車場・駐輪場付近で喫煙している姿を見かけます。このようなことになるのであれば喫煙所を1, 2カ所作ってもいいのではないのでしょうか。職員の方がこのようなことを行っていて、本当に禁煙を勧めていく気があるのか疑問です。もしよろしければ学校付近で喫煙する時も名札をつけてもらっても良いですか？	農学部

図書館・自習室の内容充実・時間延長

■ 図書館の休館が8月、12月、1月に集中していてとても困ります、休みの日にしかくることができない社会人の学生は8月ほとんど図書館利用ができません、また、12月は卒論、修論のため最も図書館を利用したい時期だと思っております、休みが長すぎます。	地域学研究所
■ 自習室をもっと長く使えればと思います。	地域学部
■ 図書館の蔵書UPを強く希望します。専門書だけでなく一般書も充実させてほしいです。でも、最低、専門書は増やしてほしいです。全然少ないです。是非是非お願いします!!!!!!	医学系研究所
■ 他大学では図書館が24時間開いているのだから、開けて欲しい、勉強する場を与えて欲しい	医学部
■ 勉強するスペースが少ない。24時間寝ないで勉強したいという人がいることも知って欲しい。「勉強しろ」と言われても勉強するスペースがないため、したくてもできないのが現状。これで国試の合格率が悪いといわれても、こちらとしてはどうしようもない。大学病院の利益をもっと、これから医療を担う学生に貢献してもよいと思う。	医学部
■ 自習室を拡大し使用可能時間を延長。	医学部
■ 図書館の充実さはよい。	工学部
■ 図書館の専門書の更新をしてほしい(古いです)	工学部
■ 地域は夜もあいているのに、比較的勉強をよくしている工学部が図書館の閉館で学校で勉強出来なくなるのはおかしい。夜も自習室をあけて欲しい。	工学部
■ ガラス張りの自習室で「本学は学生を露骨に信用していません」と表現するリスク管理は、僕にはとても恥ずかしいです。学生の人間性が最低限以上であればマナーは守られるはずだし、その様なコミュニティ内の暗黙の了解を積極的に作る政策がまず行われるべきです。	農学部
■ 自習室の開館(農学部、図書館)時間を延長して欲しい	農学部
■ 学生が大学で勉強できるよう図書館は24時間開館を希望し、各学部棟の自習室も常時利用できるようにするべき。	農学部

学食・売店等の充実

■ 食堂のメニューが全般的に高いのもっと安くしてほしい	地域学部
■ セルリアや生協ショップでミルクカードが使える商品を増やしてほしい(ジュース等)	地域学部
■ 食事やショップを充実してほしい	医学部
■ 昼、食堂が混み過ぎる	医学部
■ 学内に生協以外のコンビニかファーストフードの店舗が欲しい	工学研究所
■ 大学という場所なので学生が多く利用するにもかかわらず食堂や生協での販売価格がコンビニやその他の外食とかわらず、また、スーパーなどの方が安い場合が多いのはいかがなものかと思う	工学部
■ 何よりも食堂生協の昼時の混雑がひどすぎる。2年前はあれほど人が多くなかった印象があるので余計に気になる。増設してと言うのは無理かもしれないがもう少しなんとかならないのでしょうか	工学部
■ 土日の営業を増やしてほしい	工学部
■ 学食、ショップの食べ物の値段が高いのもう少し安くしてほしい。	農学部
■ 学食がかなり混むので、ゆっくり食事できないのが気になります…。	農学部
■ 食堂をもう少し大きくして欲しい	農学部

授業内容・教員の向上

■ 不正に出席日数を取得したり、遅刻が非常に多い生徒でも単位が認定されるというのが腑に落ちない。	地域学部
■ 授業が面白くない、なのに単位をとるのがつらい。	地域学部
■ 授業名が同じでも先輩方としている内容が全く違っていたり、シラバスと内容が違っていたりと、まるで授業の試しをされているように感じます。また、事務と教員の連絡が行き届いていなかったり、知らせるべき連絡が一部のみにしか伝わってなかったり、米子キャンパスの掲示板が過去の情報も新しい情報もごちゃごちゃと並べられている所を改善して欲しい。	医学部

■ 授業の説明が下手な先生がかなり多いと思う。ただ授業しないといけなから適当に授業をすまそうとする先生が非常に多い。	医学部
■ レポートには評価を付けて返却するようにして下さい	医学部
■ 授業内容の幅を広げて欲しい。理由としては知識の偏りが発生し、就職試験の専門分野で他学科の内容に苦労したから。	工学研究所
■ カンニングを行った生徒に対するきちんとした処罰をお願いします。真面目にしていることがバカらしいです。ここに書くことではないかもしれませんがよろしくお願いします	工学部
■ 理解しがたい授業がたくさんあります。学生に教える気がないように感じます。教授方は僕らのことはどうでもよいのでしょうか。	工学部
■ 何のために授業を受けているのかわかるようにしてほしい。自己満足に終わっている先生がいる。スタッフの態度が悪い。	工学部
■ 成績のつけ方が、教授、講義によって差がありすぎる。「単位をとりやすいから」「成績のつけ方がゆるいから」という理由で科目を選択する人間が増える。	農学部
■ 一つの授業週1、90分15回にするのではなく、週2、45分30回ぐらいにして欲しい。1回の講義で得る情報が多すぎて復習が大変・一週間たつて内容を忘れる・大学の講義は教授が楽しやすいようにできてる・教授は研究メインかもしれないが、こっちもお金を払っているのだからちゃんとして欲しい。あと、パワーポイント式の授業は教授の楽かもしれないが、生徒の方には何も残らない。眠いだけ。板書形式がよい。	農学部
■ 授業が先生のやる気が感じられない。自分の世界に入っている。	農学部

授業料について

■ 大学院入学費を払う理由、鳥取大学から進学するのに高額すぎる。	地域学研究所
■ 授業料免除の基準について、とにかく枠が少ない、以前までは通っていたのに、今はかなり通りずらく、家計が厳しくやめざるをえない状況になりつつある。大学院生の学業面での判断基準はかなりあいまいなものであるし、今の基準にかなり憤りを感じる。	医学系研究所
■ 授業料の免除についてはメールで知らせるなども少し周知させる必要があると思う。自分も知らずに、授業料を払わなければなくなってしまうときがあるので、そういうことがないようにしてほしい。人によっては死活問題になると思う。	医学部
■ 授業料免除が毎回申請時に提出書類がたくさん必要で、とても大変なので簡単にしてほしい。(全申請者対応)	医学部
■ 博士後期課程の学生に対する全額授業料免除	工学研究所
■ 奨学金、授業料免除等を受けることができ、大変助かっています。	工学部
■ 授業料免除の枠の増加を希望する	工学部
■ 要望ではありませんが、私個人として授業料免除にはとても感謝しております。授業料免除が無かったら、私は今の生活はできていないと思います。私のような気持ち、家庭の方は沢山いると思いますので、予算的には大変だとは思いますが、これからも免除の充実をよろしく願っています。	農学研究所

履修登録、授業選択、システム等

■ 興味がある授業には学部関係なく受けられるようになって欲しい。選択必修の幅を広げて欲しい。興味もないものを無理して受けるのはつらい。	地域学部
■ 大学生活で一番困ったことは必修科目がかぶっていて、カリキュラム上両方を履修できない、という状況があることでした。	地域学部
■ 大学では、今後の進路、人生を考える上で人間力形成が重要だと考えています、鳥取大学は、「人間力はどうか」と大きくスローガン(?)を掲げているにもかかわらず、大学生活を通して人間力に関しての向上が大学側からの影響により、向上していると感じることはありません。大学生活では学生の自主性はもちろんですが、大学側がスローガンとして掲げているからには、もっと何らかの形が見えるよう改善すべきだと思います。「人間力の向上」と「幅のある話」なので、型破りな大胆な講義、科目があっても良いのではないかと思います。	地域学部
■ もっと多様な分野の授業を受けたい。私は留学生だが、日本文化に関する授業はいくつかあるがディスカッションが多かったり、学生主導の授業が多かったりする。専門的な知識を教えてもらいたい。	地域学部
■ 学務支援システムやレナシティなどを学内専用でなくて、自宅など外部からアクセス可能にしてほしい。他の国立大学でも学外からアクセス可能になってるのだから、可能はずでは?いくらなんでも不便利です。	地域学部
■ 定期試験は単位認定のため、合否しか問題にならず、問題用紙も回収され、解答も明示されないことが多い。医学生の場合、定期試験も将来のための勉強なので、復習できるよう、問題と成績を開示してほしい。	医学部
■ 英語の授業に関して、もっとチュートリアルのような形式で小人数で発表するような(プレゼン)ものがあったら良いと思う。	医学部
■ 医学科は他学部との交流が無さすぎる。他の職業の人の関わりは人間として必要。医師になると世界が狭くなるので、大事。世間知らずになりやすい。前のカリキュラムに戻しても良いと思う。	医学部
■ 学務支援システムを学外でも使用できるようにしてほしい	医学部
■ 看護1年次に湖山から米子に実習で通うのが大変。2年次の夏休みが半分なくなることも不満	医学部
■ 助産に関することを教えてくれる教員を増やしてほしい、現在助産師の数が減っている中、助産師を目指そうとしている学生は大勢いるのに、定員が少なく、結局諦めてしまう人がいるというのはおかしいと思う。	医学部

6.その他

■ 基本的に、大学の教員は教育者ではなくて研究者であると思う。なので、各学科に授業面でサポートするスタッフを配置すべき。	工学研究科
■ 大学へは、学ぶためにきています。ですが、学ぶ環境がやや悪いと感じています。それは、多種多様な知識を身につけたいが、選択の余地がないことが現状です。これを改善していただきたいです。	工学研究科
■ 学部、学科によってカリキュラムの違いが大きすぎる。評価方法などは各学科の各教員によって異なるので、それを同じ土俵に乗せて評価し、学長表彰するのはおかしい。	工学部
■ 必修の授業で過年度が多すぎて教室におさまらないということがおこっているのは、おかしいと思う。カリキュラムを見直す必要があるように感じる	工学部
■ 夏休みに必修の授業をするのはやめて欲しい。履修登録を学外からもできるようにした方がいいと思う。他大学ではケータイからもできると聞いたので。	工学部
■ 工・農学部生の教員免許取得に関して、各学年年度ごとにとっておくべき科目を示してほしい。今の体制だと、例えば1年のときに取っておかないと2年・3年と学年があがったときに、必修と重なっていたなどの問題が生じる、工学部や農学部が教員になるための学部でないことはわかっているが、取得可能と大学が言っているのだから、もっと取得しやすい環境にしてほしい。教員免許取得者のための時間割作成テンプレートのようなものをつくってほしい。	工学部
■ 4回欠席すれば単位を落とすルールをなくしてほしい。優秀な成績を修めた、もしくは優秀な能力をもつものには単位が認定されるべきである。	工学部
■ 必修の単位が1年、2年、3年と同じ曜日時間にかさなっているのはやめてほしい。	工学部
■ (大学院での授業が多いことから)研究目的で入学したにも関わらず、前期授業で忙しく研究に力を注ぐことが困難でした。全く入学目的にそっていないため学校生活が充実していません。	農学研究科
■ 農学部の授業数が3年次に急に増えるのがつらかったと思います。2年次に受ける授業数を増やして、3年次に受ける授業数を少なくした方がいいと思いました。	農学部
■ 学部生ですが、身近な大学院学生に聞いたところカリキュラムの改革の意見をよく聞くので、もっと意見をとり入れて欲しい。今のカリキュラムだとよいところもあるが、研究にあてる時間が少なくなってしまうらしいです。	農学部
■ 教養科目を細かく自然分野 I などに分けるのは無意味だと思う。また、抽選に落ちたいせいで単位が取れなくなるというのをとやめてほしい。細かく分けられているせいで抽選漏れすると次期に受講しなければいけなくなっているのを改善して欲しい。	農学部
■ 学部又は修士から引き続き進学した学生以外に対して、学部、修士の授業に参加できる機会があることを、広く知らせて欲しい。昨年の前期に情報リテラシの受講の相談に行ったところ、科目等履修生の申込みメ切日の翌日で、来年又来て下さいと言われ、1年待つことになった。2年生の比較的余裕のある時期に受けておきたかった。	連合農学研究科

課外活動施設・設備を充実

■ 照明をつけるためのカード(?)が紛失したと聞きしたことがあるのですが再発行などはできないでしょうか。サークルと部で優先順位をつけることも、あまりしてほしくありません。運営のしかたが違うだけで、テニスに対する思いは部と同じあるいはそれより上だと思っています。	地域学部
■ サークル棟についてですが、いくつか使用されていないような部屋が見られました。もし使用されておらず、今後使用される予定が無いのであれば、既に部室を持っているサークル・部活が追加で使用できるようにしてほしいです。私事ですが、現在使用している部室には備品が沢山置いてあり、室内である程度の活動スペースを確保しようとすると、効率的な備品の収納が難しいのです。わがままな要望ですが、2つ目の部室が使えたと助かります。	地域学部
■ サッカー、ラグビー場を芝生にしてほしい。今の土のグラウンドでは、ケガをする可能性が高く、おもいきりできない。あと、シャワー室は、誰も使えないような状態なので、使えるようにしてほしい。トイレは和式しかないので、ケガをしたとき、大変なので、洋式に変えてほしい。	地域学部
■ サッカーグラウンドを人工芝にしてほしい。体育会サッカー部に所属しているが、1部に上がると、芝で必ず試合をしなくてはならなくなる。そこで、鳥取大学のグラウンドを人工芝にすることで、サッカー部発信で大学の名を受けることができる。『国公立で数少ない人工芝のある大学』というコンセプトで、受験生等にも食いついてくれると思う。	地域学部
■ 今春から、近隣住民との齟齬により文化系サークル棟の使用に大幅な制限が加わりました。図書館は22時まで出入りすることができるのにサークル棟は20時から出入りすることができません、サークル活動くらい自由にできるようになれたらいいと思います。	医学部
■ サークルにせっかく入っているのに、施設がないこと。活動もできず意味がない。勉強で遅くまで学校にいないといけなくもあるのに、居る場所がない。ご飯を食べることのできる場所が少ない。	医学部
■ 米子地区の体育館をきれいにしてほしいです。以前、大雨のとき、体育館の天井から白い粉のような、砂のようなものが落ちてきて、体育館全てが真っ白になったこともあります。(今年のことです)また、トイレの入口にドアがなく、ドアをつけてほしいです	医学部
■ 音楽サークルで毎週練習室のゆずりあい(調整会)があります。必要な分の施設を造って下さい。外部の練習室を貸りるほどたりしていません。	工学部
■ 個人で音楽活動をしていると練習場所の確保が困難です。地域学部のピアノ室は他学部の学生は使えないため非常に困っています。練習場所が身近なところであれば、技術的なレベルが上がり、鳥取の文化活動の活性化にもつながると思います。人が1~2人入れるスペースでかまいませんから、ぜひ防音室を作ってください。	工学部
■ ヨット部に良い船を買って下さりありがとうございます。ただ、どれだけ良い船・良い艇庫であっても出艇する場所の修繕が行わなければ、船に傷が行きます。車も同じですよ?車庫と車が良くても大きな段差が道路との間にあったら傷みます。検討して下さい。	工学部
■ トレーニングルームの玄関のところに夜、電気がつくようにしてほしい。今は、23時くらいになるとつかなくなるから。	工学部

■ テニスコートについて、テニス部の使用しているオムニコート、一般の学生は利用できないのに、事務の人や教員が早朝や昼休みに使われていることに納得できません。学費として維持費を負担しているのは私達のはずです。きちんとした理由があれば(昔、学生の使い方が悪かった等)教えて欲しいですが、担当の事務の人にお聞きしてもあからさまに嫌な顔をされます。職員も利用していないと言い張ります。誠実な回答をお願いしたいです。	農学部
■ 音楽系サークルの部室をかためて、他のサークルの迷惑にならないようにしてほしい。機材等、重いものを運ぶ機会が多いので、1階に音楽系サークルを置いてほしい。	農学部
■ 私の入っている部活(探検部)では世界大会に参加したり優勝することもあるのに、それに必要な装備など全て自分たちで買っています。オリンピック競技ではないですが(ラフティング)海外などでは有名なスポーツで日本のプロチームでは2年連続世界一位をとっています。ボート部は1艇25万円や30万円など高く、倉庫もすごく狭くて雨もりもするようなどころを使っています。現在部員は40名近くいます。もっと結果を出している部にお金を回すべきでは無いでしょうか。	農学部

その他

■ アレスコ棟4Fリフレッシュルームを学生も使用できるようにしてほしい。4Fのみ職員専用となっている理由がわからない。	医学系研究科
■ 学割が年間10枚までしか発行できないのが不満です	医学系研究科
■ グラウンドが近くにほしい。学生は無料で駐車場を使わせて!!(パスカードを多く発行して)。自習室を多く。	医学部
■ とにかくにも無線LAN!ここまでPC・モバイル機器が発達しているが使えない講義室があるのがおかしい。	医学部
■ 入学前に、1年後期に米子へ通うことを聞かされておらず、しかも実家生ということでホテルに泊まることもさせてもらえず、家に帰ることを強要された。1年のとき、湖山の図書館も改装で仮設図書館、4年のとき米子図書館は改装で文献すら読めない。	医学部
■ TAの活動が広すぎる、補助を超えて授業も任せられる。院生であっても、学生とほぼ同等なおかしい、テストの作成も同様・車の出入り制限を緩和して欲しいです。学会などの旅費の援助をもっと積極的にしてほしい研究費のような経費で一部補助はあっても全額補助でないというつらい、学会加入費の援助なども同様。	工学研究科
■ どの部、課に聞けばよいかなどがどんな内容にも瞬時にわかるようなシステムの構築が望ましい	工学研究科
■ 工場をよく利用するが、6~7月の時期は蒸暑く、熱中症などの危険があると思う。作業をすると、暑さで集中できず、工作機械などを使う時は本当に危ない。早く対処すべきだと思う。	工学研究科
■ ファーストフード(マック)やコンビニをたててほしい	工学研究科
■ 工学部のトイレにも便座消毒のアルコールを付けてほしい	工学部
■ 就職支援バスが6月で終了すると困る。片道は¥2000になっても前期中は運行して欲しい。	工学部
■ 学生が利用できる制度や施設、設備があるにもかかわらず、それらについて知らない学生が多いため、宣伝してほしい。	工学部
■ 木曜日に行ったら、先生がいないとかで薬がもらえなくて不便だとは思った	工学部
■ 地域の自習室は、カードロックがついていて、安心できるが、その反面学生が、私物を机に置きっぱなしにしている。勉強する場所がない。卒論をどこで書けというのか…。他大学生との交流。県内に大学が少ないため、他大学生と交流する機会が全くない。就活が始まって、初めて、他大学の学生から刺激をうけているようでは、就活も、勉強面でも遅いと思う。遅くとも3年までに、興味、関心のにている他大学生と交流できるチャンスが欲しい。教員もそのような機会をつくってほしい。	工学部
■ 共通棟A20前のロッカー。カギ返したのにいつまでたっても貼り紙されたままでした。カギのないロッカーがごんごんふえている気がします。(荷物入れたままの私も悪いです。すみません…)	工学部
■ 地域棟にも自販機を置いて下さい。共通教育棟の自販機設置。	地域学部
■ 雨が多いので自転車置き場に屋根がほしい。さびる。地域学部棟に自販機を置いてほしい。	地域学部
■ 地域学部の教務と鳥大の共通教育棟にある教務のような所の連絡が不足しているのではないかと。海外留学の奨学金(学生支援機構の8万円の分)を取りたかったが、私は国際交流課に相談していたため、連絡が遅れ、もらえなかった。学部に相談していた同じ学年の子がもらっていた。これはおかしいと思う。学部に8万なのだから分けてもいいはずである。もっと留学に関する情報を学部からも公開してほしい。この事については本当にかかりで。もう絶対に地域学部に留学の相談には行きたくない。	地域学部
■ 節電は大変重要だと考えるが、学生・教職員の安全確保は第一に考えてほしい。廊下の明かりを18:00以降も消されたままだと、居室と実験室を行き来する時に何も見えず、壁やドアにぶつかりそうになる。戸締まりする時に鍵穴も分からない。	農学研究科
■ 夜間の街灯の照度向上。(24:00以後)、夜間のエレベーターの使用(実験器具を持って、何度も往復するのは困難、せめて22時まで使用させて欲しい)。	農学研究科
■ 就活支援バスをもっと安くたくさんだして欲しい。芝生なんかいらないので(農学部の前の)あそこを駐車場にして欲しい。	農学部
■ キャリアセンターだけでなく、教員がもっと就活に対して積極的になってほしい。院があるからという逃げ場を作っているように感じる	農学部
■ サークル棟に向かう裏の坂道のブルーシートを外してほしい!坂を下りてくる自転車が見えずに衝突しそうになった。そもそもブルーシートを覆って何をしているのかが不明	農学部
■ 前の大学に比べて、色々なことに取り組んでいると思います。(大阪-鳥取就職支援バス・TOEIC受験など)	農学部
■ 開錠時間(自動ドアやその他のドア)を早くしてほしい。最低でも7時。日の出と共にしなければいけない実験などもあり、温室に近いドアが8時まで開かないとわざわざ自動ドアの方まで行かなくては行けなく、大変不便。実験を行う際の大きなロスになっています!何とかしてください。	農学部

6.その他

40

本学教員への意見・要望

講義に対しては、「分かりやすく丁寧に講義を行なってほしい」、「興味を持てるような授業をしてほしい」、「講義の開始と終了の時間を守ってほしい」、「休講等の連絡事項はメールで送ってほしい」「先生によって単位の認定などの基準に差がありすぎると思う」等の意見が多くありました。講義以外については、「もっと生徒と交流が欲しい」、「挨拶をしつら返してほしい」、「就職についてのアドバイスをもっとしてほしい」、等の意見や要望が多く寄せられています。

回答	学部					大学院						合計
	地域	医学	工学	農学	小計	地域	医学	工学	農学	連大	小計	
授業内容	4	8	21	9	42	0	3	52	1	1	7	49
授業の方法	5	8	16	6	35	0	0	2	1	1	4	39
教員の態度	8	8	17	11	44	0	3	2	1	1	7	51
学生への接し方	12	5	13	13	43	0	1	2	0	1	4	47
不公平	3	1	2	3	9	0	1	0	2	0	3	12
指導してもらえない(多忙・教員数が少ないなど)	0	1	0	0	1	0	0	1	1	1	3	4
裏門等での喫煙	0	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	4
教員同士仲良くしてほしい	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	2	3
質問できる時が分からない	2	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	3
単位がほしい	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	4
感謝している、良いと思う	0	1	0	3	4	0	0	0	0	0	0	4
期待していない	0	0	1	3	4	0	0	0	0	0	0	4
特になし	2	0	31	9	42	0	0	13	0	0	13	55
上記以外	1	0	5	7	13	0	0	3	1	0	4	17
合計	37	32	114	66	249	0	8	26	8	5	47	296

大学の教員に対して期待するところを尋ねましたが、他に意見・要望を尋ねたところ、上の表のような回答がありました。「その他」を除いて、「特になし」、「教員の態度」、「授業内容」、「授業方法」が上位を占めています。「学生への接し方」についても不満があるようです。

主な自由記述意見

授業内容

■ もっと魅力のある講義。人生に関わるような、もっと熱い話を聞いてみたい。学生企画など学生がしたいことに関しても、もっと協力してもらいたい。大学は、そういうところであると思う。柔軟な対応をしてほしい。学生が変われば世界が変わると思うから、ぜひ、対話などの場をお願いしたいです。	地域学部
■ クセのある先生が多く、初めての大学の授業なのについていけないことがある	地域学部
■ 学生が勉強をおもしろいと感じるような練られた授業をしてほしい	医学系研究科
■ 授業が専門的すぎてついていけないことがある。段階を踏んで教育をしてほしい	医学系研究科
■ ちゃんと理解できる授業をしりたい。授業範囲外からテスト出さな。プリントの字がつぶれて読みにくい。そもそもプリントを配られない。何を言っているのか聞かえない。スライドが意味不明。	医学部
■ 授業が下手な教員がいるので、他の教員に交代してほしい。必修なので困る	医学部
■ 最先端の研究、社会に出た時に役立つ必要な知識の教育、もっと今の社会に対応した授業を行っても良いのではと思う。	工学研究科
■ 勉強する分野で、どの部分が一番おもしろく、また、社会において、どのような部分に使用されているかを教えてもらえると、より、授業におもしろ味を感じられるようになると思う。	工学研究科
■ 先生が教えていて楽しい授業を目指すべき、特に語学等で先生が楽しそうな授業とそうでない授業の差は大きい。	工学部
■ 一人よがりな授業をしている先生が、皆の点が悪いことを否定し、さらに3分の1近くの人の単位を落とすなどと言っているが、これはいかなものかと思う。大学で自学の精神を求めるなら、より簡単に通るような制度やflexibleなコマの選択を、厳格な知識の流入を求めるなら、より質の高い教育をしてほしい。他方で大変なためになる、分かりやすく高度な授業をして頂いている先生もいるのだが。	工学部
■ 自分のペースでどんどん進めていく先生がいるので、理解できる程度のスピードにしてほしい。	工学部
■ 学生が楽しい、面白いと思えるような講義をして欲しいです。長々とプロジェクターを読むだけの授業はつまらない。	農学部
■ 講義を受け持つ以上は、学生に理解してもらうことを目的として行ってほしい。自己満足の講義にはもううんざりです。	農学部
■ 授業内容、要点が分かりにくい教授がいる。遅刻が目立つ教授がいる(遅刻しておいて授業を延長するのはやめてほしい。)	農学部

授業方法

■ 話すだけの授業を減らしてほしい。グループワークなども取り入れてほしい。	地域学部
■ 急な休講の場合はメールで配信してほしい。(できるだけ早めに)	地域学部
■ スライド授業でノートを取るのは大変なので、プリントに印刷して配って欲しい。(抜粋プリント・データでも良い)	医学部

■ 出来るだけシラバス通りに行って欲しいし、授業で教員本人が指導していない部分を試験範囲として取り上げることやめて欲しい。	医学部
■ レジメの配布(できればスライドのデータも)←配布されたレジメで文字がつぶれている、配色のせいで見えなくなっている所が多い。更にプリントの紙の使い方が先生によって差が大きい。	医学部
■ スライドで授業をする場合は後ろでそのスライドが見えるようにしてほしい	工学研究科
■ 声や字が小さくて困る時がある。黒板の字と立っている位置がかぶって見えなかったのにすぐに消されると困ります。	工学部
■ 評価方法を示して欲しい。特に期末試験の結果が分からないまま、評価されるのは、やめてほしい。試期だけでなく、何か救済措置のようなもの(レポートetc.)がほしい。	工学部
■ 生徒が授業中に眠ってしまっているときは、声をかけたり話題を変えたりするなどアクションをして欲しい	農学部
■ 何となくですが、最近の授業方法の改善からか、「大学の講義」というより「高校の授業」のようなスタイルになっているように感じました。正直、興味深い内容であれば何でも良いのですが…。	農学部
■ 一つの講義に関して90分もこちらの集中力が持たない。45~50分位なら小・中・高を通して行われているのでこちらもやりやすい。教授の授業は下手すぎ。高校や中学の先生なら、教授が90分かけてだらだら教える内容を40分もあれば教えきれると思う。それだけ、内容の密度が薄いときもある。これに関しては個人差あり、上手な人は上手。あと、90分間パワーポイントのスライド見続けるのは退屈で死ぬ。板書形式を希望。	農学部
■ 基礎から応用研究までの連携	連合農学研究科

教員の態度

■ ごく一部ではあるが、全く熱意を感じられない教員もいる。	地域学部
■ やる気を出して欲しい。もっと魅力ある授業をしてほしい。	地域学部
■ もう少し、自分の生き方に応じた指導でもよいのではないか。	医学系研究科
■ 講義室で待っていて、授業開始時間を過ぎても先生がいらつららず、連絡すると休講になることが最近よくありました。事前連絡などしていただきたかったです。	医学部
■ 就職希望の学生と院進学希望の学生で態度を変えないでほしい。	工学研究科
■ あいさつをしつら返してほしい。(あいさつをしても、無視する先生方もいる。)	工学部
■ 学生を部品のように考える教員もいるがやめてほしい。中間アンケートで改善して欲しい点を挙げて説明のないまま何も無かったかのようにする教員もいる。	工学部
■ 教員に尊敬が抱けない。能力が低い、質問に対する回答が不十分。	農学研究科
■ 大学教員は研究者であっても教育の場にいるのだから、授業だけでなく様々な場で大人気ないことをしないで欲しい。又、生徒に聞く姿勢が無いことを注意するのであれば、生徒の話をちゃんと聞いて欲しい。	農学部
■ 私の研究室だけでもかもしれませんが、学生が就職活動をしているとあまり良い顔をされなかったため、就職活動に関してもっと理解を示して欲しいです。	農学部

学生への接し方

■ 学生と仲良くなることより、信頼される教員を目指してほしい。	地域学部
■ 就職に関するアドバイスがもらいたかった。研究室を2年、3年のときに決めて、絆のつながりを深められるようにしてほしい。	地域学部
■ 学生と教員が親しくなる機会を設けて欲しい	地域学部
■ 学生を甘やかさず、もっとメリハリをつつけて、指導していくべきだと思う。	医学系研究科
■ もっと親近感もてる雰囲気を作ってほしい。	医学部
■ 生徒の質問にきちんと答えて欲しい。研究室にいない時にどこにいるのかをはっきりさせて欲しい。シラバスに「いつでもどうぞ」と書いてあっても、行くといないことが多い。先生にも事情があることは分かっているが、せめてどこにいるか、だけでもおしえて欲しい。	医学部
■ 支持をあたえるだけでなく、今現在、学生がどんな状態かしっかりと把握して対応してほしい。無理難題をおしつけるのではなく、自ら動いてほしい。	工学研究科
■ 不安がある時に相談に乗ってくれば大丈夫です。	工学部
■ 自分の学科の学生の顔くらい覚えてほしい。	工学部
■ 基本的に優しくするとおもう。授業に遅刻してもあまり言う人はいない。定刻に鍵をしめればいいのでは？	工学部
■ 教員は自分のレベルで物考えるのではなく学生のレベルにあわせて考える力が必要である。当然と教育が思うことでも学生にとっては難しいことが多い。	工学部
■ 学生と公平に評価できなくても、自分の間違えを素直に受け入れ切れなくてもとりあえず良いので、せめて最低限の人間性・コミュニケーション能力や正当性といったものはつけて欲しいです。	農学部
■ 先生が忙しくて構う暇がないのかもしれないが、学部1~2年生は不安や大学の先生が話しかけてもよいのか不安に思うことがあると思うので、キューター面談などの交流は多くやった方が良くと思う。	農学部
■ 生徒ともっとフレンドリーに話せたら良いのでは？仲良くなりたけれど、話にくい、機会がないです。	農学部
■ 研究室の教員以外と日常的に接することがないので、よくわからない、研究室の教員については、もっと実験室に足を運んで欲しいと思う。現在学部1年生の情報リテラシーを受講しているが、講義室にはゴミが捨てられ、教員が講義室に入ってきて、おしゃべりが止まらない。教員は担当科目の講義をするだけでなく、生活態度についても指導すべきではないかと思う。	連合農学研究科

6.その他

41

本学事務職員への意見・要望

本学事務職員の対応について再度意見・要望を尋ねたところ、一番多かったのは、「窓口、電話対応等に対する不満」が64件、以下「マナーに対する不満」(40件)、「事務処理に対する不満」(38件)の順でした。一方で「事務職員に対する感謝・激励」も14件ありました。全体では237件のご意見・ご要望がありました。特定の部署の事務職員に対する不満がある一方で、同じ部署でも中には感謝しているご意見もありました。これらのご意見は、すべて各部署へお知らせします。「窓口、電話対応等に対する不満」については、態度以外に「窓口の開いている時間の延長」、「窓口の統一」、「たらい回しにしない」など、「マナーに対する不満」には、接客マナー以外にも「愛想良く」、「笑顔で」など、「事務処理に対する不満」には、「迅速な対応」、「知識の習得」、「掲示板への不満」などのご意見がありました。他にも「喫煙の問題」、「自転車駐輪への不満」、「このアンケートへの不満」など多くのご意見・ご要望をいただきました。これらの回答が無駄にならないように調査結果を今後の鳥取大学へ役立てるようにしたいと思います。

回答	学部					大学院						合計
	地域	医学	工学	農学	小計	地域	医学	工学	農学	連大	小計	
1. 窓口・電話対応	14	4	12	22	52	1	2	6	2	1	12	64
2. 事務処理 (事務対応)	7	8	6	7	28		4	5	1		10	38
3. マナー (学生への接遇)	4	4	9	15	32		2	2	3	1	8	40
4. 事務職員に対する感謝・激励	5	1	2	3	11			1	2		3	14
5. 特になし	4		30	7	41			13			13	54
6. その他		4	4	13	21			3	2		5	26
合計	34	21	63	67	185	1	8	30	10	2	51	237

本学の事務職員の対応等についてお尋ねしましたが、他に意見・要望等を再度尋ねたところ、上の表のような回答がありました。「その他」を除いて、「特になし」、「窓口・電話対応」、「マナー」、「事務処理」の順となっています。自由記述のうち主なものは次のとおりです。

主な自由記述意見

窓・電話対応	
生活支援課の方々それぞれで言うことがバラバラなので、免除申請の時に少し戸惑いました。職員の方々の意思疎通をもう少しおねがいします。	地域学研究所
キャリアセンターの男性には驚いた。こちらの問いかけに対して、非常にあいまいで逆に相談したことで不安になった。もう二度と行くかというように思った。スタッフの意識と知識のレベルアップが必要。	地域学部
知らないことが多い、愛想があまりよくない	地域学部
親切な方もいるが、冷たい高圧的な人もおり相談しにくい。	地域学部
地域の教務の人は、一つひとつの事柄に対応がおそいと思うし、今までなかったことに対応してくれない。また態度もあいそがなく、いい感じがしない。	地域学部
窓口に行きやすい雰囲気をつくってほしい。	地域学部
学生が聞きに行っても担当の人がさっと答えられない後ろでずっと話してる人がいる。対応する気のない人が目立つので行きたくなくなる。閉鎖的すぎる。声をかけてもすぐに対応してくれない。(学部棟事務)	地域学部
共通教育棟の事務職員の中に、学生に対して対応の悪い人がいる。	地域学部
仕事のやり方に不満を持っているので、より学生に対しての応接に力を入れてほしい、自分ではできないからわざわざ訪ねることが当然なのに態度も良くないし、やる気がなさそうである、同じことで(同じ内容で)何回か訪ねても変わらなかったため、諦めた。	地域学部
内容で担当する場が異なるようだが、それが分かりにくい。	地域学部
窓口を統一して欲しい。学部と共通教育棟を場合によっては何度も行ったり来たりする必要があるため。	地域学部
のれんに腕押し状態。電話対応に腹が立つ。電話の際、応対者を名を呼んで頂かないと、再度電話した時、また話が1からとなり面倒。また、文句を言いたくても、誰に言えばいいのかわからない。	医学系研究所
入試の手続き時に、手続き内容がわかりづらく、具体的には、大学内での、所属の長の署名の件で、情報が不足して混乱したので、募集要項を受け取る際窓口で一言教えていただけたらありがたかったです。	医学系研究所
17時に帰りたいという勝手な考えが困る。威圧的。民間の人を入れてほしい。	医学部
本学の事務の対応が悪かった	医学部
窓口に出られるのが少し遅いと思います。	工学研究科
就職の相談をキャリアセンターの方にしたのですが、正直その人のことを信用できないので、相談が意味ありません。各学科に就職専門の方を常駐させ、学部1年の頃から信頼関係を築くべきだと考えます。	工学研究科
女性事務員ふやすべき。男性職員は対応が機械的であり、質がわるい。	工学研究科
窓口の対応が悪すぎる。指示された仕事をこなすくらいなら、ロボットでもできると思う。何が求められているのかをもっと自分の頭で考えて、行動してもらいたい。	工学研究科

呼ぶ前にカウンターに用事を聞きに出て来てほしい。客が来て、注文とらないのといっしょ。	工学研究科
「ムリ」「ダメ」だけでなく、対策案を言ってほしい	工学部
学生を相手にしているのからなのか、態度が悪い。窓口で声をかけても無視される。	工学部
サークルによって、対応の良し悪しがある人が、その態度が露骨でよくないと思います。	工学部
ていねいな対応をして欲しい。正直雑なときがある。	工学部
生活支援課の対応が不親切な時がある。授業料免除の書類提出の際、収入などに対して失礼なことや、周りにも聞こえるくらい大きな声で言われました。マニュアル通りにしか働けないのか、柔軟に対応して下さらないことがありました。	農学研究科
対応が悪いところがある。一度確認したことが次に言った時違うと言われたことが2回ほどあり、2度手間でした。自分の言ったことを忘れていてあたかも私が悪いような言い方をするためイライラさせられる。	農学研究科
態度悪すぎ、学生のことなめすぎ。仕事しなさ過ぎ。会話が成り立たない。全員がこのような人ではないことは理解しています。しかし一部の特に先輩の方の態度がひどすぎます。一言で言うと誠意がない。	農学部
たらい回しに何度かありました。大学の事務全体を把握して丁寧に対応していただきたいです。「それはうちの担当ではない」とだけ言わずに「どこで、どのようにやってもらえるよ」とフォローして頂きたいです。	農学部
愛想がない、面倒くさそうに対応する職員が多い。	農学部
学生に時間の余裕が無いこともあるので速やかに対応して欲しい	農学部
授業料に関する質問をした時に事務員の対応が不快だった。	農学部
農学部、教務の方の対応が、もう少し融通が効くようになったらいいと思います。他の学部の教務より厳しいです。	農学部
毎年ある奨学金の説明会で係の方が説明してくれるが、声が小さすぎて何を言っているか全く聞き取れないので困る。大事なことから、きちんと気をつけてもらいたい。	農学部
キャリアセンターは入りづらく、また事務の方に話しかけにくい、利用しにくい。	農学部
図書館職員アルバイトの態度	農学部
窓口で学生相手だからといって、上から目線の対応はやめて欲しい。学寮のことで相談に言った際、相手にしてもらえなかった。	農学部
窓口で対応する人によって反応が違うので、知識や情報の共有を十分に図って欲しい。	農学部
私が学部学生だった頃は昼休みになると窓口が閉鎖されていたし、応対の時に笑顔を見せる人はほとんどいなかったもので、現在の事務の方の対応は良いと思うが、やや冷淡な人も少数認められる。	農学部

事務処理 (事務の対応)

学習に対することはよいと思う。しかし、課外活動を支援するという点では、あまり協力的ではないという印象がある。よく言われるのが「お金がないから無理だ」と言われてしまう。それでは、全く改善されない。また、「考えます」と言われても全くその後の連絡もなく、意味がない気がする。このような対応だと利用されなくなってしまう。	地域学部
授業料減免システムを改善し、わかりやすい資料をつくってほしい。	地域学部
親切な方もいるが、冷たい高圧的な人もおり相談しにくい。	地域学部
博物館実習について、自分でアポイントメントを取らなければならないなら、出身県に限らないようにしてほしいです。それが、事務の方で鳥取県内で手配してほしいです。	地域学部
分からないことがあれば教務係に、と言われているが、教務係自体が授業や大学の制度について把握していないことが多い。	地域学部
学部掲示板の作りが不親切。鳥取短大に行かなくてはならない、資格のための講義の申し込みなど、小さく、そして、知らぬ間に、期限ギリギリに突如掲示。気がつけば申し込みは終わっていました。資格、将来にダイレクトに響くことです。グループで連絡を合せて掲示板は見るようにしてはいますが、本当にいつもひやひやしています。不親切です。	地域学部
とにかくミスが多い。事務職員は信用するなということをよく聞く。ミスをして謝罪の気持ちが全くない。良い人は良いが、悪い人は悪い。	医学系研究所
特定の人(少人数)しか、授業料免除・奨学金の対応ができていないので、もっと人を増やしてほしい。	医学系研究所
知識に乏しい「折り返し連絡をする」との事務の対応から連絡がなかったりする	医学部
メールで連絡を流してくれて大変便利になりました。しかし、その分、掲示がいつもぎりぎりな気がします。	医学部
できれば、19時くらいまでいてほしい。	医学部
学生への対応がずさん。あまり良い印象をもたない。サークル紹介に対して今年ひどかった。旅費の返金すら求めたい。	医学部
講義室の利用申請を行ってサークル活動を行ったりしているが、他の団体とかぶったりして、不具合が生じることがあるので、かぶったりしないようにしてほしい。	医学部
掲示板を学年ごとに分けてほしい	医学部
メールでの緊急連絡が緊急になっていないと思います	医学部
与えられた仕事をこなすだけでなく、そこから1手2手先を読んで仕事をしてほしい。また、臨機応変に対応できていないことが多々あるので、そこも改善してほしい。	工学研究科
事務処理を早くして頂ければ特に要望はない	工学研究科
同じ課の中で情報が伝わっていない場合がよくある。事務職員の仕事は腹が立つ。	工学研究科

■ダブルブッキングはやめて下さい。サークルを運営しているときに、数回ありました。	工学研究科
■熱心に仕事をされている人も多いが、一部にまったくやる気を感じられない人がいる気がする。研究室やサークルの用事で事務を利用する時、いつも決まって同じ人が、わからない、他の人に聞いてくれなどと言う。	工学部
■開学記念の球技大会で課外の方から賞状が折られた状態で各担当サークルに配布された。賞状を折るなんて一般常識がないし、折られた賞状をもらっても誰もうれしくない。常識がない事務職員の対応がとても残念だ。	工学部
■免除などの、決定をはやめてほしい。選考期間が長いように思う。	工学部
■6年間(学部1年～M2まで)の中で、「なぜ?」とつっこみたくなるような対応ばかりでした。学生相手なので大変かと思いますが、それでも、教育に携わる人として覚悟と責任をもっとしてほしいと思います。同じ教育に携わろうとする学生として、心底悲しくなります。文書ははやく次へ回す、部署間での連絡を密にする等、しっかりやっていただきたいです、時として、学生の進路や一生を左右しかねません(実際左右されかけました)	農学研究科
■事務員がカリキュラムについて知らなさすぎる。なので自分のいる学部のカリキュラムぐらいしっかり把握してほしい。	農学研究科
■集中講義等の予定が前日とかに発表される。土曜日に農学部棟で集中講義があるのに鍵が閉まっているといったように、事務職員のいいかげんさがかなり目立つ。農学部の教職関連が全てにおいて適当すぎる!!	農学部
■教育免許に関して無知である。改善してください。	農学部

マナー(学生への接遇)

■学生にもっと親切で、にこやかな対応をするべきだと思う。	地域学部
■基本的に人と接する上でのマナーがないと思う。相手が学生でも最低限の愛想がいると思うし、説明をする時も言葉が足りず、理解できないこともある。	地域学部
■対応が丁寧な人もいれば、そうでない人もいる(指導して下さい)	医学系研究科
■休憩中であっても、Youtubeを見たりするのは、外部の関係者には印象が悪いと思う。	医学系研究科
■対応の良い人は本当に良いと思うが、対応の悪い(例えば、「めんどうくさそうに対応する」「こっちが分からないなりに説明しているが」冷たく対応)方はおられる。	医学部
■全員ではないが、学生を見下しているようで腹が立つ。対応するときにガムをかみながらであったりなど、どうかと思うし、頼る気も失せる。	医学部
■対応が非常に悪い 効率が悪い(何往復もさせられたりしました・・・)	工学研究科
■誰が支払っている授業料で給料が出ているのか自覚の全く無い態度を改めるべき。何人かクビにして、その分の人件費で学生の福利厚生をするべき。	工学部
■事務職のベテランばい人ほど無愛想。学務支援課が特に。	医学部
■図書館の職員の人に愛想がなさすぎる人がいる。	医学部
■学生に対してなぜかあのような冷たい態度をとるのか。学生を見下す気持ちは分かるがそれを商売相手の学生にも分かるようにするのは社会人としてどうなのか。	農学研究科
■普段の学生に対する対応のまま、オープンキャンパスの時に高校生や保護者の方に対応されているかと思うと、申し訳なく、そして恥ずかしくなります。	農学研究科
■朝来るのが遅いのに、夕方はしまるのが早く不便。要望を言っても対応してくれない。	農学部
■事務の態度が悪いときがある。掲示板への掲載が小さく重要なものがみえなくても一方的にこちらが悪いようになる。	農学部
■学生に対して高圧的であったり、態度が悪いと思う方が何人もいらっしゃいます。学生だからという態度でもいいと思っているのかもしれませんが不快です。	農学部
■今でも十分なのですが、もう少し明るく対応していただけるとありがたいです。後、もう少し入った時、声をかけやすい雰囲気だとありがたいです。	連合農学研究科

事務職員に対する感謝・激励

■新人の人っぽい人や慣れすぎて人は冷たいし、適当にあしらわれた。でも全体的に他の方は良かった。(でも言葉遣いは悪い人もいると思う)	地域学部
■以前より態度が良くなっていると思う。特に若い人達が良い。	地域学部
■丁寧な対応をしてくださる人もいてうれしいです。	地域学部
■私は、家庭の経済状況が悪くなく、1年の後期からずっと授業料申請をお願いしているのですが、その際、奨学係の方々には親切にいろいろと説明をして頂いて感謝しております。	地域学部
■いつもありがとうございます	地域学部
■学務の方にはいろいろと配慮してもらっていると思います。学生の態度もよくないと思いますが我慢強く対応してくれると思います	医学部
■この間はお世話になりました	工学部
■生活支援課のみなさんにはいつも大変お世話になっております。みなさんとてもやさしい方ばかりなのですが声が小さいですよね…	農学研究科
■授業料免除や奨学金の書類の提出の祭には丁寧な対応をしていただいたので、嬉しかったです。	農学部



参考資料

今回のアンケートを行うにあたり、学生に解答してもらった設問を記載しています。



平成24年度学生生活実態調査 ①基本編

設問

1. 基本的事項について

問1.【全員が対象です】

所属はどちらですか。

1. 学部 2. 大学院

問2.【問1で1と答えた人に尋ねます】

どの学部にも所属していますか。

1. 地域学部 2. 医学部 3. 工学部 4. 農学部

問3.【問1で2と答えた人に尋ねます】

どの研究科にも所属していますか。

1. 地域学研究科 —— (修士課程)
2. 医学系研究科 —— (修士課程、博士前期課程)
3. 医学系研究科 —— (博士後期課程(医学専攻を除く))
4. 医学系研究科 —— (博士課程-医学専攻)
5. 工学研究科 —— (博士前期課程)
6. 工学研究科 —— (博士後期課程)
7. 農学研究科 —— (修士課程)
8. 連合農学研究科 —— (博士課程)
9. 連合獣医学研究科

問4.【全員が対象です】

性別はどちらですか。

1. 男性 2. 女性

問5.【全員が対象です】

入学年度はいつですか。

1. 平成17年度以前 2. 平成18年度 3. 平成19年度 4. 平成20年度
5. 平成21年度 6. 平成22年度 7. 平成23年度 8. 平成24年度

2. 経済状況について(本人の収入状況)

【問6～問10は、全員が対象です】

問6. あなたの生活や勉学の費用を主として負担している人(主たる家計支持者)は誰ですか。

1. 父 2. 母 3. 本人 4. 配偶者 5. その他

※ 5と答えた方は、その内容を記入してください

[]

問7. 「問6」の家計支持者の年収はいくらですか。

1. 250万円未満 2. 250万円～500万円未満 3. 500万円～750万円未満 4. 750万円～1000万円未満
5. 1000万円～2000万円未満 6. 2000万円以上 7. わからない

問8. 直近1年間における平均的な1か月の収入はいくらですか。学部1年生については、6月までの3ヶ月の平均をお答えください。
選択肢に基づいて各項目ごとに回答してください。

収入合計 ()

1. 1万円未満 2. 1万円～3万円未満 3. 3万円～5万円未満 4. 5万円～7万円未満
5. 7万円～9万円未満 6. 9万円～11万円未満 7. 11万円～13万円未満
8. 13万円～15万円未満 9. 15万円以上

※1)～4)の選択肢は「収入合計」と同様です。

- 1) 家族等からの仕送り ()
2) 奨学金 ()
3) アルバイト収入 ()
4) その他 ()

問9. 直近1年間における平均的な1か月の支出の状況をお尋ねします。

選択肢に基づいて各項目ごとに回答してください。

支出合計 ()

1. 1万円未満 2. 1万円～3万円未満 3. 3万円～5万円未満 4. 5万円～7万円未満
5. 7万円～9万円未満 6. 9万円～11万円未満 7. 11万円～13万円未満
8. 13万円～15万円未満 9. 15万円以上

1) 雑貨(衣料等) ()

1. 5千円未満 2. 5千円～1万円未満 3. 1万円～3万円未満 4. 3万円～5万円未満
5. 5万円～10万円未満 6. 10万円～15万円未満 7. 15万円以上

※2)～9)の選択肢は「上記1)」と同様です。

- 2) 食費 ()
3) 住居費(家賃、光熱水料費含む) ()
4) 通学費(ガソリン代等を含む) ()
5) 修学費(教科書、参考書、公務員講座費等) ()
6) 課外活動費(サークル活動、ボランティア活動等) ()
7) 娯楽嗜好費(旅行を含む) ()
8) 通信費(携帯電話、インターネット等) ()
9) その他(上記に含まれない経費) ()

問10. あなたは、現在の自分の経済状態をどのように感じていますか。

1. 充分余裕がある 2. やや余裕がある 3. 普通 4. やや苦しい 5. 非常に苦しい

3. 住居・通学方法について

問11.【全員が対象です】

あなたの住居の種別はどれですか。

1. 自宅 2. アパート・マンション(専用のバス・トイレ・流し付) 3. アパート等(バス・トイレ・流しが共同利用)
4. 学寮 5. その他()

問12.【自宅通学者以外が対象です】

あなたは、現在の住居に満足していますか。

1. 非常に満足 2. 満足 3. 普通 4. やや不満足 5. 非常に不満足

問13.【「問12」の質問で4又は5と答えた人に尋ねます】

その理由は何ですか。(2つ選択)

1. 部屋が狭い
2. 家賃が高い
3. 建物が傷んで不潔である
4. 通学に不便
5. 環境が悪い
6. 家主・住人とのトラブル
7. 設備が悪い
8. 駐車場がない
9. その他

※ 9と答えた方は、その内容を記入してください

()

問14.【全員が対象です】

あなたの通学時間(片道)はどのくらいですか。

1. 5分未満
2. 5～10分未満
3. 10～30分未満
4. 30～60分未満
5. 60～90分未満
6. 90分以上

問15.【全員が対象です】

あなたの通学方法は何ですか。(乗継の場合は最も長い区間の手段を選んでください。)

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク
4. バス
5. 鉄道
6. 自家用車
7. その他

※ 7と答えた方は、その内容を記入してください

()

4. アルバイトについて

問16.【全員が対象です】

あなたは、この1年間にどの程度アルバイトをしましたか。

1. ほとんど毎日定期的にした
2. 週何日か定期的にした
3. 日曜日などの休日に限ってした
4. 長期休業期間中のみ重点的にした
5. たまに、必要に応じてした
6. 全くしなかった

問17.【「問16」の質問で1～5のいずれかと答えた人に尋ねます】

1)1年間に主にどんなアルバイトをしましたか。(3つまで選択)

1. 家庭教師
2. 学習塾講師
3. スーパー・コンビニ店員
4. ファミレス・ファーストフード店員
5. 4. 以外の飲食店店員
6. 引越し手伝い
7. 6. 以外の肉体労働
8. イベントスタッフ
9. 商品販売
10. 一般事務
11. ティーチングアシスタント、リサーチアシスタント
12. その他

※ 12と答えた方は、その内容を記入してください

()

2)1週間平均何時間くらいアルバイトをしましたか。

1. 3時間未満
2. 3～10時間未満
3. 10～15時間未満
4. 15～20時間未満
5. 20～25時間未満
6. 25時間以上

3)アルバイトの収入は何に使いましたか。または使う予定ですか。(2つ選択)

1. 雑貨(衣料等)
2. 食費
3. 住居費(家賃、光熱水料費含む)
4. 通学費(ガソリン代等を含む)
5. 修学費(教科書、参考書、公務員講座費等)
6. 課外活動費(サークル活動、ボランティア活動等)
7. 娯楽嗜好費(旅行を含む)
8. 通信費(携帯電話、インターネット等)
9. その他

※ 9と答えた方は、その内容を記入してください

()

5. 自宅または下宿等での生活について

問18.【問18～問22は、全員が対象です】

1)あなたは授業以外で、(予習・復習の他、宿題やレポート作成を含めて)1日平均何時間くらい勉強していますか。

1. 1時間未満
2. 1～2時間
3. 2～3時間
4. 3～4時間
5. 4時間以上

2)授業を含めると、1日平均何時間くらい勉強していますか。

1. 2時間未満
2. 2～3時間
3. 3～4時間
4. 4～5時間
5. 5～6時間
6. 6～7時間
7. 7～8時間
8. 8～9時間
9. 9～10時間
10. 10～11時間
11. 11～12時間
12. 12時間以上

問19. 授業以外で勉強する場所は、主にどこですか。

1. 自宅・下宿
2. 大学の自習室
3. 大学図書館
4. 研究室
5. その他

※ 5と答えた方は、その内容を記入してください

()

問20. 授業に関すること以外で1日平均何時間くらい読書していますか。

1. 1時間未満
2. 1～2時間
3. 2～3時間
4. 3～4時間
5. 4時間以上

問21. 1日平均何時間くらいテレビを見ていますか。

1. 1時間未満
2. 1～2時間
3. 2～3時間
4. 3～4時間
5. 4時間以上

問22. 1日平均何時間くらいインターネット、メールをしていますか。

1. 1時間未満
2. 1～2時間
3. 2～3時間
4. 3～4時間
5. 4時間以上
6. 接続していない

6. 課外活動について

問23.【全員が対象です】

あなたは、平成24年7月1日現在、サークル等(同好会を含む)に入っていますか。該当する主なものについて回答してください。

1. 学内の体育系サークル等に参加
2. 学内の文化系サークル等に参加
3. 学外のサークル等に参加
4. 学内及び学外のサークル等に参加
5. 以前加入していたが、現在加入していない
6. 加入したことがない

問24.【「問23」の質問で1～5のいずれかと答えた人に尋ねます】

1)あなたがサークル等に入っている理由は何ですか。(2つ選択)

1. 活動内容に興味があるから
2. 集団活動に魅力があるから
3. 友人を得るため
4. 知識・資格を得るため
5. 先輩・友人に勧められて
6. 健康増進のため
7. 自分の特技を伸ばすため
8. 就職に有利なため
9. その他

※ 9と答えた方は、その内容を記入してください

()

2)あなたは、サークル等で1週間平均何時間くらい活動していますか。

1. 2時間未満
2. 2～5時間未満
3. 5～10時間未満
4. 10～15時間未満
5. 15～20時間未満
6. 20時間以上

3)サークル活動と学業の関係はどうか。

1. 学業をかなり犠牲にしている
2. 学業を少し犠牲にしている
3. 学業と両立している

問25.【全員が対象です】

ボランティア活動について尋ねます。

1)あなたは、最近1年間にボランティア活動をしたことがありますか。またはしていますか。

1. したことがある 2. している 3. したことがない

2)【上記1)の質問で1または2と答えた人に尋ねます】

① それは、どのような活動分野のものでしたか。

1. 社会福祉関係 2. 教育、文化、学術関係 3. 国際交流・協力関係 4. 自然環境保護関係
5. 保健・衛生関係 6. 地域振興関係 7. その他

※ 7と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

② この1年間の活動日数はどのくらいでしたか。

1. 3日以内 2. 4～7日 3. 8～14日 4. 15～30日 5. 31日以上

3)【上記1)の質問で3と答えた人に尋ねます】

今後、機会があれば活動してみたいと思いますか。

1. 機会があればしたい 2. したいが暇がない 3. 今は特段興味がない 4. したいとは思わない

4)【上記3)の質問で1または2と答えた人に尋ねます】

活動するとすれば、どのような活動分野ですか。

1. 社会福祉関係 2. 教育、文化、学術関係 3. 国際交流・協力関係 4. 自然環境保護関係
5. 保健・衛生関係 6. 地域振興関係 7. その他

※ 7と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

7. 人間関係について

問26.【全員が対象です】

あなたは、どの程度付き合える友人がいますか。

1. 互いに希望や悩みを打ち明けられる友人がいる 2. 比較的親密に付き合える友人がいる
3. 一緒に話したり、遊んだりする程度の友人がいる 4. 日常の会話や、挨拶を交わす程度の友人がいる 5. 友人はいない

問27.【「問26」の質問で1または2と答えた人に尋ねます】

それはどのような友人ですか。(2つ選択)

1. 自分の学部・学科・研究科等の仲間 2. 中学校・高等学校時代の仲間 3. 下宿・学寮や近所の仲間
4. サークル等の仲間 5. アルバイトの仲間 6. 遊びの仲間 7. その他

※ 7と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問28.【全員が対象です】

あなたは、教員と親しく話しあったり、または相談したりすることがありますか。

1. ある 2. ない

問29.【「問28」の質問で1と答えた人に尋ねます】

その内容は、どのようなものですか。(2つ選択)

1. 学業・成績 2. 就職等 3. 人間関係・恋愛等 4. その他

※ 4と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問30.【「問28」の質問で2と答えた人に尋ねます】

それはどのような理由によりますか。

1. 話や相談をしたいが、その機会がない 2. 何となく話しにくい 3. 必要がない 4. その他

※ 4と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問31.【全員が対象です】

あなたは、本学の教員にどんなことを最も期待しますか。

1. 学問の重要性、楽しさを教えてほしい 2. 講義内容をもっと充実してほしい 3. 研究の成果を授業に還元してほしい
4. 休講をなくしてほしい 5. 学生と日常的、個人的な関わりや対話の場を持ってほしい

6. 学問だけでなく、人生の指導者にもなってほしい 7. その他

※ 7と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問32.【全員が対象です】

あなたは、保護者と親しく話しあったり、又は相談したりすることがありますか。

1. ある 2. ない

問33.【「問32」の質問で1と答えた人に尋ねます。】

その内容は、どのようなものですか。(2つ選択)

1. 学業・成績 2. 就職等 3. 人間関係・恋愛等 4. 経済的なこと 5. その他

※ 5と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問34.【「問32」の質問で2と答えた人に尋ねます】

それはどのような理由によるのですか。

1. 話や相談をしたいが、その機会がない 2. なんとなく話しにくい 3. 必要がない 4. その他

※ 4と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

8. 学生生活について

問35.【全員が対象です】

あなたは、現在の学生生活に満足していますか。

1. 非常に満足 2. 満足 3. 普通 4. やや不満足 5. 非常に不満足 6. わからない

問36.【「問35」の質問で4または5と答えた人に尋ねます】

その理由は何ですか。(2つ選択)

1. 授業が面白くない 2. 気に入ったサークル等がない 3. 教員との接触の機会が少ない 4. 友人が出来ない
5. 大学の施設・設備が良くない 6. 学内に活気がない 7. 鳥取大学に魅力がない 8. その他

※ 8と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問37.【全員が対象です】

あなたは、現在学生生活の中でどのような点に最も重点をおいて行動していますか。

1. 勉強・研究をする
2. 課外活動をする
3. 教員の指導を受ける
4. 就職の準備をする
5. 友人を得て豊かな人間関係を結ぶ
6. レジャー等生活を楽しむ
7. アルバイトをする
8. 勉強も楽しみもほどほどにする
9. 特にない
10. その他

※ 10と答えた方は、その内容を記入してください

{ }

問38.【全員が対象です】

あなたは、構内全面禁煙が実施されていることを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問39.【全員が対象です】

あなたは、煙草を習慣的に吸いますか。

1. 吸う
2. 吸わない

問40.【全員が対象です】

あなたは、構内全面禁煙をどう思いますか。

1. 支持する
2. 支持しない

問41.【全員が対象です】

鳥取の印象について尋ねます。該当すると思うものを3つまで選んで回答してください。

1. 住んでいて好きだ(住みやすい)
2. 自然環境がすばらしい
3. 食べ物がおいしい
4. ずっと住みたい
5. 住んでいて嫌だ(住みにくい)
6. 不便である
7. 冬が大変だ
8. 早く別の所へ行きたい
9. その他

平成24年度学生生活実態調査 ②学生支援体制編

設問

1. 経済支援体制について

問1.【全員が対象です】

あなたは、なんらかの奨学金を受けていますか。

1. 日本学生支援機構奨学金を受けている
2. 日本学生支援機構以外の奨学金を受けている
3. 申請したが不採用になった
4. 申請しなかった

問2.【全員が対象です】

あなたは、平成24年度前期の授業料免除を申請しましたか。

1. 申請した
2. 申請しなかった

問3.【「問2」で2と答えた方に尋ねます。】

申請しなかった主な理由は何ですか。

1. 制度を知らなかった
2. 制度は知っているが免除基準[学力・経済基準]に該当しないと思った
3. 経済的に免除の必要がない
4. その他

※ 4と答えた方は、その内容を記入してください

{ }

問4.【全員が対象です】

授業料免除について要望することがありますか。(2つ選択)

1. 免除の条件を緩和して欲しい
2. 免除の枠を広げて欲しい
3. 事務手続きを簡略化して欲しい
4. 特に希望はない
5. その他

※ 5と答えた方は、その内容を記入してください

{ }

2. 学習支援体制について

問5.【全員が対象です】

あなたの入学時の大学への期待感及びあなた自身の学習意欲について、現在の心境を尋ねます。

1) 大学への期待感は、どうですか。

1. 期待通りである
2. どちらともいえない
3. 期待はずれである

※ 3と答えた方は、その理由を記入してください

{ }

2) 学習意欲は、どうですか。

1. 高まっている
2. どちらともいえない
3. 減退している

※ 3と答えた方は、その理由を記入してください

{ }

問6.【全員が対象です】

鳥取大学のカリキュラムについてどう思いますか

1. 期待通りである
2. どちらともいえない
3. 期待はずれである

問7.【「問6」で2または3と答えた方に尋ねます】

カリキュラムに不満があるとすれば、どういう点にありますか。

1)【学部学生の人に尋ねます】

全学共通科目の不満理由は何ですか。(2つ選択)

1. 必修科目が多すぎる 2. 科目選択の幅が少ない 3. 受けたい科目がない
4. 受けたい科目と必修科目が重複している 5. 将来役立つ科目が多い 6. その他
※ 6と答えた方は、その内容を記入してください

{ }

2)【学部学生の人に尋ねます】

専門科目の不満理由は何ですか。(2つ選択)

1. 必修科目が多すぎる 2. 科目選択の幅が少ない 3. 受けたい科目がない
4. 受けたい科目と必修科目が重複している 5. 将来役立つ科目が多い 6. その他
※ 6と答えた方は、その内容を記入してください

{ }

3)【大学院学生の人に尋ねます】

大学院の授業科目の不満理由は何ですか。(2つ選択)

1. 必修科目が多すぎる 2. 科目選択の幅が少ない 3. 受けたい科目がない
4. 受けたい科目と必修科目が重複している 5. 将来役立つ科目が多い 6. その他
※ 6と答えた方は、その内容を記入してください

{ }

問8.【学部学生の人に尋ねます】

「コミュニケーション英語」及び「情報リテラシ」以外の授業で必携パソコンを利用していますか。

1. 全く利用していない 2. 利用している

※ 2と答えた方は、主に利用している講義名・演習名・実験名を記入してください

講義名 { }

演習名 { }

実験名 { }

問9.【全員が対象です】

大学内でインターネットや電子メールを利用する際のネットワーク環境について満足していますか。

1. 満足している 2. 不満である

※ 2と答えた方は、その理由を記入してください

{ }

問10.【全員が対象です】

図書館の利用について、図書館に求めるものは何ですか。

1. 開館時間を長くしてほしい 2. 蔵書を増やしてほしい 3. 電子メディアの充実 4. その他

※ 4と答えた方は、その内容を記入してください

{ }

問11.【全員が対象です】

大学生協の利用について、1週間にどの程度利用していますか。

1. ほとんど毎日利用している 2. 週に2~3回 3. 週に1回程度 4. 利用していない

問12.【全員が対象です】

学内の事務職員の対応はどうか。

1. よい 2. 普通 3. 悪い 4. わからない

問13.【全員が対象です】

事務の窓口サービスについて、最も改善すべき点は、どんなところですか。

1. 窓口の応接態度 2. 事務職員の知識 3. 事務処理の迅速化 4. その他

※ 4と答えた方は、その内容を記入してください

{ }

問14.【全員が対象です】

大学のキャンパス環境について尋ねます。(米子地区の人は、米子キャンパスの環境について回答してください。)

1. 非常に満足 2. 満足 3. 普通 4. やや不満足 5. 非常に不満足

問15.【全員が対象です】

鳥取大学の施設等で整備充実して欲しいのはどれですか。()内に具体的に記入してください(3つ選択)

1. 講義室・実験室・研究室 { }

2. 図書館 { }

3. 控室・談話室 { }

4. 福利厚生施設(食堂・売店等) { }

5. 保健管理センター { }

6. 自習室 { }

7. 体育・課外活動施設 { }

8. ホール・会議室 { }

9. 駐輪・駐車場 { }

10. 就職情報資料室 { }

11. その他 { }

3. 生活支援体制について

A. 学生相談について

問16.【全員が対象です】

あなたは、鳥取地区に「なんでも相談」米子地区に「学生相談窓口」のあることを知っていましたか。

1. 知っている 2. 知っているが、利用したことがない 3. 知らない

*「なんでも相談」は、共通教育棟B棟1階の学生部生活支援課、「学生相談窓口」は、医学部旧保健学科棟1階の学務・研究課にあります。また、各学部の学生相談員にも相談できます。

問17.【全員が対象です】

本学では、平成23年11月から「学生の電話、Webによるメンタルヘルス・健康サポート24」を外部委託により開設していますが、このことを知っていましたか。

1. 知っている 2. 知っているが、利用したことがない 3. 知らない

問18.【全員が対象です】

鳥取大学学生相談ホームページについて尋ねます。あなたは、学生相談室ホームページを利用したことがありますか。

1. 利用したことがある 2. 相談したいことがあれば、利用する 3. 利用しない 4. 知らない

※ 3と答えた方は、その理由を記入してください

[]

*修学及び進路に関する事項については掲示板形式になっています。対人関係、生活及び心理的な悩みに関する相談は、メール等で回答します。

URL : <http://www.counselor.zim.tottori-u.ac.jp/> E-mail : soudan@adm.tottori-u.ac.jp

問19.【全員が対象です】

あなたは、ハラスメントの防止に関する規則があることを知っていますか。

1. 内容を知っている 2. 内容は知らないが、あることは知っている 3. 知らない

問20.【全員が対象です】

あなたは、ハラスメント相談員がいることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問21.【全員が対象です】

あなたは、学生にも懲戒処分があり、その規則があることを知っていますか。

1. 内容を知っている 2. 内容は知らないが、あることは知っている 3. 知らない

問22.【全員が対象です】

あなたは、緊急連絡先(学生相談窓口を含む)QRコードがあることを知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない

*緊急連絡先QRコード



B. 健康について

問23.【全員が対象です】

現在、あなたの健康状態は、自分でどう思っていますか。

1. 良好 2. 普通 3. 良くない

問24.【全員が対象です】

保健管理センターの利用について尋ねます。

1)あなたは、今年度の健康診断を受けましたか。

1. 受けた 2. 受けなかった

2)【上記1)で2と答えた人に尋ねます】

その主な理由は何ですか。

1. 知らなかった 2. 忘れていた 3. 授業があった 4. サークル活動があった 5. 就職活動があった
6. アルバイトがあった 7. 受けるのが面倒だから 8. 健康なので受ける必要がないと思った 9. その他

※ 9と答えた方は、その内容を記入してください

[]

問25.【全員が対象です】

1)あなたは、現在、何か不安や悩みがありますか。

1. 何もない 2. 誰もが感じる程度のもはある 3. やや深刻なものがある 4. 深刻なものがある

2)【上記1)の質問で3または4と答えた方に尋ねます】

その主な原因と思うものは何ですか。(3つ選択)

1. 身体的問題 2. 精神的問題 3. 学業・単位 4. 転学部・転学科 5. 進路・就職 6. 課外活動
7. 人生・生き方 8. 異性 9. 対人関係(8以外) 10. 性格・適性 11. 家族・家庭 12. 経済的問題 13. その他

※ 13と答えた方は、その内容を記入してください

[]

問26.【全員が対象です】

あなたは、自分の不安や悩みについてどのように対処していますか。(3つ選択)

1. 自分で解決 2. 家族に相談 3. 友人・先輩に相談 4. 教職員に相談 5. 保健管理センターで相談 6. その他

※ 6と答えた方は、その内容を記入してください

[]

問27.【全員が対象です】

あなたは、保健管理センターでカウンセリングが受けられることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

4. 就職支援体制について

【問28～問32は、全員が対象です】

問28. あなたは、将来どのような職業に就きたいと思いますか。(2つ選択)

1. 大学・官公庁等の教育・研究職 2. 教員 3. 1及び2以外の公務員 4. 企業等の技術・研究職
5. 企業等の総合職・営業職・一般職 6. 専門職(医師・薬剤師等の特別な資格を要する職業)
7. マスコミ関係(新聞社・放送関係) 8. 自営業(家業を継ぐ場合も含む) 9. 芸術・スポーツ関係
10. フリーター 11. まだ考えていない 12. その他

※ 12と答えた方は、その職業を記入してください

[]

問29. あなたが就職する場合、どのような点を重視して選択しますか。(3つ選択)

1. 仕事の内容 2. 自分の能力・専門知識が生かせる 3. 社会に貢献 4. 安定 5. 知名度 6. 将来性
7. 国際性がある 8. 技術力があり研究開発に熱心 9. 収入 10. 休みが多く余裕がある 11. 人材育成に熱心
12. 女性が活躍している 13. 福利厚生施設が充実 14. 企業の目的・製品に興味がある 15. 勤務地が出身地に近い
16. 勤務地が大都市 17. 勤務地の生活環境が良い 18. 親の希望を配慮する 19. その他

※ 19と答えた方は、その内容を記入してください

[]

問30. あなたが就職するとした場合、勤務地はどこを希望しますか。(2つ選択)

1. 鳥取県 2. 中国・四国地区(鳥取県を除く) 3. 近畿地区 4. 東海・北陸地区 5. 東京地区 6. 関東地区(東京を除く)
7. 東北・北海道地区 8. 九州・沖縄地区 9. 海外 10. 特にこだわらない

問31. あなたは、就職活動に関して、大学側にどのようなことを最も期待しますか。

1. 今のままでよい 2. 教員がもっと積極的に助言・指導・斡旋をしてほしい
3. キャリアセンターがもっと積極的な情報提供やガイダンス等を実施して欲しい
4. 自己開拓するので、特に期待しない 5. わからない 6. その他

※ 6と答えた方は、その内容を記入してください

[]

問32. キャリアセンターを利用したことがありますか。

1. 利用したことがある 2. 知っているが利用したことはない 3. 知らない

5. 進学について

問33. 【学部学生の人に尋ねます】

あなたは、卒業後、どのような進路を考えていますか。

1. 本学大学院に進学 2. 他大学大学院に進学 3. 就職する 4. 家業に従事する 5. 自分で事業をする
6. 資格取得のための勉強を続ける 7. 現在考慮中 8. まだ全然考えていない

問34. 【「問33」の質問で1と答えた人に尋ねます】

【学部学生のみ回答】

本学大学院で研究を進める上で、大学に要望することがありますか。(2つ選択)

1. 奨学金の額及び枠の増大 2. スタッフの充実 3. 設備・環境の充実 4. 研究費・旅費の補助
5. TA、RAの採用枠の拡大 6. 国内外の大学との研究交流 7. 企業・官公庁との研究交流 8. その他

※ 8と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問35. 【「問33」の質問で2と答えた人に尋ねます】

【学部学生のみ回答】

他大学の大学院を希望する理由は何ですか。(2つ選択)

1. 他大学大学院の方が、社会的評価が高いから
2. 他大学大学院の方が、専門を活かせる職業に就職できる可能性が高いと思うから
3. 他大学大学院の方が、より高度な研究が行えると思うから
4. 鳥取大学の教員に魅力を感じないから
5. 自宅から通えるから
6. その他

※ 6と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問36. 【「問33」の質問で3～6のいずれかと答えた人に尋ねます】

【学部学生のみ回答】

大学院へ進学を希望しない理由は何ですか。

1. 経済的理由 2. 専門の勉強は学部で充分 3. 進学するメリットが感じられない 4. その他

※ 4と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

問37. 【修士・博士前期課程大学院学生の人に尋ねます】

あなたは、大学院修了後、どのような進路を考えていますか。

1. 本学博士後期課程に進学する 2. 他大学博士後期課程に進学する 3. 就職する 4. 家業に従事する
5. 自分で事業をする 6. 資格取得のための勉強を続ける 7. 現在考慮中 8. まだ全然考えていない

問38. 【「問37」の質問で3～6のいずれかと答えた人に尋ねます】

【修士・博士前期課程大学院学生のみ回答】

博士後期課程へ進学を希望しない理由は何ですか。

1. 経済的理由 2. 専門の勉強は充分である 3. 進学するメリットが感じられない 4. その他

※ 4と答えた方は、その内容を記入してください

〔 〕

6. その他

問39. 【全員が対象です】

他の設問と重複しますが、大学及び学生生活全般について、もう一度尋ねます。

鳥取大学に最も要望したいことは何ですか。(3つ選択)

その他意見・要望があれば、自由記述欄に記入してください。

1. カリキュラムの改革 2. 授業方法の改善 3. 教育スタッフの充実 4. 単位認定や試験方法の改善
5. 講義室・実験室の充実 6. 図書館の充実 7. 福利厚生施設の充実 8. 体育・課外活動施設の充実
9. 駐輪・駐車場の充実 10. 自習室の充実 11. 院生研究室等の充実 12. 奨学金・授業料免除等の充実
13. 就職対策の充実 14. 学生相談体制及び保健管理センターの充実 15. 大学祭等の学生行事への支援

自由記述欄

〔 〕

問40. 【全員が対象です】

「基本編」の「問31」で本学の教員にどんなことを最も期待するかを尋ねましたが、他に本学の教員に対しての意見・要望があれば自由に記入してください。

〔 〕

問41. 【全員が対象です】

「学生支援体制編」の「問12」及び「問13」で本学の事務職員の対応等を尋ねましたが、他に本学の事務職員に対しての意見・要望があれば自由に記入してください。

〔 〕